

山形大学農学部

2015年報

2016年4月

2015年報 目次

1. 管理運営

- (1) 平成27年度山形大学農学部概況（主な行事日程等）…………… 1
- (2) 農学部機構図…………… 3
- (3) 農学部現員表…………… 3
- (4) 職員組織…………… 4
- (5) 農学部各種委員会一覧…………… 6
- (6) 平成27年度農学部における発行印刷物一覧…………… 7

2. 教育・研究活動

- (1) 平成28年度入学試験実施状況…………… 8
- (2) 平成27年度在学者数…………… 8
- (3) 卒業・修了後の進路…………… 9
- (4) 平成27年度大学院農学研究科修了者について…………… 10
- (5) 教員の活動実績
 - ① 研究活動…………… 12
 - ② 学会・社会活動…………… 44
 - ③ 産学官など国内他機関との連携研究実績…………… 75
 - ④ 海外研究者との研究活動…………… 82
 - ⑤ 研究員等の受け入れ状況…………… 88
 - ⑥ その他…………… 90

3. 国際交流状況について

- (1) 学部間国際交流協定締結大学一覧…………… 92
- (2) 大学間国際交流協定締結大学一覧（農学部が提案したもの）…………… 93
- (3) 外国出張一覧…………… 93
- (4) その他の国際交流の実施…………… 95

4. 社会活動・地域貢献

- (1) 地域連携推進室に寄せられた事項一覧…………… 97
- (2) 平成27年度社会・地域等の要請により派遣した職員一覧…………… 98
- (3) 平成27年度他大学等の非常勤講師として派遣した職員一覧…………… 101
- (4) 外部資金等の受け入れ状況
 - ・ 平成27年度科学研究費補助金交付決定一覧・分担金一覧…………… 103
 - ・ 平成27年度奨学寄附金・受託研究・共同研究の受け入れ状況…………… 105
- (5) 公開講座等大学開放実施状況…………… 106

5. フィールド科学センターの概況等…………… 109

6. 農学部図書館の概要等…………… 124

7. 大型設備の設置状況…………… 125

8. 鶴岡キャンパスの名称・所在地、土地・建物の概要、配置図…………… 126

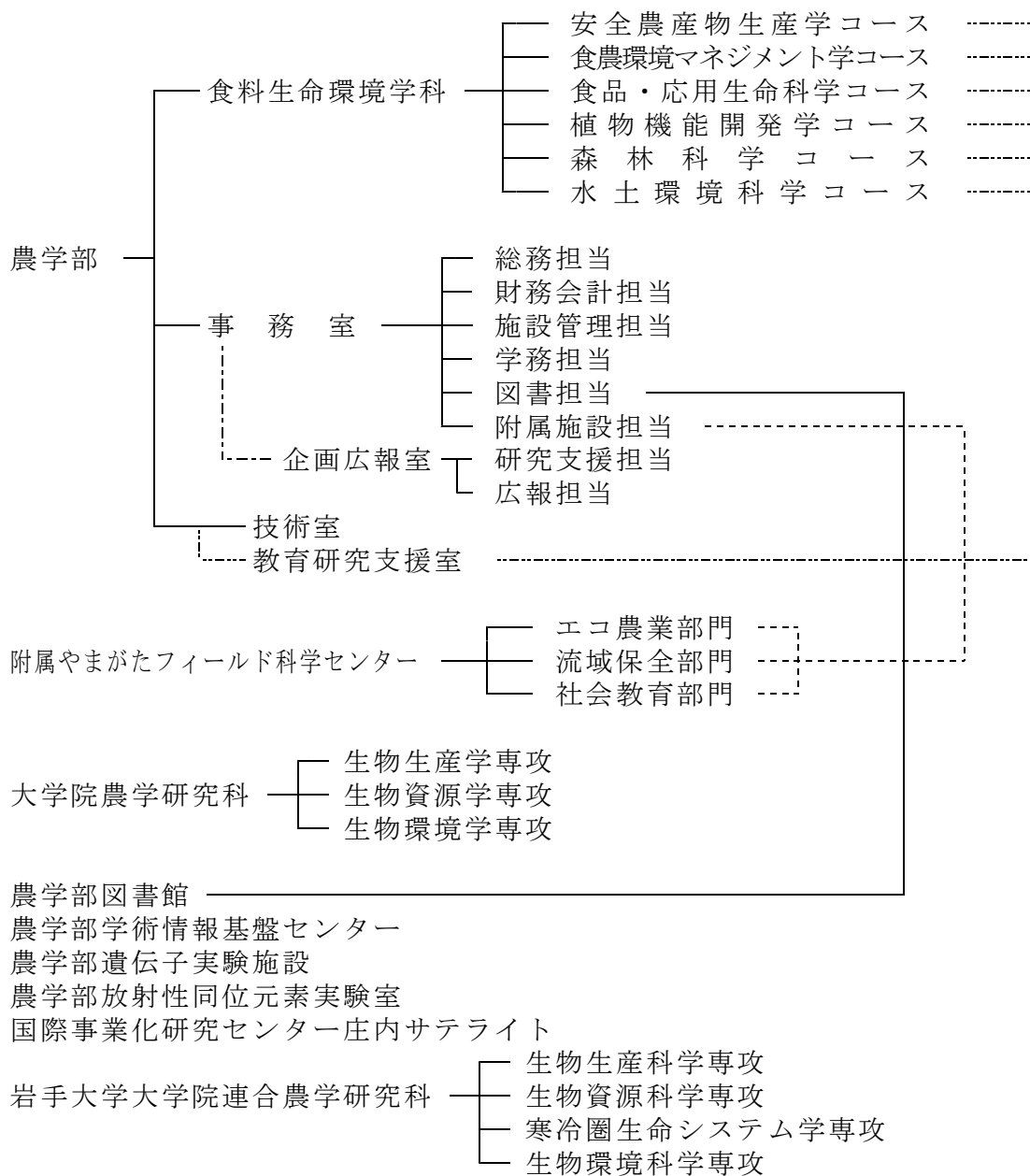
1. 管理運営

(1) 平成27年度山形大学農学部概況（主な行事日程等）

- 27. 4. 10 市民交流農園開園式
- 27. 4. 16 鶴岡南高等学校 SSHガイダンス基礎実験開始
- 27. 5. 6 演習林入山式
- 27. 5. 16 わんぱく農業クラブ①
- 27. 5. 20 ボゴール農科大学と学部間国際交流協定
- 27. 5. 23 公開講座（～7月4日）
- 27. 5. 25 ホームカミングデー
- 27. 6. 10 山形大学農学部・山形県農林水産部連携推進協議会総会
- 27. 6. 13 わんぱく農業クラブ②
- 27. 6. 25 山形大学農場市
- 27. 6. 26 高校教員との情報交換会
- 27. 6. 30 農学部地域産学官連携協議会
- 27. 7. 4 3年次編入学試験、わんぱく農業クラブ③
- 27. 7. 7 庄内総合支庁との情報交換会
- 27. 7. 11 森の学校①
- 27. 7. 24 庄内稲作を語る会
- 27. 8. 1 農学部オープンキャンパス（小白川キャンパス）
- 27. 8. 2 農学部オープンキャンパス（鶴岡キャンパス）
- 27. 8. 2 女性研究者裾野拡大セミナー2015 in 鶴岡「農学部女子！研究者になる！！それってどんな？何するの？」
- 27. 8. 3 夏期セミナー
- 27. 8. 8 わんぱく農業クラブ④
- 27. 8. 17 （独）国際協力機構（JICA）の地域別研修「アフリカ地域（英語圏）稲作収穫後処理」コース（～9月25日）
- 27. 9. 5 ひらめき☆ときめきサイエンス「生物の多様性を考える」
- 27. 9. 15 山形大学ビーチサッカー大会
- 27. 9. 19 わんぱく農業クラブ⑤
- 27. 10. 1 農学紹介講座「農学の夕べ」（～11月26日）
- 27. 10. 3 山大農場フェスティバル
- 27. 10. 10 わんぱく農業クラブ⑥
- 27. 10. 15 大学院入学試験
- 27. 10. 17 森の学校②
- 27. 10. 22 農学部留学生コミュニティ日本文化研修
- 27. 10. 22 鶴岡工業高等専門学校・山形大学工学部・山形大学農学部三機関連携情報交換会
- 27. 10. 27 農学部研究シーズ説明会・ビジネスマッチ開催
- 27. 10. 28 市民交流農園秋の芋煮交流会
- 27. 10. 30 留学生交通安全教室
- 27. 11. 4 防火訓練
- 27. 11. 5 ビジネスマッチ東北2015
- 27. 11. 5 農学部長杯ソフトボール大会
- 27. 11. 7 鶴寿祭（～11月8日）
- 27. 11. 13 日本酒シンポジウム「Oh!洒落に日本酒 de Night 3時限目」

27. 11. 14 わんぱく農業クラブ⑦
27. 11. 17 山形大学農学部・県立農業大学校・県内農業高校連携シンポジウム「第6回農業・食料・環境を考える山形県民シンポジウムー私たちの挑戦ー」
27. 11. 19 推薦入学試験
27. 12. 1 おしゃべりな畑講演会「食のかけはし・一食一会」
27. 12. 3 大学院入学試験（2次募集）
27. 12. 8 農林水産部連携推進協議会とのスキルアップ研修会
27. 12. 10 山形大学学生フォーラム in 鶴岡
27. 12. 13 「知の拠点庄内」第5回シンポジウム『庄内から未来を語る-若者からの提言-』
27. 12. 18 女性の健康セミナー
27. 12. 25 学長・理事との情報交換会
27. 12. 25 学長・学部長と教職員とのワークライフバランス懇談会
28. 1. 23 「おしゃべりな畑」公開講座 ドキュメンタリー映画「100年ごはん」映写会
28. 1. 26 寄附講座(食料自給圏「スマート・テロワール」形成講座)開設発表
28. 1. 28 山形大学オリジナル純米大吟醸酒「燦樹(きらめき)2016」試飲会
28. 1. 29 農学部・東北森林管理局連携シンポジウム「Wood JobでGood Job!-これから森で働く皆さんへ-」
28. 1. 30 森の学校③
28. 2. 9 山形大学「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」シンポジウム
28. 2. 10 山形大学農学部・鶴岡市連携事業「庄内水田フォーラム2016」
28. 2. 10 安全農産物生産学コース・食農環境マネジメント学コース卒業論文、大学院農学研究科・生物生産学専攻修士論文発表一般公開
28. 2. 25 個別学力試験（前期日程）
28. 3. 11 5年目のキャンドルナイト
28. 3. 15 慶應義塾大学総合政策学部、環境情報学部、大学院政策・メディア研究科と単位互換に関する協定
28. 3. 17 学位記授与式
28. 3. 18 農学部地域連携推進協議会

(2) 農学部機構図



(3) 農学部現員表

(平成28年3月31日現在)

	教 員				その他の職員	合 計
	教 授	准教授	助 教	計		
現 員	30	29	4	63	58	121

(4) 職員組織

(平成28年3月31日現在)

学 部 長 夏 賀 元 康
副 学 部 長 林 田 光 祐
副 学 部 長 村 山 秀 樹

食料生命環境学科

学 科 長	小 沢 互
安全農産物生産学コース主任	堀 口 健 一
食農環境マネジメント学コース主任	岩 鼻 通 明
食品・応用生命科学コース主任	豊 増 知 伸
植物機能開発学コース主任	村 山 哲 也
森林科学コース主任	芦 谷 竜 矢
水土環境科学コース主任	奥 山 武 彦

安全農産物生産学コース

教 授	夏 賀 元 康
教 授	西 澤 隆
教 授	藤 井 弘 志
教 授	平 智
教 授	堀 口 健 一
准教授	小笠原 宣 好
准教授	角 田 憲 一
准教授	長 谷 修
准教授	小 林 隆
准教授	片 平 光 彦
准教授	森 静 香
准教授	佐 藤 智
准教授	松 山 裕 城
助 教	松 本 大 生

食農環境マネジメント学コース

教 授	岩 鼻 通 明
教 授	小 沢 互
教 授	角 田 毅
准教授	家 串 哲 生
准教授	藤 科 智 海
准教授	渡 辺 理 絵
助 教	保 木 本 利 行

食品・応用生命科学コース

教 授	三 橋 涉
教 授	小 関 卓 也
教 授	豊 増 知 伸
教 授	永 井 毅
教 授	木 村 直 子
教 授	加 来 伸 夫
教 授	塩 野 義 人
准教授	渡 辺 昌 規

植物機能開発学コース

教 授	村 山 哲 也
教 授	俵 谷 圭 太 郎
教 授	村 山 秀 樹
教 授	江 頭 宏 昌
准教授	程 為 国
准教授	笹 沼 恒 男
准教授	服 部 聡
准教授	及 川 彰
准教授	星 野 友 紀
助 教	網 干 貴 子

森林科学コース

教授	野堀嘉裕
教授	高橋孝悦
教授	森茂太
教授	林田光祐
教授	芦谷竜矢
准教授	柳原敦
准教授	菊池俊一
准教授	小川三四郎
准教授	林雅秀
准教授	早尻正宏
准教授	江成広斗

水土環境科学コース

教授	藤井秀人
教授	奥山武彦
教授	安中武幸
教授	渡部徹也
准教授	石川雅也
准教授	花山奨哉
准教授	渡邊一哉
助教	梶原晶彦

附属やまがたフィールド科学センター

エコ農業部門

教授	浦川修司
准教授	池田和生
准教授	佐々木由佳

流域保全部門

准教授	ロペス ラリー
助教	梶原晶彦

(兼任：食料生命環境学科)

社会教育部門

教授	金成學
教授	小沢互

(兼任：食料生命環境学科)

准教授	家串哲生
-----	------

(兼任：食料生命環境学科)

事務職員

事務長	滝口仁
副事務長	舟橋信治
総務担当上席係長	篠塚清幸
研究支援担当係長	遠藤文武
財務会計担当上席係長	齋藤敏宏
施設管理担当係長	河野秀之
学務担当上席係長	菅原一彰
附属施設担当係長	池田正憲
図書担当係長	安藤幸子

(5) 農学部各種委員会一覧

- ・ 農学部運営会議 (H22. 4. 1 設置)
- ・ 農学部教員人事委員会 (H22. 4. 1 設置)
- ・ 農学部コース主任・教育ディレクター会議 (H23. 4. 1 設置)
- ・ 農学部選挙管理委員会 (S28. 2.16 設置)
- ・ 農学部利益相反マネジメント委員会 (H24. 5.24 設置)
- ・ 農学部国際交流委員会 (H 5.11.18 設置)
- ・ 鶴岡地区事業場安全衛生委員会 (H16. 4. 1 設置)
- ・ 農学部遺伝子実験室運営委員会 (H21.10. 1 設置)
- ・ 農学部放射性同位元素実験室運営委員会 (H 8. 7. 1 設置)
- ・ 農学部キャンパス・ハラスメント防止対策委員会 (H17. 7. 1 設置)
- ・ 農学部・農学研究科運営協議会 (S49.10.25 設置)
- ・ 農学部目標計画・評価分析委員会 (H22. 4. 1 設置)
- ・ 農学部EM・広報委員会 (H22. 4. 1 設置)
- ・ 農学部予算委員会 (H 4. 4. 1 設置)
- ・ 農学部学術情報基盤センター運営委員会 (H21.10. 1 設置)
- ・ 農学部学務委員会 (H 4. 4. 1 設置)
- ・ 農学部入学試験実施委員会 (S53. 5. 1 設置)
- ・ 農学部FD委員会 (H25. 4. 1 設置)
- ・ 附属やまがたフィールド[®]科学センター運営委員会 (H18. 7. 1 設置)
- ・ 農学部図書館運営委員会 (H21.10. 1 設置)
- ・ 農学部教育支援室運営委員会 (H22. 4. 1 設置)
- ・ 連合農学研究科代議員 (H 2. 6. 8 設置)
- ・ 学生相談室運営会議 (H27. 4. 1 設置)
- ・ 農学部食品・応用生命科学コース設置検討委員会 (H27. 6.25 設置)

(6) 平成27年度農学部における発行印刷物一覧

I 広報誌

- 1 山形大学農学部案内（2015年版）
受験生や関係高等学校、企業への広報関係誌
- 2 農学部研究シーズ集
農学部全教員の主要な研究テーマを紹介した民間企業等を対象とした冊子体

II 自己点検・評価報告書等

- 1 山形大学農学部2014年報

III 教育関係広報活動・報告書等

（学生向け冊子）

- 1 山形大学農学部・山形大学大学院農学研究科学生便覧
学部・大学院学生向けの教育研究の案内

（報告書等）

- 1 平成27年度学外実習（インターンシップ）実施報告書
- 2 学位論文抄録集

2. 教育・研究活動

(1) 平成28年度入学試験実施状況(外国人留学生を除く。)

○ 農学部入学試験

区分・学科	入学定員	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数	
		男	女	男	女	男	女	男	女
推薦入試									
食料生命環境学科	30	40	30	40	30	15	18	15	18
小計	30	40	30	40	30	15	18	15	18
一般入試(前期)									
食料生命環境学科	95	179	143	173	136	66	48	63	44
小計	95	179	143	173	136	66	48	63	44
一般入試(後期)									
食料生命環境学科	30	93	79	93	79	16	22	10	9
小計	30	93	79	93	79	16	22	10	9
合計	155	312	252	306	245	97	88	88	71

○ 農学部3年次編入学試験

学 科	入学定員	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数	
		男	女	男	女	男	女	男	女
食料生命環境学科	若干人	3	7	3	7	1	2	1	2
合計		3	7	3	7	1	2	1	2

○ 大学院農学研究科入学試験

専 攻	入学定員	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数	
		男	女	男	女	男	女	男	女
生物生産学専攻	14	7	2	7	2	5	2	4	2
生物資源学専攻	16	3	5	3	5	3	5	3	5
生物環境学専攻	12	5	4	5	4	4	4	4	4
合計	42	15	11	15	11	12	11	11	11

(2) 平成27年度 在学者数(外国人留学生を除く。平成27年5月1日現在)

○ 学 部

学 科	入学定員	現 員								合 計
		1年次		2年次		3年次		4年次		
		男	女	男	女	男	女	男	女	
食料生命環境学科	155	85	70	79	83	89	71	97	80	654
生物生産学学科	55							2	0	2
生物資源学学科	50							0	0	0
生物環境学学科	50							2	1	3
合計		85	70	79	83	89	71	101	81	659

○ 大学院農学研究科

専 攻	入学定員	現 員						合 計
		1年次		2年次		合 計		
		男	女	男	女	男	女	
生物生産学専攻	16	5	2	12	1	17	3	20
生物資源学専攻	18	9	3	9	5	18	8	26
生物環境学専攻	14	5	3	5	4	10	7	17
合計	48	19	8	26	10	45	18	63

(3) 卒業・修了後の進路

卒業後の進路(学部)

学 科	卒業生数	大学院 進 学	その他	就 職 先			未決定	決定率(%)
				民間企業	公務員	計		
食料生命環境学科	159 (76)	28 (12)	3 (1)	87 (48)	40 (14)	127 (62)	1 (1)	99.2

()内の数は女子を内数で表す。

就職先の状況

食料生命環境学科	<p>(株)ジョイフル本田、(株)インテック、一般社団法人e-front、ジオテクノス(株)、(株)佐藤渡辺(2名)、山形中央農業共済組合、日東ベスト(株)、東北アヲハタ(株)、(株)ヤガイ、(株)荘内銀行、(株)金龍、公益財団法人山形県林業公社、前田製管(株)、庄内赤川土地改良区、(株)朝日測量設計事務所、公益財団法人福島県農業振興公社、井関農機(株)、(株)秋葉牧場、アイリスオーヤマ(株)(2名)、住友不動産販売(株)、(株)ツルハ、日本食研ホールディングス(株)(2名)、伊藤忠飼料(株)、(株)青森銀行、(株)コメリ(2名)、ダイリキ(株)、あいち三河農業協同組合、(株)キセキ東北、伏見蒲鉾(株)、(有)バブコックスワイン・ジャパン、芳源マッシュルーム(株)、(株)ユニバース、エノテカ(株)、社会福祉法人福島県社会福祉事業団、(株)共栄緑化、(株)アルファ技研、(株)伊藤園、日本化薬(株)、丸善食品工業(株)、(株)ブルボン(2名)、東京フード(株)、一般財団法人新潟県環境衛生研究所、(株)サン・ベンディング東北、太子食品工業(株)、セキールレディースクリニック、新橋夢クリニック、(株)鐘崎、(株)一ノ蔵、(株)カインズ、(株)ウイング、(株)シャトレーゼ、山崎製パン(株)、東邦銀行、(株)七十七銀行、不二製油(株)、わらべや日洋(株)、エスビー食品(株)、信越明星(株)、(株)エキサイト、下野農業協同組合、(株)牧家、(株)ヒューテックノオロン、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構、(株)シブヤ、(株)土木管理総合研究所、(株)アウトソーシングテクノロジー、(株)富士通ソフトウェアテクノロジーズ、青葉化成(株)、(株)ダイナム、(株)清野屋、(株)たちばな、(株)バイオテックジャパン、八千代エンジニアリング(株)、マルヨ水産(株)、(株)セントラルパートナーズ、(株)オオバ、日本水工設計(株)、太陽油脂(株)、(株)エス・ティー・ワールド、(株)NIPPO、(株)ニュージェック、銀河フーズ(株)</p> <p>農林水産省、林野庁(2名)、東京都庁(2名)、山形県庁(4名)、新潟県庁(3名)、福島県庁(9名)、長野県庁、静岡県庁、宮城県庁(2名)、愛知県庁(2名)、秋田県庁(3名)、千葉県庁、栃木県庁(2名)、青森県庁(2名)、山梨県庁、山形県警察、福島県教員、宇都宮市役所、南相馬市役所</p>
----------	---

修了後の進路(大学院農学研究科《修士課程》)

学 科	卒業生数	大学院 進 学	その他	就 職 先			未決定	決定率(%)
				民間企業	公務員	計		
生物生産学専攻	13 (2)	1 (1)	3 (0)	6 (0)	3 (1)	9 (1)	0 (0)	100.0
生物資源学専攻	13 (6)	1 (1)	1 (1)	10 (3)	1 (1)	11 (4)	0 (0)	100.0
生物環境学専攻	6 (4)	1 (1)	0 (0)	3 (3)	2 (0)	5 (3)	0 (0)	100.0
計	32 (12)	3 (3)	4 (1)	19 (6)	6 (2)	25 (8)	0 (0)	100.0

()内の数は女子を内数で表す。

就職先の状況

生物生産学専攻	<p>JAさがえ西村山、(株)山本製作所、横河ソリューションサービス(株)、(株)エコリス、長野県連合青果(株)、(株)太平エンジニアリング</p> <p>福島県庁、埼玉県庁、宮城県庁</p>
生物資源学専攻	<p>JAみどり、森永乳業(株)、マイクロメモリジャパン(株)、(株)エンテックス、マック食品(株)、(株)武蔵種苗園、わらべや日洋(株)、(株)ホールアース、沢井製薬(株)、(株)エコプロ・リサーチ</p> <p>福島県庁</p>
生物環境学専攻	<p>東武緑地(株)、(株)ウオロク、(株)グリーンシグマ</p> <p>福島県庁、久慈市役所</p>

(4) 平成27年度大学院農学研究科修了者について

○生物生産学専攻

コース	氏名	論文題目	指導教員名
安全農産物生産学	大竹 智美	施肥同時溝切り機を用いた長ネギ栽培の生産性改善に関する研究	片平 光彦
安全農産物生産学	加藤 俊樹	生物防除微生物 <i>Pythium oligandrum</i> 処理により誘導されるストックの遺伝子の探索	長谷 修
安全農産物生産学	川代 知寛	近赤外分光法によるコンクリート構造物の劣化の診断 - 劣化推定の変動要因 -	夏賀 元康
安全農産物生産学	道祖土 博一	ナス (<i>Solanum melongena</i>) およびナス属近縁種 (<i>Solanum torvum</i>) におけるトリコームの役割と形成に関する研究	西澤 隆
安全農産物生産学	佐藤 侑	未利用資源「ヨシ」の資材化と水稲栽培利用に関する研究	森 静香
安全農産物生産学	佐藤 慈仁	フキおよびセイヨウナシ用皮むき機の開発	片平 光彦
安全農産物生産学	鈴木 理	農法が畦畔のクモ類の発生に及ぼす影響とそのメカニズム - 畦畔の餌生物と雑草管理がカギとなる -	佐藤 智
安全農産物生産学	檜原 勇太	ケイ酸による水稲の塩分付着害軽減機構に関する研究	森 静香
食農環境マネジメント学	福井 駿	山形県庄内地方における観光客の観光行動	岩鼻 通明
安全農産物生産学	横島 千剛	水稲の還元ストレス軽減に関する研究	藤井 弘志
食農環境マネジメント学	陳 奥飛	中国プロイラー産業における農民專業合作社の役割—山東省A合作社と組合員農家及びプロイラー加工企業との取引関係に注目して—	金 成学
食農環境マネジメント学	KAGENZA JEAN MARIE VIANNEY	Impact of Farmer Field Schools in Rwanda: Case study of Potato Farmers in Musanze District	角田 毅
安全農産物生産学	MUTABAZI MINC AIME	Development of Site-Specific Nutrient Management combined with side-dressing fertilizer application in rice cultivation	角田 憲一

○生物資源学専攻

コース	氏名	論文題目	指導教員名
植物機能開発学	赤池 隆亮	新規系統を含むタルホコムギ遺伝資源の有用形質に関する多様性評価	笹沼 恒男
食品・応用生命科学	大塚 基広	麹菌 <i>Aspergillus oryzae</i> 由来タンナーゼファミリー酵素の基質識別に関するタンパク質工学的研究	小関 卓也
植物機能開発学	神成 夏未	オーストラリアシャジクモにおける細胞内窒素動態の解明	及川 彰
食品・応用生命科学	紺野 勇太	水田微生物燃料電池が水田土壌におけるメタン生成と水田からのメタン放出に与える影響	加来 伸夫
食品・応用生命科学	坂井 亜莉里	栽培イネのジテルペン生合成遺伝子の進化に関する研究	豊増 知伸
食品・応用生命科学	佐藤 茉美	高転移性マウスメラノーマにおけるシスチン・グルタミン酸トランスポーター (xc _c -系) の機能	豊増 知伸
植物機能開発学	清水 康貴	茹でエダマメのメタボローム解析	及川 彰
植物機能開発学	鈴木 秀明	山形県米沢市の伝統野菜「雪菜」の雪中における代謝物等の変化に関する研究	江頭 宏昌
植物機能開発学	寺嶋 傑	メタボローム解析を用いた細胞内代謝物の動態解明	及川 彰

食品・応用生命科学	古川 鞠子	昆虫分離糸状菌が生産する細胞毒性物質ピロシジン類について	塩野 義人
食品・応用生命科学	真下 紗季	細胞外レドックスが細胞機能に及ぼす影響	豊増 知伸
食品・応用生命科学	宮崎 望	マングローブ植物分離菌IM2-155株の生産するジクロロフェノール誘導物質について	塩野 義人
植物機能開発学	RUZIGANA PAMELA	Postharvest practices to maintain the quality of grape berries and sweet cherries	村山 秀樹

○生物環境学専攻

コース	氏名	論文題目	指導教員名
森林科学	飯沼 久仁佳	個体ごとにみたブナの繁殖特性と葉の形質、防御形質の違い	小山 浩正
森林科学	桑原 景子	クロマツ海岸林におけるオオタカとノスリの営巣地と狩り場の特徴	林田 光祐
水士環境科学	櫻庭 敬之	各種森林及び農耕地から供給される有機鉄の特性比較	渡部 徹
森林科学	高橋 あかり	放置された二次林における常緑低木の除去と落ち葉掻きが木本の実生更新に及ぼす影響	林田 光祐
森林科学	寺崎 史也	ブナ葉抽出成分の抗菌活性	高橋 孝悦
森林科学	HAYASHI MIKA	Nitrogen cycle inferred by $\delta^{15}\text{N}$ in larch stands in northern Mongolia	ロベス・ラリー

(5)教員の活動実績

①研究活動

安全農産物生産学コース

夏賀 元康

1-① 論文

- (1) 水田転換ほ場での機械化作業体系の確立(第1報), 農業食料工学会東北支部報, 62 1-4, 2015年12月 共著
- (2) 水田転換ほ場での機械化作業体系の確立(第1報), 農業食料工学会東北支部報, 62 1-4, 2015年12月 共著
- (3) 近赤外分光法によるコンクリート構造物の劣化診断(第7報), 農業食料工学会東北支部報, 62 61-64, 2015年12月 共著
- (4) 洋ナシ用皮むき機の開発, 農業食料工学会東北支部報, 62 29-32, 2015年12月 共著
- (5) 施肥同時溝切り機を用いた長ネギの省力栽培技術に関する研究(第3報), 農業食料工学会東北支部報, 62 25-28, 2015年12月 共著
- (6) 水田農業機械の作業時における燃料消費量に関する研究(第1報), 農業食料工学会東北支部報, 62 5-8, 2015年12月 共著

1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 国際食品工業展FOOMA2015アカデミックプラザ, 国内会議, 2015年06月, 東京, フキ用皮むき機の開発(第2報), 口頭(一般)
- (2) 農業食料工学会東北支部大会, 国内会議, 2015年08月, 岩手県盛岡市, 近赤外分光法によるコンクリート構造物の劣化の診断 - 第8報 コンクリートの劣化深さの推定 -, 口頭(一般)
- (3) 農業食料工学会東北支部大会, 国内会議, 2015年08月, 岩手県盛岡市, 水田農業機械の作業時における燃料消費量に関する研究(第1報) - 自脱型コンバインの作業特性 -, 口頭(一般)
- (4) 農業食料工学会東北支部大会, 国内会議, 2015年08月, 岩手県盛岡市, 洋ナシ用皮むき機の開発, ポスター(一般)
- (5) 農業食料工学会東北支部大会, 国内会議, 2015年08月, 岩手県盛岡市, 近赤外分光法によるコンクリート構造物の劣化の診断 - 第7報 塩化物イオン推定における各変動要因の検討 -, 口頭(一般)
- (6) 農業食料工学会第74回年次大会, 国内会議, 2015年09月, 岩手県盛岡市, 近赤外分光法によるコンクリート構造物の劣化の診断-第8報 コンクリートの劣化深さの推定 -, 口頭(一般)
- (7) 農業食料工学会第74回年次大会, 国内会議, 2015年09月, 岩手県盛岡市, 農業機械の作業時における燃料消費量に関する研究(第1報)-水田農業機械の耕うん・代かきでの作業特性-, 口頭(一般)
- (8) 農業食料工学会第74回年次大会, 国内会議, 2015年09月, 岩手県盛岡市, 水田転換圃場での機械化作業体系の確立(第1報)-転換初年目圃場での枝豆の生育特性-, 口頭(一般)
- (9) 農業食料工学会第74回年次大会, 国内会議, 2015年09月, 岩手県盛岡市, フキ用皮むき機の開発(第3報), 口頭(一般)
- (10) 農業食料工学会第74回年次大会, 国内会議, 2015年09月, 岩手県盛岡市, 施肥同時溝切り機を用いた長ネギの省力栽培技術に関する研究(第3報) - 土壌の物理性が根の伸長と生育に与える影響 -, 口頭(一般)
- (11) 農業食料工学会第74回年次大会, 国内会議, 2015年09月, 岩手県盛岡市, 施肥同時溝切り機を用いた長ネギの省力栽培技術に関する研究(第2報) - 施肥位置が長ネギの伸長と生育量に与える影響 -, 口頭(一般)
- (12) 農業食料工学会第74回年次大会, 国内会議, 2015年09月, 岩手県盛岡市, 近赤外分光法によるコンクリート構造物の劣化の診断-第7報 塩化物イオン推定における各変動要因の検討 -, 口頭(一般)

1-③ 学会発表(国際学会)

- (1) 2015 ASABE Annual International Meeting, 国際会議, 2015年07月, New Orleans, USA, Studies on Power Farming Systems of Welsh Onion Cultivation (Part 2); Effects on Welsh onion growth and yield of the numbers of seedlings per cell in chain pots, ポスター(一般)
- (2) 2015 ASABE Annual International Meeting, 国際会議, 2015年07月, New Orleans, USA, Butterbur Peeling Machine Development, ポスター(一般)
- (3) 2015 ASABE Annual International Meeting, 国際会議, 2015年07月, New Orleans, USA, Studies on Power Farming Systems of Welsh Onion Cultivation(Part1); Optimization of chain pot connection, ポスター(一般)
- (4) 2015 ASABE Annual International Meeting, 国際会議, 2015年07月, New Orleans, USA, Studies on Power Farming Systems of Welsh Onion Cultivation (Part 3); Growth promotion effects and fertilizer amount reduction with drill fertilizing, ポスター(一般)
- (5) 17th International Conference on Near Infrared Spectroscopy, 国際会議, 2015年10月, Foz do Iguassu, Brazil, Diagnosis of Concrete Deterioration in Infrastructures Using Near-Infrared Spectroscopy - Effects of Cement and Mortar Types on the Determination of Chloride Ion Concentration -, ポスター(一般)
- (6) 17th International Conference on Near Infrared Spectroscopy, 国際会議, 2015年10月, Foz do Iguassu, Brazil, Diagnosis of Concrete Deterioration in Infrastructures using Near-Infrared Spectroscopy - Estimation of Deterioration Depth -, ポスター(一般)

西澤 隆

1-① 論文

- (1) Solaiman, A.H.M., **T. Nishizawa*** and T.S. Roy. 2015. Efficacy of organic manures on the productivity, shelf-life and economic efficiency of tomato varieties in a long-term fertilized field by chemical fertilizers. *Americal Journal of Experimental Agriculture*. 6(3): 181-188 (*Corresponding author).
- (2) Abul Hasnat Muhammad Solaiman, **Takashi Nishizawa***, Nasim Sultana, Brazendranath Sarker, Raquibur Rahman, Mohammad Shahjahan, Abu Noman Faruq Ahmmed and Mirza Hasanuzzaman. 2015. Antimicrobial and antioxidant activity analysis of some medicinal plants of Bangladesh. *Advances in Plants & Agriculture Research*. 2 (4): 57-65 (*Corresponding author).
- (3) Motomura Y., J. Sugawara, **T. Nishizawa**, K. Takahashi, M. Sugawara and T. Aikawa. 2015. Changes in fatty acid composition in the skin of netted melon fruit in relation to expansion of the net area and moisture loss. *Acta Horticulturae* 1088:85-90.
- (4) Kumpoun W., Y. Motomura and **T. Nishizawa**. 2015. Free and bound polyphenols in mango fruit peel as functional food ingredients with high antioxidant activity. *Acta Horticulturae* 1088:515-519.
- (5) Solaiman A.H.M., **T. Nishizawa***, T.S. Roy, M. Rahman, R. Chakraborty, J. Choudhury, Md. D. Sarkar and M. Hasanuzzaman. 2015. Yield, dry matter, specific gravity and color of three Bangladesh local potato cultivars as influenced by stage of maturity. *Journal of Plant Sciences* 10 (3): 108-115 (*Corresponding author).
- (6) Solaiman A.H.M., **T. Nishizawa***, S.A. Nayem, S.M. Mohsin and M.S.M. Chowdhury. 2015. Effect of partially UV-blocking films on *Xanthomonas axonopoides* P.v. citri causing citrus (*Citrus aurantifolia*) canker. *World Journal of Agricultural Sciences*, 11(4): 202-209 (*Corresponding author).

1-② 学会発表(国内学会)

- (1) Nishizawa, T., T.S. Roy, S. Takaki, K. Ikeda, T. Arai, X. Li, K. Nara, M.M. Rahman, R. Chakraborty and Y. Motomura. 2015. Morphological and physiological traits of starch granules of local potato varieties in Bangladesh as compared with those of common commercial potato varieties. *Hort. Res. (Japan)*. 14 (Supple. 1). 255.
- (2) 西澤 隆・李 雪・後藤佳奈. 2015. 収穫時期が四季成り性イチゴ品種の果実品質と細胞壁成分に及ぼす影響. *園学要旨* 平27東北支部. 27-28.
- (3) 道祖土博一・西澤 隆. 2015. ナスおよびナス属近縁種のトリコーム形成に関する研究. *園学要旨* 平27東北支部. 59-60.

- (4) 西沢 隆・池田健太郎. 2015. ネットメロンおよびノーネットメロンにおける周皮組織の発達が果皮の亀裂からの水分損失に及ぼす影響. 園学研14別2, '15[野菜]. 169.

1-③ 学会発表(国際学会)

- (1) Nishizawa T., T. Puthmee, T. Aikawa, R. Kawamata and Y. Motomura. 2015. Does the thickness of net tissues affect water-proofing ability of netted melon (Cucumis melo L.) fruit? 3rd ISHS Southeast Asia Symposium on Quality Management in Postharvest Systems (SEAsia2015). O13.
- (2) Motomura Y., J. Sugawara, T. Aikawa, K. Nara and T. Nishizawa. 2015. Antioxidant ability of cell wall components in netted melon flesh against ascorbic acid oxidation during fruit development. 3rd ISHS Southeast Asia Symposium on Quality Management in Postharvest Systems (SEAsia2015). P1.

藤井弘志

1-① 著書

- (1) 中島宏和・森静香・藤井弘志(2016):山形県庄内地域における有機栽培水稲の特徴、最新農業技術土壌施肥、農文協、125-138
- (2) 藤井弘志(2015):水田の土と水田システム、土のひみつ、朝倉書店、84-87

1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 佐藤侑・森静香・松本由美・藤井弘志(2015):ヨシの資材化と水稲栽培利用—ヨシの刈取り時期の違いがバイオマス資源に維持・確保に及ぼす影響—、日本土壌肥料学会講演要旨集、61、112
- (2) 檜原勇太・森静香・及川彰・南和希・松本由美・藤井弘志(2015):水稲におけるケイ酸の塩分付着害軽減機構に関する研究—年次変動要因の解析—、日本土壌肥料学会講演要旨集、61、108
- (3) 東海林暁・森静香・岩田光平・松本由美・藤井弘志(2015):水稲における生育量、塩分付着条件の違いが塩分付着に及ぼす影響、日本土壌肥料学会講演要旨集、61、108
- (4) 横島千剛・松本由美・森静香・藤井弘志(2015):稲わら混和量の違いが水稲の初期生育に及ぼす影響、日本土壌肥料学会講演要旨集、61、106

1-③ その他の研究活動

- (1) 有機農業技術研究会
- (2) 山形大学農学部・山形県農林水産部連携推進協議会連携研究

平 智

1-① 著書

- (1) 平 智、2015、2. 種類と品種、米森敬三編著、果樹園芸学、朝倉書店、p. 10-29 (分担執筆)

1-② 論文

- (1) 平 智・佐藤祐樹・秋元彩夏・佐伯葉子・松本大生、2015、浸透圧を利用した渋ガキ果肉の脱水と加工品の品質に関する研究、日本食品保蔵科学会誌、41:261-266

1-③ 学会発表(国内学会)

- (1) 平 智・佐伯葉子・秋元彩夏・松本大生、2015、浸透圧脱水法による渋ガキ果実の脱水と脱渋ならびに加工品の品質に関する研究、日本食品保蔵科学会創立40周年記念大会(第64回東京大会)講演要旨集:29

浦川修司

1-① 著書

- (1) 浅野琢満・石井卓朗・石黒裕敏・井上秀彦・今井明夫・浦川修司・遠藤哲代・岡本俊英・神谷充・神山洋ら(2016)肉用牛新飼料資源の特徴と給与(監修 木村信熙・野中和弘),肉牛新報社,80-87

1-② 論文

- (1) 井上秀彦・松尾守展・川出哲生・恒川磯雄・浦川修司(2016) 籾米サイレージ調製作業システムの構築およびコストシミュレーション, 農業食品工業会誌78(1), 86-94

1-③ 学会発表(国内学会)

- (1) 浦川修司(2016) 飼料用イネの調製・加工技術, 日本草地学会誌62(別), 20
- (2) 堀口健一・山本美沙子・松山裕城・浦川修司・吉田宣夫・高橋敏能(2016) クズ(Pueraria lobata)の栄養成分とサイレージ品質の検討, 日本草地学会誌62(別), 121

1-④ その他の研究活動

- (1) 浦川修司(2016) ホールクroppサイレージ用イネと飼料用米生産のための機械化技術, 農業および園芸, 90(5), 507-517
- (2) 浦川修司(2016) イネ・ムギWCSの生産履歴管理システム, 肉牛ジャーナル, 29(3), 58-61

堀口健一

1-① 論文

- (1) 高橋敏能・内田 豪・堀口健一・吉田宣夫(2015): 物理的および化学的要因が発酵TMRの品質と開封後の好氣的安定性に及ぼす影響. 山形大学紀要(農学), 17, 49-66.
- (2) 金 錫九・吉田宣夫・松山裕城・堀口健一(2015): 肥料および調製方法の違いが稲わらのミネラル含量とDCAD値に及ぼす影響. 日本草地学会誌, 61, 151-157.

1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 長南雄太・鶴澤美奈・松山裕城・堀口健一・浦川修司・吉田宣夫・田川伸一・佐藤裕一郎・遠藤芳郎(2015): 濃厚飼料多給与下のウシにおけるエクストルーダ処理飼料用米のルーメン内分解特性. 東北畜産学会報, 65(2), 22.
- (2) 永井 涼・佐藤洋輔・池原 彩・田川伸一・星光雄・松山裕城・堀口健一・浦川修司・吉田宣夫(2015): 肥育豚におけるエクストルーダ処理飼料用米の多給与が発育と肉質に及ぼす影響. 東北畜産学会報, 65(2), 23.
- (3) 堀口健一・山本美沙子・松山裕城・浦川修司・吉田宣夫・高橋敏能(2015): クズ(Pueraria lobata)の栄養成分とサイレージ品質の検討. 日本草地学会誌, 62(別号), 121.

1-③ その他の研究活動

- (1) 研究成果第547集「低コスト・省力化、軽労化技術等の開発－自給飼料を基盤とした国産畜産物の高付加価値化技術の開発(牛)－」 農林水産技術会議事務局 2016年3月
- (2) 研究成果第548集「低コスト・省力化、軽労化技術等の開発－自給飼料を基盤とした国産畜産物の高付加価値化技術の開発(豚)－」 農林水産技術会議事務局 2016年3月

小笠原宣好

1-① 学会発表(国内学会)

- (1) 小笠原宣好・小柏一真(2016): 窒素とリンの施与量がミニシクラメンの生育に及ぼす影響、園芸学研究、15(別1)、229.

長谷 修

1-① 論文

- (1) 鈴木智貴・脇本寛美・長谷 修・生井恒雄・小林 隆(2015)(平成27年) 東北地方南部に自生するイネ科植物から分離したいもち病菌の特徴. 日本植物病理学会報, 査読有り, 81(2):136-140.

- (2) 鈴木智貴・脇本寛美・大竹裕規・長谷 修・生井恒雄(2015)(平成27年)
山形県庄内地方におけるネズミムギいもち病の病原菌の種類.
日本植物病理学会報, 査読有り, 81(3):188-193.
- (3) Komatsu, K., Urayama, S., Katoh, Y., Fuji, S., Hase, S., Fukuhara, T., Arie, T., Teraoka, T., Moriyama, H. (2016)(平成26年2月)
Detection of Magnaporthe oryzae chrysovirus 1 in Japan and establishment of a rapid, sensitive and direct diagnostic method based on reverse transcription loop-mediated isothermal amplification.
Archives of Virology, 161: 317-326.

1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 小林 隆・菅野洋光・神田英司・兼松誠司・長谷 修(2015)接種前後の高温処理が葉いもちの発生に及ぼす影響. 日本植物病理学会報, 81(8月): 208(講要). [発表, 2015,3,28-31.日本植物病理学会大会, 東京都]
- (2) 平 里奈・三橋由香里・井上美咲・加藤俊樹・菅原 敬・小林 隆・竹中重仁・長谷 修(2015)ストックの糸状菌病に対する生物防除微生物*Pythium oligandrum*の施用効果. 日本植物病理学会報, 81(8月): 249(講要). [発表, 2015,3,28-31.日本植物病理学会大会, 東京都]
- (3) 加藤優・浦山俊一・相原光宏・福原敏行・藤晋一・小林隆・長谷 修・小松健・有江力・寺岡徹・森山裕充(2015)日本国内で採取されたイネいもち病菌マイコウイルスMagnaporthe oryzae chrysovirus 1のゲノム配列の決定とウイルス粒子の構造解析. 日本植物病理学会報, 81(8月): 307(講要). [発表, 2015,3,28-31.日本植物病理学会大会, 東京都]
- (4) 加藤俊樹・平 里奈・薄 瑤子・小林 隆・長谷 修(2016)生物防除微生物*Pythium oligandrum*の処理により誘導されるストック遺伝子のクローニング. 日本植物病理学会報 82(2月): 44-45(講要). [2015,9,28-29.日本植物病理学会大会東北部会, 仙台市]

1-③ 学会発表(国際学会)

- (1) Teraoka, T., Urayama, S., Le, M.-T., Katoh, Y., Aihara, M., Fukuhara, T., Fuji, S., Kobayashi, T., Hase S., Komatsu, K., Arie, T., and Moriyama, H. (2015, 8, 24-25) Potential traits of the mycovirus MoCV1-A on interaction between rice plant and rice blast fungus. INTERNATIONAL PLANT PROTECTION CONGRESS (IPPC). Berlin, Germany.

小林 隆

1-① 論文

- (1) 鈴木智貴・脇本寛美・長谷修・生井恒雄・小林隆 2015(平成27年)
東北地方南部に自生するイネ科植物から分離したいもち病菌の特徴
日本植物病理学会報, 81巻(2) 136-140 ISSN: 1882-0484
- (2) 紺野祥平・大久保さゆり・菅野洋光・福井真・吉田龍平・岩崎俊樹・小林隆 2015(平成27年)
アンサンブルハイブリッドキャスト実験結果を用いたイネ葉いもち感染確率予報の精度検証
天気, 62巻(9): 759-764 ISSN : 0546-0921

1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 石川智浩・薄瑤子・大内花帆子・小松健太郎・平山未佳子・谷中沙妃・安藤正・長谷修・小林隆(2015): 籾殻燃焼灰を用いた水稻育苗がもみ枯細菌病およびいもち病の発病程度に及ぼす影響、日本植物病理学会報、81、57-58.
- (2) 小林隆、菅野洋光、神田英司、兼松誠司、長谷修(2015): 接種前後の高温処理が葉いもち発生に及ぼす影響、日本植物病理学会報、81、208.
- (3) 平里奈、三橋由香里、井上美咲、加藤俊樹、菅原敬、小林隆、竹中重仁、長谷修(2015): ストックの糸状菌に対する生物的防除資材*Pythium oligandrum*の施用効果、日本植物病理学会報、81、249.
- (4) 加藤優、浦山俊一、相原俊一、福原敏行、藤晋一、小林隆、長谷修、小松健、有江力、寺岡徹、森山裕充(2015): 日本国内で採取されたイネいもち病菌マイコウイルスMagnaporthe oryzae chrysovirus 1のゲノム配列とウイルス粒子の構造解析、日本植物病理学会報、81、307.
- (5) 菅原直人、小林隆、長谷修、菅野洋光、大久保さゆり、神田英司、山崎剛(2016): 葉面濡れセンサーで計測した葉面濡れ時間、誘電率とイネいもち病の感染について、第12回ヤマセ研究会.

- (6) 吉田めぐみ、藤井直哉、善林薫、大久保さゆり、小林隆(2015): 気象情報等に基づくイネいもち病の無人ヘリによる効率的防除の現地実証試験～秋田県現地における実証試験推進状況の紹介～、EBC(Evidence-based Control)研究会ワークショップ2015.

片平光彦

1-① 論文

- (1) 洋ナシ用皮むき機の開発, 農業食料工学会東北支部報, 62 29-32, 2015年11月
- (2) 水田転換ほ場での機械化作業体系の確立(第1報), 農業食料工学会東北支部報, 62 1-4, 2015年12月
- (3) 水田農業機械の作業時における燃料消費量に関する研究(第1報), 農業食料工学会東北支部報, 62 5-9, 2015年12月
- (4) 田畑輪換における水稲無代かき湛水直播栽培の効果, 農業食料工学会東北支部報, 62 13-16, 2015年12月
- (5) 近赤外分光法によるコンクリート建造物の劣化の診断(第7報), 農業食料工学会東北支部報, 62 61-64, 2015年12月
- (6) 施肥同時溝切り機を用いた長ネギの省力栽培に関する研究(第3報), 農業食料工学会東北支部報, 62 25-28, 2015年12月
- (7) 水稲の代かき同時散播機の作業特性(第1報), 農業食料工学会東北支部報, 62 9-12, 2015年12月

1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 農業食料工学会東北支部会, 国内会議, 2015年08月, 秋田市, 水田農業機械の作業時における燃料消費量に関する研究(第1報) - 自脱型コンバインを使用した収穫の作業特性 -, ポスター(一般)
- (2) 農業食料工学会東北支部会, 国内会議, 2015年08月, 秋田市, 水稲の代かき同時散播機の作業特性, ポスター(一般)
- (3) 農業食料工学会東北支部会, 国内会議, 2015年08月, 秋田市, 施肥同時溝切り機を用いた長ネギの省力栽培技術に関する研究(第3報) - 土壌の物理性が根の伸長と生育に与える影響 -, 口頭(一般)
- (4) 農業食料工学会東北支部会, 国内会議, 2015年08月, 秋田市, 近赤外分光法によるコンクリート建造物の劣化の診断(第8報), 口頭(一般)
- (5) 農業食料工学会東北支部会, 国内会議, 2015年08月, 秋田市, 近赤外分光法によるコンクリート建造物の劣化の診断(第7報), 口頭(一般)
- (6) 農業食料工学会東北支部会, 国内会議, 2015年08月, 秋田市, 洋ナシ用皮むき機の開発, ポスター(一般)
- (7) 農業食料工学関連5学会2015年合同大会, 国内会議, 2015年09月, 岩手大学, 施肥同時溝切り機を用いた長ネギの省力栽培技術に関する研究(第3報) - 作溝チゼルによる土壌の破碎効果 -, 口頭(一般)
- (8) 農業食料工学関連5学会2015年合同大会, 国内会議, 2015年09月, 岩手大学, 水田転換圃場での機械化作業体系の確立(第1報) - 転換初年目圃場での枝豆の生育特性 -, 口頭(一般)
- (9) 農業食料工学関連5学会2015年合同大会, 国内会議, 2015年09月, 岩手大学, 農業機械の作業時における燃料消費量に関する研究(第1報) - 水田農業機械の耕うん・代かきでの作業特性 -, 口頭(一般)
- (10) 農業食料工学関連5学会2015年合同大会, 国内会議, 2015年09月, 岩手大学, フキ用皮むき機の開発(第3報), 口頭(一般)
- (11) 農業食料工学関連5学会2015年合同大会, 国内会議, 2015年09月, 岩手大学, 施肥同時溝切り機を用いた長ネギの省力栽培技術に関する研究(第2報) - 施肥位置が長ネギの伸長と生育量に与える影響 -, 口頭(一般)
- (12) 農作業学会大会, 国内会議, 2016年03月, 宮城大学, 水田転換圃場での機械化作業体系の確立 - 転換初年目圃場での露地野菜の生育特性 -, 口頭(一般)
- (13) 農作業学会大会, 国内会議, 2016年03月, 宮城大学, 農業機械の作業時における燃料消費量に関する研究(第1報), 口頭(一般)
- (14) 農作業学会大会, 国内会議, 2016年03月, 宮城大学, 水稲無代かき湛水直播栽培の現地実証と作業可能面積, 口頭(一般)

- (15) 農作業学会大会, 国内会議, 2016年03月, 宮城大学, 庄内地域の大区画水田ほ場での直播水稲の作業特性と負担面積, 口頭(一般)
- (16) 農作業学会大会, 国内会議, 2016年03月, 宮城大学, 簡易移植器を用いた長ネギ苗定植の現地調査, 口頭(一般)

1-③ 学会発表(国際学会)

- (1) 2015国際食品工業展, 国際会議, 2015年06月, 東京ビッグサイト, フキ用皮むき機の開発(第2報), 口頭(一般)
- (2) 2015 ASABE Annual International Meeting, 国際会議, 2015年07月, New Orleans, Louisiana, Butterbur Peeling Machine Development, ポスター(一般)
- (3) 2015 ASABE Annual International Meeting, 国際会議, 2015年07月, New Orleans, Louisiana, Studies of Power Farming Systems of Welsh Onion Cultivation (Part 1) —Optimization of chain pot connection—, ポスター(一般)
- (4) 2015 ASABE Annual International Meeting, 国際会議, 2015年07月, New Orleans, Louisiana, Studies of Power Farming Systems of Welsh Onion Cultivation (Part 3) —Growth promotion effects and fertilizer amount reduction with drill fertilizing—, ポスター(一般)
- (5) 2015 ASABE Annual International Meeting, 国際会議, 2015年07月, New Orleans, Louisiana, Studies of Power Farming Systems of Welsh Onion Cultivation (Part 2) —Field test of new cropping type of Welsh onion using chain paper pots—, ポスター(一般)
- (6) 2015 ASABE Annual International Meeting, 国際会議, 2015年07月, New Orleans, Louisiana, Development for Vegetable soybean (edamame) sorting machine to use image processing, ポスター(一般)
- (7) 第17回国際近赤外会議(NIR2015), 国際会議, 2015年10月, Foz do Iguassu, Brazil, Diagnosis of Concrete Deterioration in Infrastructures Using Near-Infrared Spectroscopy – Effects of Cement and Mortar Types on the Determination of Chloride Ion Concentration –, ポスター(一般)
- (8) 第17回国際近赤外会議(NIR2015), 国際会議, 2015年10月, Foz do Iguassu, Brazil, Diagnosis of Concrete Deterioration in Infrastructures using Near-Infrared Spectroscopy – Estimation of Deterioration Depth –, ポスター(一般)

森 静香

1-① 著書

- (1) 中島宏和・森静香・藤井弘志(2016):山形県庄内地域における有機栽培水稲の特徴、最新農業技術土壌施肥、農文協、125-138

1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 佐藤侑・森静香・松本由美・藤井弘志(2015):ヨシの資材化と水稲栽培利用—ヨシの刈取り時期の違いがバイオマス資源に維持・確保に及ぼす影響—、日本土壌肥料学会講演要旨集、61、112
- (2) 檜原勇太・森静香・及川彰・南和希・松本由美・藤井弘志(2015):水稲におけるケイ酸の塩分付着害軽減機構に関する研究—年次変動要因の解析—、日本土壌肥料学会講演要旨集、61、108
- (3) 東海林暁・森静香・岩田光平・松本由美・藤井弘志(2015):水稲における生育量、塩分付着条件の違いが塩分付着に及ぼす影響、日本土壌肥料学会講演要旨集、61、108
- (4) 横島千剛・松本由美・森静香・藤井弘志(2015):稲わら混和量の違いが水稲の初期生育に及ぼす影響、日本土壌肥料学会講演要旨集、61、106

1-③ その他の研究活動

- (1) 有機農業技術研究会

佐藤 智

1-① 論文

- (1) W. Cheng, M. Takei, C. Sato, V. Kautsar, Y. Sasaki, S. Sato, K. Tawarayama, H. Yasuda (2015) Combined use of Azolla and loach suppressed paddy weeds and increased organic rice yield: second season results. Journal of Wetlands Environmental Management. 3, 1-13.

- (2) P. Kindlmann, H. Yasuda, Y. Kajita, S. Sato, A. F. G. Dixon (2015) Predator efficiency reconsidered for a ladybird-aphid system. *Front. Ecol. Evol.*, 18.
- (3) A. F. G. Dixon · S. Sato · P. Kindlmann (2015) Evolution of slow and fast development in predatory ladybirds. *Journal of Applied Entomology* 140(1).

1-② 学会発表(国内学会)

- (1) Kurniawan Andreas・Sato Satoru (2015) Effect of Japanese mudsnail on performance of rice plant and its possible mechanism、日本昆虫学会第76回大会・第60回日本応用動物昆虫学会大会合同大会講演要旨集
- (2) 鈴木 理・佐藤 智 (2015): 畦畔の雑草管理法がクモ類の発生に及ぼす影響とそのメカニズム、日本昆虫学会第76回大会・第60回日本応用動物昆虫学会大会合同大会講演要旨集

松山裕城

1-① 論文

- (1) 金 錫九、吉田宣夫、松山裕城、堀口健一 (2015): 肥料および調製方法の違いが稲わらのミネラル含量とDCAD値に及ぼす影響、*日本草地学会誌*、61(3)、151-157
- (2) 宮地 慎、松山裕城、野中和久 (2015): トウモロコシあるいは飼料用米を混合した高水分発酵TMRの貯蔵中における飼料特性の変化、*日本草地学会誌*、61(3)、170-174

1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 永井涼、佐藤洋輔、池原彩、田川伸一、星光雄、松山裕城、堀口健一、浦川修司、吉田宣夫 (2015) 肥育豚におけるエクストルーダ処理飼料用米の多給与が発育と肉質に及ぼす影響、第65回東北畜産学会宮城大会
- (2) 長南雄太、鶴澤美奈、松山裕城、堀口健一、浦川修司、吉田宣夫、田川伸一、佐藤裕一郎、遠藤芳郎 (2015) 濃厚飼料多給与下のウシにおけるエクストルーダ処理飼料用米のルーメン内分解特性、第65回東北畜産学会宮城大会
- (3) 芳賀聡、中野美和、宮地慎、松山裕城、石崎宏、加藤和雄、盧尚建 (2015) 初乳生産期の乳腺におけるGlucose・BHBA取込率および輸送体発現、日本畜産学会第120回大会
- (4) 芳賀聡、中野美和、宮地慎、石崎宏、松山裕城、米倉真一、盧尚建 (2016) 「妊娠有無」を乾乳牛の乳腺機能変化の要因として考慮すべきか?、日本畜産学会第121回大会
- (5) 細田謙次、水上優子、中込弘二、笹原英樹、松下景、田村泰章、宮地慎、松山裕城 (2016) 有色米の飼料成分、第一胃内分解特性、色素含量および抗酸化活性、2016年度日本草地学会石川大会
- (6) 堀口健一、山本美沙子、松山裕城、浦川修司、吉田宣夫、高橋敏能 (2016) クズ (*Pueraria lobata*) の栄養成分とサイレージ品質の検討、2016年度日本草地学会石川大会

池田和生

1-① 論文

- (1) T. Hanadaa, K. Nashimab, M. Katob, T. Takashinaa, K. Ikeda, Y. Sakamotoa, H. Takahashib, M. Nakazonob, A. Oikawad, K. Shiratakeb & K. Isuzugawaaa. 2015. Molecular cloning and expression analysis of the WEE1 and CCS52A genes in European pear (*Pyrus communis* L.) and their possible roles in a giant fruit mutant. *The Journal of Horticultural Science and Biotechnology*. 90:511-517

1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 高橋由信、山本俊哉、安達栄介、池田和生. 2015. オウトウの自家和合性遺伝子検出技術の開発とオウトウ交雑不和合群の分類. *園芸学研究*. 14別1:290
- (2) 池田和生・瀬賀美貴・高田宏樹・高橋柚稀・高橋由信・村山秀樹. 2015.11.7. 赤着色系セイヨウナシの着色メカニズムに関する研究. 第16回西洋なしフォーラム

1-③ その他の研究活動

- (1) 池田和生. 日本なしの高品質安定生産a.輸入花粉のS遺伝子型の同定. 単年度庄内総合支庁関係事業成績

佐々木由佳

1-① 論文

- (1) Weiguo Cheng, Miwa Takei, Chizuru Sato, Valensi Kautsar, Yuka Sasaki, Satoru Sato, Keitaro Tawaraya, Hironori Yasuda (2015) Combined use of Azolla and loach suppressed paddy weeds and increased organic rice yield: second season results. *Journal of Wetlands Environmental Management* 3, 1-13

1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 佐藤麻衣・佐々木由佳・角田憲一 (2015.8) 耕畜連携を行う地域における水田の肥培管理が土壌理化学性に与える影響. 農業食料工学会東北支部大会平成27年度研究発表会講演要旨集, 7-8
- (2) 角田憲一・土田健太・佐々木由佳 (2015.9) 地力窒素を活用した施肥法による施肥窒素の削減. 日本土壌肥料学会講演要旨集61, 101
- (3) 佐々木由佳・佐藤麻衣・角田憲一・吉田宣夫 (2015.9) 耕畜連携に取り組む地域における水田土壌の理化学性の特徴. 日本土壌肥料学会講演要旨集 61, 103
- (4) Minc Aime Mutabazi, Ken-ichi Kakuda, Yuka Sasaki (2015.9) Development of site-specific nutrient management combined with side dressing method for efficient use of nitrogen fertilizer. 日本土壌肥料学会講演要旨集61, 104
- (5) 佐々木由佳・福田翔太・鮫島啓彰・John Kimani・榎原大悟・山内章 (2016.3) ケニア灌漑水田での耕起・代かき方法の改良による漏水対策. 熱帯農業研究9(別号1), 2-3
- (6) 佐々木由佳・増永二之・榎原大悟・Raphael Wanjogu・Raymond Njagi・John Kimani・福田翔太・山内章 (2016.3) ケニア・ムエア灌漑地域の農家水田における水稲収量の実態把握と収量制限要因の検討. 日本作物学会第241回講演会要旨集, 76

1-③ 学会発表(国際学会)

- (1) Yuka Sasaki, Ken-ichi Kakuda, Ho Ando, Rembon F.S., Samsul B., Bless A.E.S., Makito Mori, Yoshinori Yamamoto (2015.9) Peat soil subsidene in natural sago palm forest under development. *Book of abstracts of 12th International Sago Symposium, Japan*, 25

松本大生

1-① 論文

- (1) D. Matsumoto and R.Tao (2016): Distinct self-recognition in the Prunus S-RNase-based gametophytic self-incompatibility system. *Horticulture Journal*, (in press)
- (2) D. Matsumoto (2016): Chapter 43. Flowering and reproduction: Gametophytic self-Incompatibility, In: *Encyclopedia of Applied Plant Sciences 2nd Edition*, Ed. B. Thomas, D. Murphy and B. Murray, Springer-Verlag. (in press)
- (3) 平智・佐藤祐樹・秋元彩夏・佐伯葉子・松本大生 (2015)浸透圧を利用した渋ガキ果肉の脱水と脱渋ならびに加工品の品質に関する研究. *日本食品保蔵科学会誌* 41:261-266

1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 松本大生・田尾龍太郎. 2015年9月26日: サクラ属の自家不和合性におけるgeneral inhibitor候補SLFL1-3のタンパク質間相互作用. *園芸学研究別冊* 14(2)、134.
- (2) 松本大生・渡邊勇紀・田口将・平智. 2016年3月27日: 山形県におけるミツバアケビ栽培系統の交配和合性. *園芸学研究別冊* 15(1)、96.

食農環境マネジメント学コース

岩鼻 通明

1-① 著書

- (1) 岩鼻通明(2015):「地方における映画文化の育成と活用:映画祭・フィルムコミッション・映画館の連携」、原・山本・和田編『コンテンツと地域』ナカニシヤ出版、p.135-151.

1-② 論文

- (1) 岩鼻通明(2015):「映画をめぐる現代民俗—日韓の比較から—」村山民俗29,p.30-34.
- (2) 岩鼻通明(2015):「江田忠先生の学問と私」山形民俗29,p.24-30.

1-③ 学会発表(国内学会)

- (1) 岩鼻通明(2015):映画祭を通じた地域活性化—日韓の比較から—東北地理学会春季大会(仙台市)
- (2) 岩鼻通明(2015):「再活性化する戸隠観光」東北地理学会秋季大会(上越市)

小沢 互

1-① 著書

- (1) 星勉・小沢互・吉仲怜・大仲克俊・安藤光義(2016)『水田利用の実態 我が国の水田農業を考える』筑波書房、8-25

1-② 論文

- (1) 藤科智海・及川達也・小沢互(2015)「公共牧場を核とした畜産農家支援の効果—山形県真室川町の秋山牧場を事例として—」農業経営研究、第53巻第3号、59-64
- (2) 奥山仁志・小沢互(2015)「農地・水・環境保全向上対策への参加を通じた農村社会ネットワーク形成の可能性」農村経済研究、第33巻第1号、134-143
- (3) 金紅蘭・藤科智海・小沢互(2015)「中国延辺地域における専業農場の経営構造と課題—図們市Y鎮のYR農場・CX農場の加入農家調査より—」農村経済研究、第33巻第1号、144-152
- (4) 五十嵐幸枝・小沢互(2015)「伝統食に対する志向性がもたらす産直施設における購買行動の差異分析—産直施設アンケート調査を通じて—」フードシステム研究、第22巻第3号、203-208
- (5) 藤科智海・新妻綾乃・小沢互(2016)「地方老舗菓子店の競争戦略—つるおか菓子処木村屋を事例として—」地域活性研究、Vol.7、146-155

1-③ 学会発表(国内学会)

- (1) 五十嵐幸枝・小沢互、2015年5月31日、産直施設の成長要因としての食文化の影響分析—産直施設アンケート調査を通じて—、日本フードシステム学会2015年度大会
- (2) 吉野晃弘・藤科智海・小沢互、2015年8月29日、酪農経営に与えるコントラクター組織参加の効果—真室川町の酪農家S氏を対象に—、東北農業経済学会新潟大会
- (3) 藤科智海・侯瑩・小沢互、2015年8月29日、水田農業地帯における農家の農業情報活用の実態—JAあまるめ組合員調査から—、東北農業経済学会新潟大会
- (4) 藤科智海・新妻綾乃・小沢互、2015年9月6日、地方老舗菓子店の競争戦略-つるおか菓子処木村屋を事例として-、地域活性学会第7回研究大会

金 成学

1-① 論文

- (1) 金成学、2016、米国綿花補助金に対するWTO裁定と米国農政の対応(綿花裁定の意義と残された課題、山形大学紀要(農学)第18巻第1号、25-37

角田 毅

1-① 著書

- (1) 角田毅(2015):水田周縁地帯における大規模営農形成、堀口健治・梅本雅編:大規模営農の形成史 農林統計協会、207-216

1-② 論文

- (1) 角田毅(2015):農業経営の継承における家族的要素と企業的要素、農業経営研究、第53巻第1号、30-40

1-③ 学会発表(国内学会)

- (1) 鈴木洋、角田毅(2015):集落営農法人における経営多角化の意義と課題、東北農業経済学会講演要旨集。
- (2) 角田毅(2015):ガーナ氾濫原低湿地における稲作栽培の動向と課題、地域農林経済学会講演要旨集。
- (3) 藤井吉隆、角田毅、上田賢悦、中村勝則(2015):農業法人における雇用人材の定着に関する考察、地域農林経済学会講演要旨集

家串哲生

1-① 論文

- (1) 家串哲生(2015)「活動基準原価計算を用いた農業経営の環境コスト測定に関する研究」、『農業経営研究』、第53巻・第3号、pp.83-86。
- (2) 家串哲生(2015)「日本における農業簿記・会計思想史に関する研究—大槻正男「自計式農家経済簿」—」、『農林業問題研究』、第51巻・第3号、pp.203-208
- (3) 家串哲生(2015)「近藤康男の簿記・会計思想の特徴と現代的意義」、『農業経済研究』、第87巻・第3号、pp.213-218

1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 家串哲生(2015):「時間主導型活動基準原価計算に基づく農業経営の原価算出と分析・診断」、日本農業経営学会(北海道大学)
- (2) 家串哲生(2015):「農作業別原価計算に基づく農産物の原価算出と経営分析・診断」、日本社会関連会計学会(亜細亜大学)
- (3) 家串哲生(2015):「時間主導型活動基準原価計算による家族農業経営の農産物別環境原価の算出」、地域農林経済学会(鳥取大学)
- (4) 家串哲生(2016):「奥谷松治と田中義英の簿記・会計思想と現代的意義」、日本農業経済学会(秋田県立大学)

藤科智海

1-① 論文

- (1) 藤科智海・及川達也・小沢互(2015):公共牧場を核とした畜産農家支援の効果—山形県真室川町の秋山牧場を事例として—、農業経営研究、53(3)、59-64
- (2) 金紅蘭・藤科智海・小沢互(2015):中国延辺地域における専業農場の経営構造と課題—図們市Y鎮のYR農場・CX農場の加入農家調査より—、農村経済研究、33(1)、144-152
- (3) 藤科智海(2015):農村の維持再生に向けた研究課題—農業と地域社会との関係性—、農村経済研究、33(2)、24-34
- (4) 藤科智海・新妻綾乃・小沢互(2016):地方老舗菓子店の競争戦略—つるおか菓子処木村屋を事例として—、地域活性研究、7、146-155

1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 吉野晃弘・藤科智海・小沢互(2015年8月29日):酪農経営に与えるコントラクター組織参加の効果—真室川町の酪農家S氏を対象に—、東北農業経済学会

- (2) 藤科智海・侯瑩・小沢互(2015年8月29日):水田農業地帯における農家の農業情報活用の実態—JAあまらめ組合員調査から—, 東北農業経済学会.
- (3) 藤科智海・新妻綾乃・小沢互(2015年9月6日):地方老舗菓子店の競争戦略—つるおか菓子処木村屋を事例として—, 地域活性学会第7回研究大会(2015年度・兵庫)論文集, 191-194

1-③ その他の研究活動

- (1) 藤科智海(2015):書評 斎藤修監修『フードシステム学叢書第4巻 フードチェーンと地域再生』, 農業経営研究, 53(2), 97-98

渡辺理絵

1-① 著書

- (1) 渡辺理絵(2016)「地図の世界に誘う—古代から現代までの地理的知—」致道博物館館報53,2-3

1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 渡辺理絵(2015):近世農村における麻疹の流行と拡散過程—出羽国中津川郷14ヶ村を中心に—, 人文地理学会大会研究発表要旨、62-63

食品・応用生命科学コース

三橋 涉

1-① 論文

- (1) Toyomasu Tomonobu, Masami Usui, Chizu Sugawara, Yuri Kanno, Arisa Sakai, Hirokazu Takahashi, Mikio Nakazono, Masaharu Huroda, Koji Miyamoto, Yu Morimoto, Wataru Mitsuhashi, Kazunori Okada, Shinjiro Yamaguchi and Hisakazu Yamane (2015) Transcripts of two ent-copalyl diphosphate synthase genes differentially localize in rice plants according to their distinct biological roles. *Journal of Experimental Botany* 66, 369-376
- (2) Daisuke Tezuka, Ito Akira, Mitsuhashi Wataru, Toyomasu Tomonobu, Imai Ryozo (2015) The rice ent-KAURENE SYNTHASE LIKE 2 encodes a functional ent-beyerene synthase. *Biochemical and Biophysical Research Communications* 460, 766-771

1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 手塚大介、伊藤瑛、三橋涉、豊増知伸、今井亮三(2015)イネの *ent-KAURENE SYNTHASE LIKE 2* は *ent-beyerene* 合成酵素をコードする、植物化学調節学会第50回大会 研究発表記録集、74
- (2) 岡田憲典、宮本皓司、藤田雅文、Matthew R. Shenton、菅原千都、坂井亜莉里、嶋根真奈美、堀江清孝、長谷川守文、川出洋、三橋涉、野尻秀昭、山根久和、倉田のり、豊増知伸(2015)野生イネ *Orzyza rufipogon* におけるモミラクソンとフィットカサンの生合成、植物化学調節学会第50回大会 研究発表記録集、75
- (3) 宮本皓司、藤田雅文、Matthew R. Shenton、菅原千都、坂井亜莉里、嶋根真奈美、堀江清孝、長谷川守文、川出洋、三橋涉、野尻秀昭、山根久和、倉田のり、岡田憲典、豊増知伸(2015)イネのジテルペン型フィットアレキシン生合成遺伝子クラスター形成の進化機構、植物化学調節学会第50回大会 研究発表記録集、76
- (4) 坂井亜莉里、菅原千都、宮本皓司、藤田雅文、Matthew R. Shenton、嶋根真奈美、長谷川守文、川出洋、三橋涉、山根久和、倉田のり、岡田憲典、豊増知伸(2015)野生イネ *Orzyza rufipogon* におけるジテルペン環化酵素遺伝子、植物化学調節学会第50回大会 研究発表記録集、77
- (5) 伊藤瑛、手塚大介、宮本皓司、藤田雅文、Matthew R. Shenton、三橋涉、山根久和、倉田のり、岡田憲典、今井亮三、豊増知伸(2015)野生イネ *Orzyza brachyantha* における *ent-kaurene synthase like 2*、植物化学調節学会第50回大会 研究発表記録集、78

小関卓也

1-① 論文

- (1) Y. Shiono, T. Murayama, T. Koseki (2015): Methyl-3,4-dicarboxy-3-hydroxyeicosanoate. *Molbank*, 2, M861. DOI: 10.3390/M861
- (2) Y. Shiono, H. Koyama, T. Murayama, T. Koseki (2015): New sesquiterpenes from the endophyte *Microdiplodia* sp. TT-12 and their antimicrobial activity. *Phytochemistry Letters*, 14, 143-147. DOI: 10.1016/j.phytol.2015.10.004.
- (3) 小関卓也 (2015): 米糠の高機能化を目指した新規発酵技術の開発, 公益財団法人飯島藤十郎記念食品科学振興財団 平成26年度年報, 第30巻, 55-60.

1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 伊藤稔, 大塚基広, 水野聖之, 塩野義人, 小関卓也(2015): 麹菌 *Aspergillus oryzae* のタンナーゼファミリーに属するフェルラ酸エステラーゼ(AoFaeC2)の諸性質, 第67回日本生物工学会大会, 鹿児島(10月)
- (2) 大塚基広, 水野聖之, 塩野義人, 小関卓也(2015): *Aspergillus oryzae* 由来タンナーゼのループ内に存在するLys-Arg配列について, 日本農芸化学会東北支部第150回大会, 仙台(10月)
- (3) 塩野義人, 宮崎望, 古川鞠子, 村山哲也, 小関卓也, 上杉祥太, 木村賢一 (2015): マングローブ植物分離菌 IM2-155 株の生産するジクロロフェノール誘導物質について, 日本農芸化学会東北支部第150回大会, 仙台(10月)
- (4) 石川真衣, 塩野義人, 小関卓也(2016): *Aspergillus oryzae* 由来 α -L-ラムノシダーゼの酵素学的諸性質, 日本農芸化学会2016年度大会, 札幌(3月)

- (5) 半田暖尚, 塩野義人, 小関卓也(2016): *Aspergillus oryzae* 由来タイプDフェルラ酸エステラーゼの基質識別に関わるアミノ酸残基の特定, 日本農芸化学会2016年度大会, 札幌(3月)
- (6) 塩野義人, Nanang Rudianto Ariefita, Ruengrit Sappapan, 村山哲也, 小関卓也, 川村哲晃, 上杉祥太, 木村賢一(2016): 枯れ枝より分離した糸状菌 *Fusarium solani* T-13株の生産する物質について, 日本農芸化学会2016年度大会, 札幌(3月)
- (7) 小関卓也(2015): 米糠の高機能化を目指した新規発酵技術の開発, 公益財団法人飯島藤十郎記念食品科学振興財団 第27回学術講演会, 東京(11月, 招待講演)

1-③ 学会発表(国際学会)

- (1) Ardiansyah, H. Shirakawa, T. Koseki, K. Hiwatashi, S. Takahashi, Y. Akiyama, M. Komai (2015): Novel function of adenosine monophosphate to improve metabolic related-diseases in SHRSP, 12th Asian Congress of Nutrition 2015, Yokohama.

1-④ その他の研究活動

- (1) 科学技術振興機構 復興促進プログラム 成果事例集: 新発酵技術による米糠の高機能化製品開発, pp61 (2016)

豊増知伸

1-① 論文

- (1) Tezuka, D, Ito, A, Mitsuhashi, W, Toyomasu, T and Imai, R (2015) The rice ent-kaurene SYNTHASE LIKE 2 encodes a functional ent-beyerene synthase. *Biochem Biophys Res Commun* 460: 766-771.

1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 岡田憲典, 宮本皓司, 藤田雅文, Matthew R. Shenton, 菅原千都, 坂井亜莉里, 嶋根真奈美, 堀江清孝, 長谷川守文, 川出洋, 三橋渉, 野尻秀昭, 山根久和, 倉田のり, 豊増知伸(2015) 野生イネ *Oryza rufipogon*におけるモミラクソンとファイトカサンの生合成, 植物化学調節学会第50回大会(東京)
- (2) 宮本皓司, 藤田雅文, Matthew R. Shenton, 菅原千都, 坂井亜莉里, 嶋根真奈美, 堀江清孝, 長谷川守文, 川出洋, 三橋渉, 野尻秀昭, 山根久和, 倉田のり, 岡田憲典, 豊増知伸(2015) イネのジテルペン型ファイトアレキシン生合成遺伝子クラスター形成の進化機構, 植物化学調節学会第50回大会(東京)
- (3) 伊藤瑛, 手塚大介, 宮本皓司, 藤田雅文, Matthew R. Shenton, 三橋渉, 山根久和, 倉田のり, 岡田憲典, 今井亮三, 豊増知伸(2015) 野生イネ *Oryza brachyantha*におけるent-kaurene synthase like 2, 植物化学調節学会第50回大会(東京)
- (4) 坂井亜莉里, 菅原千都, 宮本皓司, 藤田雅文, Matthew R. Shenton, 嶋根真奈美, 長谷川守文, 川出洋, 三橋渉, 山根久和, 倉田のり, 岡田憲典, 豊増知伸(2015) 野生イネ *Oryza rufipogon*におけるジテルペン環化酵素遺伝子, 植物化学調節学会第50回大会(東京)
- (5) 松浦嵩, 千葉光浩, 菅野裕理, 瀬尾光範, 岡田憲典, 黒田昌治, 長谷川守文, 三橋渉, 豊増知伸(2015) イネにおけるモミラクソン輸送体遺伝子の探索, 植物化学調節学会第50回大会(東京)
- (6) 明石翔大, 宮本皓司, 藤田雅文, Matthew Shenton, 古海弘康, 倉田のり, 豊増知伸, 山根久和, 野尻秀昭, 岡田憲典(2016) イネ属におけるファイトアレキシン生産能の進化動態, 日本農芸化学会2016年度大会(札幌)
- (7) 宮本皓司, 藤田雅文, Matthew R. Shenton, 坂井亜莉里, 菅原千都, 川出洋, 長谷川守文, 三橋渉, 山根久和, 倉田のり, 岡田憲典, 豊増知伸(2016) イネのジテルペン系ファイトアレキシン生合成遺伝子クラスターの進化過程, 日本農芸化学会2016年度大会(札幌)
- (8) 中川和也, 菅井佳宣, 千葉康隆, 三橋渉, 夏目雅裕, 豊増知伸, 川出洋(2016) 13C同位体を用いた微生物由来ジテルペノイド環化機構の解明, 日本農芸化学会2016年度大会(札幌)
- (9) 豊増知伸(2015)「イネと糸状菌の生理活性ジテルペノイド生合成とその制御に関する分子生物学的研究」(学会賞受賞講演)

永井 毅

1-① 著書

- (1) 永井 毅(編著)(2015). 食品加工が一番わかる, 技術評論社.

1-② 論文

- (1) NAGAI, T., TANOUÉ, Y., KAI, N. and SUZUKI, N. 2015. Characterization of collagen from emu (*Dromaius novaehollandiae*) skins. *Journal of Food Science and Technology*, 52(4), 2344–2351.

1-③ その他の研究活動

- (1) 「お米のコンフィチュール開発」旺文社パズナビ2015年5月22日掲載
- (2) 「お米のコンフィチュール開発」旺文社蜚雪時代2015年5月14日掲載
- (3) 「食品加工が一番わかる」出版.コミュニティ新聞社2015年10月15日掲載
- (4) 食品保存の豆知識」コラム.日刊ゲンダイ2016年1月12日掲載
- (5) 「七窪思恩園の食品加工実習」YBC山形放送ニュース2016年3月12日放送
- (6) 「七窪思恩園の食品加工実習」荘内日報2016年3月15日掲載
- (7) 「七窪思恩園の食品加工実習」コミュニティ新聞2016年3月17日掲載
- (8) 「七窪思恩園の食品加工実習」山形新聞2016年3月18日掲載

木村直子

1-① 学会発表(国内学会)

- (1) 齋藤 匠子, 藤井順逸, 木村直子. 培養系SOD1遺伝子欠損マウス着床前胚における2細胞期発生停止機序の解明. 第56回日本卵子学会大会. 2015年5月30日. 栃木県総合文化センター(栃木市).
- (2) 小原 太樹, 名古 満, 藤井 順逸, 木村 直子. アスコルビン酸添加による抗酸化酵素SOD1遺伝子欠損マウス卵の減数分裂進行の改善. 日本畜産学会第120回大会. 2015年9月12日. 酪農学園大学(江別市).
- (3) 渡辺 連, 藤井 順逸, 木村 直子. マウス卵の初期発生過程におけるミトコンドリア呼吸鎖複合体タンパク質の発現および母体の加齢の影響. 第108回日本繁殖生物学会大会. 2015年9月17日. 宮崎大学木花キャンパス(宮崎市).
- (4) マウス卵のミトコンドリア呼吸鎖複合体タンパク質の発現動態と卵発生能との関わり. 渡辺 連, 阿部宏之, 藤井 順逸, 木村 直子. 第53回東北生殖医学会総会・学術講演会. 2015年10月3日. ホテルキャッスル山形(山形市).
- (5) マウス老齢個体卵のレスキュー成熟培養系の構築～β-NMNの添加による初期発生能と紡錘体形態の改善～. 木村 直子, 岡部 友香, 渡辺 連, 藤井 順逸. 第33回日本受精着床学会総会・学術講演会. 2015年11月26～27日. TFTビル(東京都).
- (6) マウス卵での各ミトコンドリア呼吸鎖複合体タンパク質発現への体外成熟および母体加齢の影響. 渡辺連, 阿部宏之, 藤井順逸, 木村直子. 日本畜産学会第121回大会. 2015年3月29日. 日本獣生命科学大学・第一校舎(東京都).

1-② その他の研究活動

- (1) 平成27年度第20回山形大学医学部技術部職員研修(テーマ:科学研究費補助金の獲得を目指して)で講演:「選考基準と審査結果について」(2015年8月4日、山形大学医学部)

加来伸夫

1-① 学会発表(国内学会)

- (1) 山田知加・加来伸夫・松久大樹・佐藤尚文・富樫亜希・上木厚子・上木勝司(2015) 嫌気消化汚泥を利用した溶存有価金属の回収. 日本微生物生態学会30回大会(土浦).
- (2) 渡部徹・Pham Duy Dong・倉島須美子・加来伸夫(2016) 下水処理水の連続灌漑による飼料用米栽培. 平成27年度土木学会東北支部技術研究発表会(盛岡市).
- (3) Pham Duy Dong, Kurashima Sumiko, Kaku Nobuo, Ito Hiroaki, Watanabe Toru (2016) Development of municipal wastewater reuse system to cultivate rice for animal feeding toward sustainable water and nutrient circulation. 日本水環境学会第3回東北支部研究発表会(仙台市).

1-② 学会発表(国際学会)

- (1) Toru Watanabe, Takuma Mashiko, Rizki Maftukhah, Nobuo Kaku, Kozo Watanabe, Hiroaki Ito. Rice cultivation with power generation by circulated irrigation of treated municipal wastewater. WEF-EESS Asia-Pacific Wastewater Treatment and Reuse Conference 2015, Singapore, June 28 - July 1, 2015

1-③ その他の研究活動

- (1) 日本微生物生態学会大会において「嫌気性界の微生物生態研究部会」を開催(平成20年度より毎年開催)

塩野義人

1-① 論文

- (1) Y. Shiono, H. Koyama, T. Murayama, T. Koseki. 2015. New metabolites from the endophyte *Microdiplodia* sp. TT-12. *Phytochemistry Lett.*, 14, 143-147.
- (2) Y. Shiono, T. Murayama, T. Koseki. 2015. Methyl 3,4-Dicarboxy-3-hydroxyeicosanoate. 2015. *Molbank*, 2, M861.
- (3) K. Kimura, S. Uesugi, N. Fujisawa, J. Yoshida, M. Watanabe, S. Dan, T. Yamori, Y. Shiono. 2016. Pyrrocidine A, a metabolite of endophytic fungi, has a potent apoptosis-inducing activity against HL60 cells through caspase activation via the Michael addition. *J. Antibiot.* 69,133-140
- (4) J. Yokoigawa, K. Morimoto, Y. Shiono, S. Uesugi, K. Kimura, T. Kataoka. 2015. Allantopyrone A, an α -pyrone metabolite from an endophytic fungus, inhibits the tumor necrosis factor α -induced nuclear factor κ B signaling pathway. *J. Antibiot.* 68, 71-75.
- (5) Y. Eryanti, T. Herlina, A. Zamri, Y. Shiono, K. Awang, S. Halim, U. Supratman, 2015. Article: N-benzyl-(3E,5E)-3,5-bis(2-hydroxybenzylidene)-4-piperidone. *Molbank*, M852.
- (6) Harizon, B. Pujiastuti, D. Kurnia, D. Sumiarsa, Y. Shiono, U. Supratman, 2015. Antibacterial Triterpenoids from the Bark of *Sonneratia alba* (Lythraceae). *Natural product communications* 10, 277-280.

1-② 学会発表(国内学会)

- (1) マングローブ植物分離菌 IM2-155 株の生産するジクロロフェノール誘導物質について、塩野義人、宮崎望、古川鞠子、村山哲也、小関卓也、上杉祥太、木村賢一、日本農芸化学東北支部会、平成27年10月、東北大学農学部
- (2) 破骨細胞分化を調節する新規低分子化合物の探索、Y. Kakahara, J. Nakata, Y. Kiyokawa, N. Yamashita, Y. Shiono, M. Saeki, 日本薬理学会、2016年3月9日(水)~11日(金)、パシフィコ横浜 会議センター
- (3) 未利用微生物資源の収集と生理活性物質の探索、塩野義人、日本マイコトキシン学会大77回学術講演、2015年9月11日、(山形大学農学部(マリカホール))
- (4) Allantopyrone A による Keap1-Nrf2 経路の活性化と細胞保護作用、上杉祥太、近藤恭光、室井誠、塩野義人、長田裕之、木村賢一第88回日本生化学大会 平成27年12月1日-4日、神戸ポートアイランド
- (5) 藤稔、大塚基広、水野聖之、塩野義人、小関卓也(2015): 麹菌 *Aspergillus oryzae* のタンナーゼファミリーに属するフェルラ酸エステラーゼ(AoFaeC2)の諸性質、第67回日本生物工学会大会、鹿児島(10月)
- (6) 大塚基広、水野聖之、塩野義人、小関卓也(2015): *Aspergillus oryzae* 由来タンナーゼのループ内に存在するLys-Arg配列について、日本農芸化学会東北支部第150回大会、仙台(10月)
- (7) Allantopyrone A によるKeap1-Nrf2 経路の活性化と細胞保護作用、上杉祥太、近藤恭光、室井誠、塩野義人、長田裕之、木村賢一、第88回日本生化学大会 平成27年12月、神戸ポートアイランド
- (8) ホオノキ (*Magnolia obovata*) の果実に含まれる高極性成分について、武田 滉平、小松 翔、網干 貴子、塩野 義人、村山 哲也、2016年度日本農芸化学会大会、平成28年3月、札幌
- (9) 枯れ枝より分離した糸状菌 *Fusarium solani* T-13株の生産する物質について、塩野義人、Nanang Rudianto Ariefta1、Ruengrit Sappapan1、村山哲也、小関卓也、川村 哲晃、上杉祥太、木村 賢一、2016年度日本農芸化学会大会、平成28年3月、札幌
- (10) *Aspergillus oryzae* 由来 α -L-ラムノシダーゼの酵素学的諸性質、石川真衣、塩 義人、小関卓也、2016年度日本農芸化学会大会、平成28年3月、札幌

- (11) *Aspergillus oryzae*由来タイプDフェルラ酸エステラーゼの基質識別に関わるアミノ酸残基の特定、半田 暖尚、塩野 義人、小関 卓也、2016年度日本農芸化学会大会、平成28年3月、札幌

1-③ 学会発表(国際学会)

- (1) Y. Shiono (2015): A new antimicrobial active metabolites from endophytes. 23rd National Symposium of Natural Products Chemistry, Indonesia. (招待講演)
- (2) Y. Shiono (2015): Antifungal compounds isolated from endophytes against Japanese Oak wilt Pathogen, *Raffaella quercivora*. ICMSE 2015 Conference, Indonesia. (招待講演)

渡辺昌規

1-① 論文

- (1) W. Srisuwan, C. Techapun, P. Seesuriyachan, M. Watanabe and T. Chaiyaso* (2015): Screening of oleaginous yeast for lipid production using rice residue from food waste as a carbon source. Proceeding of "The 6th international conference on fermentation technology for value added agricultural products (FerVAAP 2015)", 77-84

1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 西山航生、楠信行、渡辺昌規 (2015年10月28日): 酵素・電気泳動処理による澱粉含有排水処理法の開発、第67回日本生物工学会大会講演要旨集、pp. 315
- (2) 阿部利徳・渡辺昌規・五十嵐喜治 (2015年11月7日)チェリーワインの醸造とワイン中のポリフェノールおよび抗酸化能について(Brewing of cherry wine, and characterization of the wine with polyphenols and their antioxidant)、日本ブドウ・ワイン学会

1-③ 学会発表(国際学会)

- (1) M. Watanabe, C. Techapun, A. Kuntiya, N. Leksawasdi, P. Seesuriyachan, T. Chaiyaso, and, S. Takenaka, 12-13 Nov. 2015: Simultaneous recovery and purification of rice protein and phosphorus compounds from full-fat and defatted rice bran with organic solvent-free process. The 2nd International symposium on microbial research and biotechnology for biomass utilization, Japan.
- (2) M. Watanabe, C. Techapun, A. Kuntiya, N. Leksawasdi, P. Seesuriyachan, T. Chaiyaso, and, S. Takenaka. 4-5 Feb. 2016: Simultaneous recovery and purification of rice protein and phosphorus compounds from full-fat and defatted rice bran with organic solvent-free process. The 3rd international conference on Food and Applied Bioscience 2016, Thailand (招待講演).
- (3) S. Takenaka, M. Watanabe, A. Kuntiya, N. Leksawasdi, P. Seesuriyachan, T. Chaiyaso and C. Techapun. 29 - 31 July 2015: Characterization of the native form and the carboxy-terminally truncated halotolerant form of α -amylases from *Bacillus subtilis* strain FP-133. The 6th international conference on FerVAAP 2015, Thailand.
- (4) P. Boonchuay, S. Takenaka, M. Watanabe, A. Kuntiya, Techapun, C., Leksawasdi, N., Seesuriyachan, P., Hanmoungjai, P. and Chaiyaso. T. 29 - 31 July 2015. Purification and Characterization of Thermostable Cellulase-free Endo-xylanase from *Streptomyces thermovulgaris* TISTR1948. The 6th International Conference on FerVAAP 2015, Thailand.
- (5) W. Srisuwan, C. Techapun, P. Seesuriyachan, M. Watanabe, and T. Chaiyaso. 29 - 31 July 2015. Screening of Oleaginous Yeast for Lipid Production Using Rice Residue from Food Waste as a Carbon Source. The 6th International Conference on FerVAAP 2015, Thailand.

1-④ その他の研究活動

- (1) Editor, Journal of Bioscience and Bioengineering
- (2) イノベーション・ジャパン2015出展&ショートプレゼンテーション(採択、2015年8月27-28、東京ビッグサイト)
- (3) 産学官連携フェア2015みやぎ出展(2015年12月9日、仙台国際センター)

植物機能開発学コース

村山哲也

1-① 論文

- (1) Y. Shiono, H. Koyama, T. Murayama, T. Koseki. 2015. New metabolites from the endophyte *Microdiplodia* sp. TT-12. *Phytochemistry Lett.*, 14, 143-147.
- (2) Y. Shiono, T. Murayama, T. Koseki. 2015. Methyl 3,4-Dicarboxy-3-hydroxyeicosanoate. 2015. *Molbank*, 2, M861.

1-② 学会発表(国内学会)

- (1) マングローブ植物分離菌 IM2-155 株の生産するジクロロフェノール誘導物質について、塩野義人、宮崎望、古川鞠子、村山哲也、小関卓也、上杉祥太、木村賢一、日本農芸化学東北支部会、平成27年10月、東北大学農学部
- (2) 枯れ枝より分離した糸状菌 *Fusarium solani* T-13株の生産する物質について、塩野義人、Nanang Rudianto Ariefta1、Ruengrit Sappapan1、村山哲也、小関卓也、川村 哲晃、上杉祥太、木村 賢一、日本農芸化学会2016年度大会、平成28年3月、札幌
- (3) ホオノキ(*Magnolia obovata*)の果実に含まれる高極性成分について、武田 滉平、小松 翔、網干 貴子、塩野 義人、村山 哲也、日本農芸化学会2016年度大会、平成28年3月、札幌

俵谷圭太郎

1-① 著書

- (1) Tawaraya K & Turjaman M 2016: Mycorrhizal Fungi in Peatland. In: Osaki M & Tsuji N (eds) *Tropical Peatland Ecosystems*, pp 237-244. Springer, Tokyo.

1-② 論文

- (1) Cheng W, Okamoto Y, Takei M, Tawaraya K & Yasuda H 2015: Combined use of *Azolla* and loach suppressed weed *Monochoria vaginalis* and increased rice yield without agrochemicals. *Organic Agriculture* 5, 1-10.
- (2) Sato T, Ezawa T, Cheng WG & Tawaraya K 2015: Release of acid phosphatase from extraradical hyphae of arbuscular mycorrhizal fungus *Rhizophagus clarus*. *Soil Science and Plant Nutrition* 61, 269-274.
- (3) Narimatsu M, Koiwa T, Masaki T, Sakamoto Y, Ohmori H & Tawaraya K 2015: Relationship between climate, expansion rate, and fruiting in fairy rings ('shiro') of an ectomycorrhizal fungus *Tricholoma matsutake* in a *Pinus densiflora* forest. *Fungal Ecol* 15, 18-28.
- (4) Nakajima M, Cheng WG, Tang SR et al. 2016: Modeling aerobic decomposition of rice straw during the off-rice season in an Andisol paddy soil in a cold temperate region of Japan: Effects of soil temperature and moisture. *Soil Science and Plant Nutrition* 62, 90-98.
- (5) 和崎淳, 丸山隼人 & 俵谷圭太郎 2015: 植物栄養学を生かした農業生産技術について 3. リン酸栄養について—植物における難利用性リンの有効利用—. *日本土壤肥料学雑誌* 86, 213-218.

1-③ 学会発表(国内学会)

- (1) 佐藤匠, 江沢辰広, 程為国, 俵谷圭太郎 (2015) 低リン条件におけるアーバスキュラー菌根菌 *Rhizophagus clarus* の外生菌糸による酸性ホスファターゼの浸出 日本土壤肥料学会2015年度京都大会
- (2) Ahdiar Fikri Maulana 程為国, 俵谷圭太郎(2015) Isolation of root endophytic fungi from forest soils in Indonesia and its effect on growth of *Paraserianthes falcataria* and *Brassica campestris* 日本土壤肥料学会2015年度京都大会
- (3) 本田創一朗, 山崎優美子, 程為国, 中場勝, 岡咲洋三, 及川彰, 丸山隼人, 和崎淳, 我妻忠雄, 俵谷圭太郎 (2015) リン欠乏条件におけるイネの代謝の品種間差 日本土壤肥料学会2015年度京都大会
- (4) 丸山章仁, 丸山隼人, 俵谷圭太郎, 和崎淳(2015) リンリサイクル能の異なるイネ品種における短期間リン処理の影響 日本土壤肥料学会2015年度京都大会

- (5) 湯水栄、程為国、俵谷圭太郎、常田岳志、臼井靖浩、酒井英光、長谷川利拓(2015) Changes in SOC and TN in the soil profile after 5 years Free-air CO₂ enrichment and soil warming in a Japanese rice paddy 日本土壤肥料学会2015京都大会

1-④ 学会発表 (国際学会)

- (1) Sato, T. Ezawa, T. Cheng, W. and Tawaraya, K (2015): Exudation of acid phosphatase from extraradical hyphae of arbuscular mycorrhizal fungus *Rhizophagus clarus* Rhizosphere 4, Netherlands
- (2) Tawaraya, K. Horie, R. Wagatsuma, T. Saito, K. and Oikawa, A. Metabolite profiling of shoot extracts, root extracts, and root exudates of rice under nitrogen and phosphorus deficiency. International Society of Root Research, Australia
- (3) Sato, T. Ezawa, T. Cheng, W. and Tawaraya, K (2015): Release of acid phosphatase from extraradical hyphae of arbuscular mycorrhizal fungus *Rhizophagus clarus* under low P condition. 8th International Conference on Mycorrhiza, USA
- (4) Maulana, A. F., Cheng, W. and Tawaraya K. (2015): Isolation of arbuscular mycorrhizal fungi from forest soils in Indonesia and its effect on growth of *Paraserianthes falcataria*. 8th International Conference on Mycorrhiza, USA
- (5) Tawaraya, K. Horie, R. Saito, K. Oikawa, A. and Wagatsuma, T. (2015) Metabolite profiling of shoot extract, root extracts and root exudates of rice and soybean under phosphorus deficiency. 9th International Symposium on Plant Soil Interaction at low pH Croatia

村山秀樹

1-① 論文

- (1) A. Itai, R. Hatanaka, H. Irie and H. Murayama. 2015. Effects of storage temperature on fruit quality and expression of sucrose phosphate synthase and acid invertase genes in Japanese pear. The Horticulture Journal, 84:
- (2) A. Oikawa, T. Otsuka, R. Nakabayashi, Y. Jikumaru, K. Isuzugawa, H. Murayama, K. Saito, K. Shiratake. 2015. Metabolic profiling of developing pear fruits reveals dynamic variation in primary and secondary metabolites, including plant hormones. PLOS One. DOI:10.1371/journal.pone.0131408

1-② 学会発表 (国内学会)

- (1) 村山秀樹・Imaduddin Yusuf Hanif・板井章浩・及川 彰(2015): 長期貯蔵したセイヨウナシ‘シルバーベル’果実の細胞壁成分に関する研究. 日本食品保蔵科学会第64回大会講演要旨集
- (2) 友松康一・及川彰・村山秀樹・齊藤和季・板井章浩(2015): ナシ野生種および栽培品種果実のメタボローム解析. 平成27年度園芸学会中四国支部会
- (3) 村山秀樹・ノンラック チャロンチョンスック・板井章浩・及川 彰(2015): 果皮全面がサビで覆われるセイヨウナシ果実の果皮色の变化について. 園芸学研究、14別2
- (4) 友松康一・羽生剛・及川 彰・村山秀樹・齊藤和季・板井章浩(2015): セイヨウナシ果実の樹上完熟を阻害するtreeファクターの解析. 園芸学研究、14別2
- (5) 友松康一, 富山由美, 赤木靖典, 石原亨, 児玉基一郎, 保坂ふみ子, 國久美由紀, 寺上伸吾, 山本俊哉, 村山秀樹, 板井章浩(2015): ナシブラウンスポット病罹病性遺伝子座のマッピング. 14別2
- (6) 藤井美希・羽生剛・村山秀樹・板井章浩(2015): セイヨウナシACC合成酵素遺伝子(PcACS1)の低温誘導性発現メカニズムの解析. 14別2

1-③ 学会発表 (国際学会)

- (1) M. Fujii, T. Habu, H. Maruyama, M. Kodama and A., Itai (2015) DNA methylation analysis of the promoter region of ACC synthase (PpACS1) in pear fruits. The 10th International Conference on the Plant Hormone Ethylene. China

1-④ その他の研究活動

- (1) 村山秀樹(2015): 身近な野菜・果物～その起源から生産・消費まで(30)セイヨウナシ(Ⅱ). 日本食品保蔵科学会誌, 41, 77-82

江頭宏昌

1-① その他の研究活動

- (1) 江頭宏昌(2015):巻頭言「在来作物の現地保存の意義とその活用」、特産種苗第20巻:1-2
- (2) 江頭宏昌(2015):「在来作物と庄内に伝わる文書～今を記録し、後世に伝えること」、松柏7月号(897号)
- (3) 江頭宏昌(2015):「在来作物の定義について」、松柏9月号(899号)
- (4) 江頭宏昌(2015):教材研究「野菜の在来品種を訪ねて～その食べ方から考えたこと」、日本調理科学会誌48(6):1-3

程 為国

1-① 論文

- (1) Cheng, W., Padre, A.T., Sato, C., Shiono, H., Hattori, S., Kajihara, A., Aoyama, M., Tawaraya, K., Kumagai, K (2016) Changes in the soil C and N contents, C decomposition and N mineralization potentials in a rice paddy after long-term application of inorganic fertilizers and organic matters. *Soil Science and Plant Nutrition*, DOI:10.1080/00380768.2016.1155169
- (2) Nakajima, M., Cheng, W., Tang, S., Hori, Y., Yaginuma, E., Hattori, S., Hanayama, S., Tawaraya, K., Xu, X.K (2016) Modeling aerobic decomposition of rice straw during off-rice season in an Andisol paddy soil in a cold temperate region, Japan: Effects of soil temperature and moisture. *Soil Science and Plant Nutrition*, 62: 90-98.
- (3) Xu, X., Duan, C., Wu, H., Li T., Cheng, W. (2016) Effect of intensity and duration of freezing on soil microbial biomass, extractable C and N pools, and N₂O and CO₂ emissions from forest soils in cold temperate region. *Science China: Earth Sciences*, 59: 156-169
- (4) Laza, R.C., Sakai, H., Cheng, W., Tokida, T., Peng, S., Hasegawa, T. (2015) Differential response of rice plants to high night temperatures imposed at varying developmental phases. *Agricultural and Forest Meteorology*, 209: 69-77
- (5) Wu, H., Xu, X., Duan, C., Li, T., Cheng, W. (2015) Effect of vegetation type, wetting intensity, and nitrogen supply on external carbon stimulated heterotrophic respiration and microbial biomass carbon in forest soils. *Science China: Earth Sciences*, 58: 1446-1456
- (6) Cheng, W., Takei, M., Sato, C., Kautsar, K., Sasaki, Y., Sato, S., Tawaraya, K., Yasuda, H. (2015) Combined use of Azolla and loach suppressed paddy weeds and increased organic rice yield: second season results. *Journal of Wetlands Environmental Management*, 3: 1-13
- (7) 程 為国 (2016) 温暖化が水田からの温室効果ガスメタン放出量に及ぼす影響、農業および園芸、91(1):194-198

1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 中嶋美幸・程 為国・堀 泰彰・湯 水栄・花山 奨・俵谷圭太郎:東北黒ボク水田土壌における稲わら分解に及ぼす温度と水分の影響、日本土壌肥料学会2015年度東北支部会、秋田、講演要旨集、p.4、(2015年7月)
- (2) Nguyen Sy Toan・程 為国・塩野宏之・俵谷圭太郎・熊谷勝巳:Changes in soil organic matter and rice yield with manure application and climate change: a study of 32 years long-term experiment in Yamagata. 日本土壌肥料学会2015年大会、京都、講演要旨集 第61集、p.185、(2015年9月)
- (3) Shuirong Tang, Weiguo Cheng, Keitaro Tawaraya, Takeshi, Tokida, Yasuhiro Usui, Hidemitsu Sakai, Toshihiro Hasegawa: Changes in SOC and TN in the soil profile after 5 years Free-air CO₂ enrichment (FACE) and soil warming in a Japanese rice paddy、日本土壌肥料学会2015年大会、京都、講演要旨集 第61集、p.181、(2015年9月)
- (4) Guigue J, Harir M, Mathieu O , Lucio M , 程 為国 , Leveque J , Schmitt-Kopplin P: Molecular characterisation of water-extractable organic matter in soils using ultrahigh-resolution mass spectrometry、日本土壌肥料学会2015年大会、京都、講演要旨集 第61集、p.165、(2015年9月)
- (5) 佐藤真樹・C.M.L. Lopez・高階文章・程 為国・野堀嘉裕:庄内地方のクロマツ-ニセアカシア混交林からのN₂O 放出は主にニセアカシアのリター由来である、日本土壌肥料学会2015年大会、京都、講演要旨集 第61集、p.180、(2015年9月)
- (6) 程 為国: 中国古代における土地神、「土壌と東西の神々」シンポジウム、日本土壌肥料学会2015年大会、京都、講演要旨集 第61集、p.220、(2015年9月)

- (7) 八木沼 瑛子・程 為国・堀 泰彰・湯 水栄・俵谷 圭太郎:安定同位体自然存在比を用いた畑圃場におけるC4 作物由来の炭素量の推定、日本土壌肥料学会2015年大会、京都、講演要旨集 第61集、p.186、(2015年9月)

1-③ 学会発表(国際学会)

- (1) Weiguo Cheng, Agnes T. Padre, Chizuru Sato, Hiroyuki Shiono, Satoshi Hattori, Akihiko Kajihara, Masakazu Aoyama, Keitaro Tawaraya and Katsumi Kumagai (2015) Changes in the soil C and N stocks, and their mineralization potentials in a rice paddy after long-term application of inorganic and organic fertilizers. 22nd International Symposium on Environmental Biogeochemistry (ISEB22). Piran, Slovenia, 28 September–2 October, 2015.
- (2) Shuirong Tang, Weiguo Cheng, Ronggui Hu, Yasuaki Hori, Keitaro Tawaraya (2015) Rates of rice straw decomposition affected by temperature and moisture in an Inceptisol paddy soil calculated from CO₂ and CH₄ productions, SOC contents, and δ¹³C values. 22nd International Symposium on Environmental Biogeochemistry (ISEB22). Piran, Slovenia, September–2 October, 2015.
- (3) Miyuki Nakajima and Weiguo Cheng (2016) Shallow autumn tillage to incorporate rice straw did not reduce CH₄ emission in the next rice growth season from an Andisol paddy field in Morioka, cold region in Japan. ISAM2016 International Symposium on Agricultural Meteorology. Okayama, Japan. 14–17 March, 2016.

1-④ その他の研究活動

- (1) Editor, Journal of Wetlands Environmental Management
- (2) Editor, Soil Science and Plant Nutrition

笹沼恒男

1-① 学会発表(国内学会)

- (1) 笹沼恒男、高橋優利佳、相澤由佳里、青柳沙緒莉、阿部利徳 (2015年9月11日):2012–2014年の主要形態形質調査に基づくペニバナ遺伝資源の評価、日本育種学会第128回講演会要旨集、19.
- (2) 赤池隆亮、柿崎彩佳、笹沼恒男 (2015年9月12日):北コーカサスで採集されたタルホコムギ遺伝資源の穂の形態及び製パン性の評価、日本育種学会第128回講演会要旨集、27.
- (3) 鶴巻啓一、稲葉有紀、松本幸也、笹沼恒男 (2015年9月12日):トウガラシの果実色とカロテノイド生合成経路遺伝子 *Psy*、*Ccs* の関係について、日本育種学会第128回講演会要旨集、161.
- (4) 赤池隆亮、柿崎彩佳、笹沼恒男 (2015年11月6日):北コーカサスで採集されたタルホコムギの種子形態及び製パン性に関する遺伝育種学的評価、第36回種子生理生化学研究会年会講演要旨集、12–13.
- (5) 鶴巻啓一、稲葉有紀、松本幸也、笹沼恒男 (2015年11月14日):トウガラシ *chinense* 種の果実色関連遺伝子 *Ccs*、*Psy* の変異型アリル多様性について、第10回東北育種研究集会.
- (6) 笹沼恒男、田中裕之、佐藤和広、朱明婧、龍春林 (2015年11月14日):中国青海省チベット高原におけるムギ類遺伝資源の現状、第10回東北育種研究集会.
- (7) 赤池隆亮、柿崎彩佳、笹沼恒男 (2015年11月14日):SDS沈降法と *Pin-D1* 遺伝子多型解析によるタルホコムギ遺伝資源の製パン性評価、第10回東北育種研究集会.
- (8) 平田ありさ、赤池隆亮、柿崎彩佳、西田英隆、Zezua Asanidze、Tamar Bragvadze、Olga N. Kovaleva、Tamara N. Smekalova、笹沼恒男 (2015年11月14日):コーカサス遺伝資源に見られたタルホコムギの種内分化した2グループ間の形態的差異、第10回東北育種研究集会.
- (9) 笹沼恒男、田中裕之、佐藤和広、朱明婧、龍春林 (2016年3月21日):中国青海省チベット高原におけるムギ類遺伝資源の探索及び収集、一般社団法人日本育種学会第129回講演会要旨集、36.
- (10) 赤池隆亮、柿崎彩佳、笹沼恒男 (2016年3月21日):タルホコムギ遺伝資源の製パン性に関する遺伝育種学的評価、一般社団法人日本育種学会第129回講演会要旨集、40.
- (11) 鶴巻啓一、稲葉有紀、松本幸也、笹沼恒男 (2016年3月21日):トウガラシ白色果実系統“チェイロホワイト”の *Psy*、*Ccs* の変異解析とTLICによるカロテノイド組成分析、一般社団法人日本育種学会第129回講演会要旨集、163.

1-② その他の研究活動

- (1) タルホコムギの研究に関する記事掲載, 庄内日報2016年2月28日(第1面)

星野友紀

1-① 論文

- (1) Hori, K., Nonoue E, Y., Ono, N., Shibaya, T., Ebana, K., Matsubara, K., Ogiso-Tanaka, E., Tanabata, T., Sugimoto, K., Taguchi-Shiobara, F., Yonemaru, J., Mizobushi, R., Uga, Y., Fukuda, A., Ueda, T., Yamamoto, S., Yamanouchi, U., Takai, T., Ikka, T., Kondo, K., Hoshino, T. et al. (2015) Genetic architecture of variation in heading date among Asian rice accessions. *BMC Plant Biology*, Vol.15: 115.
- (2) Nishizawa-Yokoi, A., Cermak, T., Hoshino, T., Sugimoto, K., Saika, H., Mori, A., Osakabe, K., Hamada, M., Katayose, Y., Starker, C., Voytas, D. F. and Toki, S. (2016) A defect in DNA ligase4 enhances the frequency of TALEN-mediated targeted mutagenesis in rice. *Plant Physiology*, Vol.170: 653-666.

1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 川上珠恵、吉田拓也、石川衿子、阿部勝磨、後藤元、中場勝、星野友紀(2015): 逆遺伝学的解析に適応した水稻品種「つや姫」DEB突然変異集団の作出と評価、日本育種学会第128会講演会要旨集、17-2、169.
- (2) 永田和史、野々上慈徳、溝淵律子、小野望、柴谷多恵子、江花薫子、松原一樹、小木曾映里、七夕高也、杉本和彦、田口文緒、米丸淳一、宇賀優作、福田篤徳、上田忠正、山本伸一、山内歌子、高井、俊之、一家崇志、近藤勝彦、星野友紀ら(2015): 栽培イネの有用変異発掘を促進する12種類の染色体断片置換系統群の作出、日本育種学会第128会講演会要旨集、17-2、131.
- (3) 上村千穂、川上珠恵、相澤拓、橋本阿佐美、吉田拓也、芳士戸啓、王莫非、飯島信繁、畑昌和、森茂太、星野友紀(2015): 収量性の向上を目指した水稻品種群における器官別呼吸速度の比較、東北植物学会第5会大会研究発表記録、36.
- (4) 川上珠恵、吉田拓也、石川衿子、阿部勝磨、後藤元、中場勝、星野友紀(2015): 「つや姫」DEB突然変異集団からのデンプン代謝系突然変異体の単離、東北植物学会第5会大会研究発表記録、37.
- (5) 吉田拓也、川上珠恵、石川衿子、阿部勝磨、阿部洋平、後藤元、中場勝、星野友紀(2015): 「つや姫」DEB突然変異集団の作出と出穂期突然変異体の単離、東北植物学会第5会大会研究発表記録、38.
- (6) 森茂太、王莫非、芳士戸啓、相澤拓、星野友紀、上村千穂、川上珠恵、橋本阿佐美、吉田拓也、山路恵子(2015): 網羅的な陸上植物個体の地上部と根系の呼吸分配バランスの法則性、東北植物学会第5会大会研究発表記録、74.

1-③ その他の研究活動

- (1) 飯島信繁、畑昌和、星野友紀: おいしい山形印の新エダマメ品種の開発(招待講演)、山形大学「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」協働・循環型「やまがた創生」人材事業キックオフ・シンポジウム、山形大学「地(知)の拠点整備事業(COC)」自立分散型(地域)社会システムを構築し、運営する人材の育成シンポジウム、平成28年2月9日、ホテルメトロポリタン山形

及川 彰

1-① 論文

- (1) Zargar, S.M., Kurata, R., Inaba, S., Oikawa, A., Fukui, R., Ogata, Y., Agrawal, G.K., Rakwal, R., Fukao, Y. Quantitative proteomics of Arabidopsis shoot microsomal proteins reveals a cross-talk between excess zinc and iron deficiency. *Proteomics*, 15, 1196-1201, 2015.
- (2) Oikawa, A., Otsuka, T., Nakabayashi, R., Jikumaru, Y., Isuzugawa, K., Murayama, H., Saito, K., Shiratake, K. Metabolic Profiling of Developing Pear Fruits Reveals Dynamic Variation in Primary and Secondary Metabolites, Including Plant Hormones. *PLoS One*, 10(7), e0131408, 2015.
- (3) Maekawa, M., Honoki, R., Ihara, Y., Sato, R., Oikawa, A., Kanno, Y., Ohta, H., Seo, M., Saito, K., Masuda, S. Impact of the plastidial stringent response in plant growth and stress responses. *Nature Plants*, 15167, 2015.

- (4) 及川彰(2015)“フードメタボロミクスにおけるCE-MSの応用”10, 25-30. バイオインダストリー

1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 及川 彰(2015):一次代謝物の網羅解析を食品産業に応用する, 食品科学工学会
(2) 及川 彰(2015):外部環境条件と‘ダダチャマメ’品質の相関解析, 日本農芸化学会東北支部会
(3) 及川 彰(2015):果実のメタボローム解析, 日本農芸化学会東北支部会(受賞講演)
(4) 及川 彰(2015):Clarification of metabolite dynamics in a cell, 植物生理学会

服部 聡

1-① 論文

- (1) Okuma, M., Noda, S., Hattori, S., Iida, T., Yuki, M., Starns, D., Inoue, J., and Hongoh, Y.(2015) Acetogenesis from H₂ plus CO₂ and nitrogen fixation by an endosymbiotic spirochete of a termitegut cellulolytic protist. Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America(PNAS), 112, 10224-10230.
(2) Cheng, W., Padre, A. T., Sato, C., Shiono, H., Hattori, S., Kajihara, A., Aoyama, M., Tawaraya, K., and Kumagai, K. (2016) Changes in the soil C and N contents, C decomposition and N mineralization potentials in a rice paddy after long-term application of inorganic fertilizers and organic matter. Soil Science and Plant Nutrition, 62, 212-219.

1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 堀翔太、入江佳奈、出村真里、服部聡(2015):山形県飛鳥海水中に生息する海洋性放線菌の探索、第30回日本微生物生態学会、PA-023.

網干貴子

1-① 論文

- (1) Yan J, Aboshi T., Teraishi M, Strickler SR, Spindel JE, Tung CW, Takata R, Matsumoto F, Maesaka Y, McCouch SR, Okumoto Y, Mori N, Jander G (2015): The Tyrosine Aminomutase TAM1 Is Required for β -Tyrosine Biosynthesis in Rice. Plant Cell, 4: 1265-78.

1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 網干貴子, Jian Yan, 寺石政義、奥本裕、石原亨、Georg Jander、森直樹(2016):ジャスモン酸処理したイネ葉における β -チロシンの蓄積、日本農薬学会第41回大会、B320.
(2) 網干貴子、松本ふう香、Jian Yan、寺石政義、奥本裕、Georg Jander、森直樹(2016): β -Tyrosineのイネ品種間における含量の比較と生理活性の検討、日本農芸化学会第2016年度大会、2H035.
(3) 武田滉平、小松翔、網干貴子、塩野義人、村山哲也(2016):ホオノキ(Magnolia obovata)の果実に含まれる高極性成分について、日本農芸化学会第2016年度大会、3B027.

森林科学コース

野堀嘉裕

1-① 著書

- (1) 小山浩正・平 智編著(2016)森のひみつ木々のささやき(分担執筆). 143pp. 山形大学出版会, 上山市.

1-② 論文

- (1) Mizota, C., Furukawa, Y., Yamanaka, T., Okano, O. and Nobori, Y. (2015) Historic saltpetre of British Indian origin: An isotopic and socio-economic analysis. *Journal of Archaeological Science: Reports* 2: 532-537.

1-③ 学会発表(国内学会)

- (1) 川合駿之介・野堀嘉裕・遠藤麻央・武田岬・武田一夫(2015)モンゴル南北森林地帯におけるカラマツの成長評価. 東北森林科学会大会要旨集 20回:16-16.
- (2) 武田岬・遠藤麻央・川合駿之介・野堀嘉裕(2015)山形県遊佐町海岸林におけるクロマツ成長量評価. 東北森林科学会大会要旨集 20回:18-18.
- (3) 野堀嘉裕(2015)森林構造のCT解析システムの開発. 東北森林科学会大会要旨集 20回:22-22.
- (4) 遠藤麻央・川合駿之介・武田岬・野堀嘉裕(2015)東北日本海側ブナ二次林の収量-密度図の構築. 東北森林科学会大会要旨集 20回:23-23.
- (5) 今村百太・武田一夫・野堀嘉裕(2016)カラマツの早材・晩材の出現時期に影響を及ぼす気象因子の特定-日本(帯広)とモンゴル(ハトガル)の比較-. 日本森林学会大会講演要旨集 127:P1-147.

高橋孝悦

1-① 学会発表(国内学会)

- (1) 鈴木佑梨, 西條裕美, 芦谷竜矢, 高橋孝悦 (2016):スギ心材含有テルペノイドの藍藻類*Microcystis aeruginosa*に対する増殖抑制効果, 第66回日本木材学会大会研究発表要旨集, CDROM, M28P04
- (2) 向井堯徳, 高橋孝悦, 芦谷竜矢(2016): Thujopseneの自動酸化反応, 第66回日本木材学会大会研究発表要旨集, CDROM, M28P06
- (3) 寺崎史也, 高橋孝悦, 芦谷竜矢(2016): ブナ葉抽出成分の抗菌活性, 第66回日本木材学会大会研究発表要旨集, CDROM, M28P07
- (4) 田中駿耶, 小山浩正, 高橋孝悦, 芦谷竜矢(2016): カイツカイブキ針葉成分の植物生長抑制効果, 第66回日本木材学会大会研究発表要旨集, CDROM, M28P08

1-② 学会発表(国際学会)

- (1) Yuri Suzuki, Hiromi Saijo, Koetsu Takahashi, Tatsuya Ashitani (2015): Growth inhibition activity of Sugi (*Cryptomeria japonica*) components against *Microcystis aeruginosa*, 31st Conference for the International Society for Chemical Ecology (ISCE 2015), Abstract 358, Stockholm, SWEDEN
- (2) Masendra, Tatsuya Ashitani, Koetsu Takahashi, Ganis Lukmandaru(2015): Chemical Composition of Bark Extractives from Six Different Pinus species, 7th International Symposium of Indonesian Wood Research Society (IWoRS), Abstract 101, Indonesia
- (3) Akisato Mukai, Tatsuya Ashitani, Koetsu Takahashi (2015年12月19日): Autoxidation of longifolene and antitermite activity of its products, 2015 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (Pacifichem 2015), ENVR 816, Hawaii, USA

森 茂太

1-① 論文

- (1) A Ishida, S Mori, M Yokozawa, J Yoshimura et al. (2015) Microhabitat locality allows multi-species coexistence in terrestrial plant communities. Scientific Reports 5, Article number: 15376. doi:10.1038/srep15376
- (2) A Ishida, S Mori, J Yoshimura et al. (2015) The contribution of seed dispersers to tree species diversity in tropical rainforests. Royal Society. Open Science. 2: 150330. <http://dx.doi.org/10.1098/rsos.150330>
- (3) K Yamaii, S Mori et al. (2015) Catechin production in roots of *Thujopsis dolabrata* var. *hodai* in soils on Mt. Httacme with high Ni concentrations. Plant Root 9: 70-78.. <http://doi.org/10.3117/plantroot.9.70>
- (4) D Flaster, S Mori et al. (2015) A Biomass and Allometry database for woody plants. Ecology 96:1445. <http://dx.doi.org/10.1890/14-1889.1>

1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 沖村沙耶佳, 山路恵子(筑波大学大学院・生命環境), 森茂太ほか(2015)早池峰山・蛇紋岩地帯のヒバ実生における内生菌の関与したNi耐性メカニズム. 日本生態学会63大会. P1-068
- (2) 芳士戸啓(山形大・農), 王莫非(山形大・農), 相澤拓(山形大・農), Juan Pedro Ferrio(リエイダ大), 森茂太(山形大・農)(2015)地上、地下部呼吸バランスから見た陸上植物の生き方. 日本生態学会63大会. P1-089
- (3) 相澤拓, 芳士戸啓, 王莫非, 森茂太(2016)重力が左右する生物個体呼吸スケーリング. 日本生態学会63大会. P1-090
- (4) 王莫非, 芳士戸啓, 相澤拓, 森茂太 (2016) タケノコと樹木の呼吸スケーリングは何故似ているか? 日本生態学会63大会. P1-092
- (5) 芳賀由晃, 森茂太 (2016) 種子から実生の呼吸スケーリング. 日本生態学会63大会. P1-102
- (6) 森茂太, 王莫非, 芳士戸啓, 相澤拓, 芳賀由晃(2016)網羅的に見る陸上生態系の呼吸スケーリング -菌類、草本、木本の共通点と相違点- 日本生態学会63大会. P2-096
- (7) 森茂太, 王莫非, 芳士戸啓, 相澤拓, 星野友紀, 上村千穂, 川上珠恵, 橋本阿佐美, 吉田拓也, 山路恵子(筑波大・生命環境系)(2016)網羅的な陸上植物個体の地上部と根系の呼吸分配バランスの法則性, 東北植物学会発表
- (8) 相澤拓・王莫非・芳士戸啓・森茂太 (2016)維管束植物個体と菌類子実体の呼吸スケーリングと重力影響 東北植物学会発表
- (9) 森茂太・王莫非・芳士戸啓・相澤拓・芳賀芳彦(山形大)・フェリオジュアンペドロ(スペイン、リエイダ大学)・春間俊克・山路恵子(筑波大)・石田厚(京大)・小山耕平(帯広畜産大)ほか (2016) 全陸上植物個体に共通した根呼吸への配分ルール. 東北森林科学会20回
- (10) 相澤拓・芳士戸啓・王莫非・森茂太 (2015)陸上と水界生態系の呼吸スケーリング 個体呼吸は系統、環境どちらで決まるのか? 東北森林科学会20回
- (11) 森茂太・王莫非・芳士戸啓・相澤拓・フェリオジュアンペドロ・春間俊克・山路恵子・石田厚・小山耕平. 陸上植物個体の地上/地下部のバランス法則. 根研究学会42回
- (12) 芳士戸啓・王莫非・森茂太植物個体の地上/地下部呼吸はトレードオフか? 根研究学会42回
- (13) 相澤拓・芳士戸啓・王莫非・森茂太担子菌子実体の呼吸スケーリングはなぜ植物と等しいか? 根研究学会42回
- (14) 王莫非・芳士戸啓・森茂太(2015)葉の有無によるシュート呼吸の違い-タケノコと樹木の比較- 根研究学会42回

1-③ 学会発表(国際学会)

- (1) J P FERRIO, T AIZAWA, H HOSHIDO, M WANG, S MORI (2015) Scaling tree water use in young individuals of Japanese cedar in relation to above- and belowground respiration, size and growth. Scaling tree water use in young individuals of Japanese cedar in relation to above- and belowground respiration, size and growth. European Ecological Federation in Rome

1-④ その他の研究活動

- (1) ATM Rafiqul Hoque, Shigeta Mori (2015) Role of mangroves in Japan yet to be explored (Important yet ignored!) DIWPA News Letter. No.33: 9-13. (Koyoto Univ.)

林田光祐

1-① 著書

- (1) 林田光祐(2016): 里山のスプリング・エフェメラル、早春の里山の赤い宝石、さくらんぼのタネ飛ばし、外来種バスターズ、海岸林の生態系サービス、「森のひみつ 木々のささやき」、小山浩正・平智編、山形大学出版会、56-57, 62-63, 66-67, 82-83, 84-85

1-② 論文

- (1) 田村浩喜・金子智紀・林田光祐*(2015): 東北日本海側の海岸砂丘の無立木地とクロマツ林内に植栽したカシワの定着と成長. 海岸林学会誌, 14, 7-11.
- (2) 本田詩織・林田光祐*(2015): 三陸南部の津波浸水地における広葉樹6種のサイズと樹冠の浸水程度が個体の樹冠の衰退程度に及ぼす影響. 海岸林学会誌, 14, 13-20.

1-③ 学会発表(国内学会)

- (1) 高橋文・大築和彦・林田光祐(2015): 選択的刈り払いによる学校林の整備効果. 東北森林科学会大会講演要旨集、20、10.
- (2) 高橋章文・林田光祐(2015): ヤマボウシの果実の形態・成熟フェノロジーと動物による種子散布. 東北森林科学会大会講演要旨集、20、35.
- (3) 林田光祐・本田詩織(2015): 三陸南部の津波浸水地の海岸林を構成する広葉樹種間のサイズと樹冠の浸水程度を考慮した耐塩水性の比較. 東北森林科学会大会講演要旨集、20、73.
- (4) 林田光祐・結城伸(2015): 2011年津波被害を受けた仙台平野の海岸林におけるクロマツの天然更新の現状. 日本海岸林学会平成27年度大会講演要旨集、27、26-27.
- (5) 岩川竜也・林田光祐(2015): クロマツ海岸林における重機を用いた有機物層除去が林床植生に及ぼす影響とその持続性. 日本海岸林学会平成27年度大会講演要旨集、27、34-35.
- (6) 藤原崇・齋藤倫実・林田光祐(2016): 列状間伐したスギ林における伐採後の広葉樹の更新. 日本森林科学会大会学術講演集、127、128.
- (7) 高橋章文・林田光祐(2016): 被食型散布樹種であるヤマボウシの果実の形態と成熟フェノロジー. 日本森林学会大会学術講演集、127、131.

1-④ その他の研究活動

- (1) 林田光祐(2015): 早春の里山の赤い宝石, 森の時間87, 荘内日報 2015年4月14日.
- (2) 林田光祐(2015): さくらんぼのタネ飛ばし, 森の時間90, 荘内日報 2015年7月11日.
- (3) 林田光祐ほか(2016): 都沢湿地内(どろんこ広場)における植生に関する研究報告書(平成27年度). 5pp. 2016年1月、鶴岡市.
- (4) 林田光祐ほか(2016): 大山上池・下池、都沢湿地における植生に関する研究報告書(平成27年度). 19pp. 2016年3月、鶴岡市.

菊池俊一

1-① 学会発表(国内学会)

- (1) 菊池俊一(2015): 2015年8月25日、飯豊連峰・朝日連峰における協働型登山道修復の成果と課題、東日本林業経済研究会(招待講演)
- (2) 菊池俊一(2016): 協働型山岳環境修復・復元作業への地域外有志の受入は可能か?、第127回日本森林学会大会学術講演集、184

芦谷竜矢

1-① 論文

- (1) T. Ashitani, S.S. Garbouï, F. Schubert, C. Vongsombath, I. Liblikas⁵, K. Pålsson, A.-K. Borg-Karlson (2015): Activity studies of sesquiterpene oxides and sulfides from the plant *Hyptis suaveolens* (Lamiaceae) and its repellency on *Ixodes ricinus* (Acari: Ixodidae), *Experimental and Applied Acarology*, 67, 595-606

- (2) 芦谷竜矢, 楠本倫久 (2016): 節足動物・微生物とにおい成分の関係, におい・かおり環境学会誌, 47(1), 10-16

1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 鈴木佑梨, 西條裕美, 芦谷竜矢, 高橋孝悦 (2016): スギ心材含有テルペノイドの藍藻類 *Microcystis aeruginosa* に対する増殖抑制効果, 第66回日本木材学会大会研究発表要旨集, CDRom, M28P04
- (2) 向井堯徳, 高橋孝悦, 芦谷竜矢 (2016): Thujopseneの自動酸化反応, 第66回日本木材学会大会研究発表要旨集, CDRom, M28P06
- (3) 寺崎史也, 高橋孝悦, 芦谷竜矢 (2016): ブナ葉抽出成分の抗菌活性, 第66回日本木材学会大会研究発表要旨集, CDRom, M28P07
- (4) 田中駿耶, 小山浩正, 高橋孝悦, 芦谷竜矢 (2016): カイツカイブキ針葉成分の植物生長抑制効果, 第66回日本木材学会大会研究発表要旨集, CDRom, M28P08

1-③ 学会発表(国際学会)

- (1) Yuri Suzuki, Hiromi Saijo, Koetsu Takahashi, Tatsuya Ashitani (2015): Growth inhibition activity of Sugi (*Cryptomeria japonica*) components against *Microcystis aeruginosa*, 31st Conference for the International Society for Chemical Ecology (ISCE 2015), Abstract 358, Stockholm, SWEDEN
- (2) Norihisa Kusumoto, Tatsuya Ashitani, Koetsu Takahashi, Gunilla Swedjemark, Tao Zhao, Anna-Karin Borg-Karlson (2015): Identification of fomanozin in *Picea abies* naturally infected by *Heterobasidion parviporum* and the effects of terpene constituents on its production, 31st Conference for the International Society for Chemical Ecology (ISCE 2015), Abstract 476, Stockholm, SWEDEN
- (3) Fredrik Schubert, Tatsuya Ashitani, Samira Garbouy, Chanda Vongsombath, Ilme Liblikas, Katinka Pålsson, Anna-Karin Borg-Karlson (2015): The Plant *Hyptis suaveolens* (Lamiaceae) repellency on *Ixodes ricinus* (Acari: Ixodidae): Structure activity study of sesquiterpene oxide and sulfide, 31st Conference for the International Society for Chemical Ecology (ISCE 2015), Abstract 477, Stockholm, SWEDEN
- (4) Tatsuya Ashitani, Yui Sasaki, Norihisa Kusumoto (2015): Chemical characterization of branch galls on *Cryptomeria japonica* trees in Japanese forest, 31st Conference for the International Society for Chemical Ecology (ISCE 2015), Abstract 496, Stockholm, SWEDEN
- (5) Masendra, Tatsuya Ashitani, Koetsu Takahashi, Ganis Lukmandaru (2015): Chemical Composition of Bark Extractives from Six Different *Pinus* species, 7th International Symposium of Indonesian Wood Research Society (IWoRS), Abstract 101, Indonesia
- (6) Akisato Mukai, Tatsuya Ashitani, Koetsu Takahashi (2015年12月19日): Autoxidation of longifolene and antitermite activity of its products, 2015 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (Pacifichem 2015), ENVR 816, Hawaii, USA

ロペス・ラリー

1-① 論文

- (1) Fujiyoshi L., Sugimoto A., Tsukuura A., Kitayama A., Lopez C.M.L., Byambasuren M., Ariunaa S., Tsujima M., 2016. Spatial variations in larch needle and soil $\delta^{15}N$ at a forestgrassland boundary in northern Mongolia. *Isotopes in Environmental and Health Studies* (In Press).
- (2) Fedorov A.N., Iwahana G., Konstantinov P.Y., Machimura T., Argunov R., Lopez C.M.L., Takakai F., 2016. Variability of permafrost and landscape conditions following clear-cutting in Central Yakutia. *Permafrost and Periglacial Processes* (In Press).

1-② 学会発表(国際学会)

- (1) Effect of warming on larch trees in the Asian southern border of the boreal forest, Mongolia and China in the 20th century (2016): European Geoscience Union. April 17-22, 2016, Vienna, Austria.

林 雅秀

1-① 学会発表(国内学会)

- (1) 林雅秀・三須田善暢・庄司知恵子 (2015): 岩手県二戸郡石神村における名子制度と漆器業・漆器市場, 市場史研究会 (2015年11月21日, 宮城県仙台市)

- (2) 林雅秀(2015)家族経営体の経営行動に影響する要因, 林業経済学会研究会Box, 37
- (3) 林雅秀(2015)新制度学派の立場からみた森林管理制度, 林業経済学会研究会Box, 38

江成広斗

1-① 著書

- (1) 江成広斗(2015)サル問題の「解決」に向けた次の一手. とちぎの野生動物—私たちの研究のカタチ (關義和、丸山哲也、奥田圭、竹内正彦、編). 随想舎. pp. 239-243

1-② 論文

- (1) Enari H, Koike S, & Sakamaki-Enari H (2016) Ecological implications of mammal feces buried in snow through dung beetle activities. Journal of Forest Research 21 92-98
- (2) 江成広斗・渡邊邦夫・常田邦彦 (2015) ニホンザル捕獲の現状: 全国市町村アンケート結果から. 哺乳類科学 55(1) 43-52
- (3) 江成広斗 (2015) 東北における森林動物管理の拠点作りを目指して. 森林科学 75: 50
- (4) 江成広斗 (2015) 市町村におけるサル管理の課題と今後. 霊長類研究 31:66-67

1-③ 学会発表(国内学会)

- (1) 江成広斗(2015)白神に残されたニホンザルの生態と意味. 日本霊長類学会 (招待講演)
- (2) 江成広斗(2015)多雪地生態系におけるニホンザルの役割を考える ~白神山地を事例に. 京都大学霊長類研究所共同利用研究会: ニホンザル研究のこれまでと、今後の展開を考える (招待講演)
- (3) 江成広斗、角田裕志、大澤剛士、大橋春香(2015)新たな野生生物問題: 人口減少時代をどう乗り切るか?。「野生生物と社会」学会
- (4) 江成はるか、江成広斗(2015)土地利用の複雑さとニホンザルによる農作物被害の加害度との関連性。「野生生物と社会」学会
- (5) 佐藤有沙・江成広斗・江成はるか(2015) 東北日本海側の人口減少地域におけるハクビシンの生息地選択。「野生生物と社会」学会

1-④ 学会発表(国際学会)

- (1) 角田裕志、江成広斗、桜井良(2015)A Preliminary Review on the Factors Regulating the Strength of Top-down Trophic Cascades Following Wolf Recolonization. Vth International Wildlife Management Congress 2015
- (2) 江成はるか、江成広斗(2015) Identifying Risk of Agricultural and Property Damage from Increasing Wild Mammal Populations in Shrinking Human Society. Vth International Wildlife Management Congress 2015
- (3) 江成広斗(2015) The Japan Syndrome and expanding human-monkey conflicts: present situation and future prospects. Vth International Wildlife Management Congress 2015

水土環境科学コース

藤井秀人

1-① 論文

- (1) FUJII Hideto, FUJIHARA Yoichi and HOSHIKAWA Keisuke(2016):Expansion of Full-dyke System and its Impact in Flood-prone Rice Area in the Mekong Delta, JIRCAS Working Report 84.
- (2) TRINH Thi Long, VO Khac Tri, NGUYEN van Khanh Triet, PHAM The Vinh, FUJII Hideto (2016):Evaluation of Full-Dyke System Impact on the Flow Regime in the Flood Prone Area of the Mekong Delta. JIRCAS Working Report 84.

1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 星川圭介・藤原洋一・藤井秀人・横山繁樹(2015)メコンデルタの水文状況に洪水期稲作拡大が及ぼす影響.H27年農業農村工学会大会講演会講演要旨集[2-01]
- (2) 藤原洋一・星川圭介・藤井秀人・横山繁樹(2015)メコンデルタにおける河川水位上昇の要因分析.H27年農業農村工学会大会講演会講演要旨集[5-33(P)]

奥山武彦

1-① 学会発表(国内学会)

- (1) 奥山武彦 (2015):地すべり対策排除地下水の水質変化, 農業農村工学会東北支部第58回研究発表会講演要旨集、150-151.

安中武幸

1-① 論文

- (1) 安中武幸・花山奨(2015):ECH2O 5TEによる土壌含水率出力への電気伝導度と温度の影響, 土壌の物理性, 130, 13-18

花山 奨

1-① 論文

- (1) 安中武幸, 花山奨 (2015): ECH2O5TEによる土壌含水率出力への電気伝導度と温度の影響 土壌の物理性, 130, 13-18
- (2) M. Nakajima, W. Cheng, S. Tang, Y. Hori, E. Yaginuma, S. Hattori, S. Hanayama, K. Tawaraya, and X. Xu (2015):Modeling aerobic decomposition of rice straw during the off-rice season in an Andisol paddy soil in a cold temperate region of Japan : Effects of soil temperature and moisture Soil Science and Plant Nutrition, 62, 90-98

渡邊一哉

1-① 論文

- (1) Chanakarn Sukodom, Methee Kaewnern, Idsariya Wudtisin, Takashi Yoshikawa,Yuki Okamoto, Kazuya Watanabe, Satoshi Ishikawa and Jintana Salaenoi (2015) Organic contents and pH profiles of sediments in cockle farm at Bandon Bay, Surat Thani Province.KHON KAEN AGR.J.43(2),pp.265-276.

1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 渡邊一哉(2015)溪流魚の生態から見た河川構造物の影響. 平成27年度日本水環境学会東北支部セミナー 一般講演

- (2) 岡本 侑樹, 武藤望, 今孝悦, 渡邊一哉, 吉川尚, サラエノイ ジンタナ, 石川智士(2015)タイ南部バンドン湾における小規模漁業で漁獲された 底生魚類の $\delta^{13}\text{C}$ および $\delta^{15}\text{N}$ 値の時空間的変動

1-③ その他の研究活動

- (1) 8月 タイ バンドン湾における沿岸資源利用調査(文科省 科研費(C))
- (2) 12月 ベトナム フエ市における農作物流通調査および消費実態調査(文科省 GRENE)

渡部 徹

1-① 著書

- (1) JST研究開発戦略センター 環境・エネルギーユニット(分担執筆), 研究開発の俯瞰報告書 環境・エネルギー分野(2015年), pp.507-511(3.4.1.8 開発途上国の人間居住と適正技術), 2015

1-② 論文

- (1) A. Muramatsu, H. Ito, A. Sasaki, A. Kajihara, T. Watanabe. Cultivation of rice for animal feed with circulated irrigation of treated municipal wastewater for enhanced nitrogen removal: Comparison of cultivation systems feeding irrigation water upward and downward. *Water Science and Technology*, 72(4), 579-584, 2015
- (2) Nutta Sangnarin Hamjinda, Wilai Chiemchaisri, Toru Watanabe, Ryo Honda, Chart Chiemchaisri. Toxicological assessment of hospital wastewater in different treatment processes. *Environmental Science and Pollution Research*, 1-9, 2015
- (3) 櫻庭敬之, 伊藤紘晃, 藤井学, Lee Ying Ping, 梶原晶彦, 吉村千洋, 渡部徹, 各種森林及び農耕地から供給される有機鉄の特性比較分析, *土木学会論文集G(環境)*, 71(7), III_287-III_295, 2015
- (4) Ryo Honda, Toru Watanabe, Variga Sawaitayotin, Yoshifumi Masago, Rungnapa Chulasak, Kulchaya Tanong, G. Tushara Chaminda, Krison Wongsila, Chawala Sienglum, Varisara Sunthonwatthanaphong, et al. Impacts of urbanization on the prevalence of antibiotic-resistant *Escherichia coli* in the Chaophraya River and its tributaries. *Water Science and Technology*, 73(2), 362-374, 2016
- (5) 渡部徹, 下水処理水を活用した飼料用米栽培に関する研究, *下水道協会誌*, 53(640), 25-28, 2016
- (6) Daisuke Sano, Mohan Amarasiri, Akihiko Hata, Toru Watanabe, Hiroyuki Katayama. Risk management of viral infectious diseases in wastewater reclamation and reuse: Review. *Environment International*, accepted

1-③ 学会発表(国内学会)

- (1) 渡部徹, 途上国の水と衛生, 感染症のリスク, 日本生物工学会2015年度北日本支部仙台シンポジウム, 平成27年9月4日, 仙台市【招待講演】
- (2) 渡部徹, 下水処理水再利用による飼料用米栽培, 日本水環境学会東北支部セミナー, 平成27年10月17日, 鶴岡市
- (3) 渡部徹, 福士謙介, 片山浩之, 渡辺幸三, 降雨, 洪水, 水環境と健康:世界と日本, 第74回日本公衆衛生学会総会, 平成27年11月4~6日, 長崎市
- (4) 櫻庭敬之, 伊藤紘晃, 片倉一平, 工藤れん, 田中梨花, 渡部徹, 河川流下過程を想定したフミン鉄錯体の解離に対する太陽光照射の影響, 第52回環境工学研究フォーラム, 平成27年11月27~29日, 郡山市
- (5) Praise Susan, Ito Hiroaki, Pu Jian, Watanabe Toru, Change of metal concentrations in mountainous streams with sabo dam, 日本水環境学会第3回東北支部研究発表会, 平成28年1月9日, 仙台市
- (6) Pham Duy Dong, Kurashima Sumiko, Kaku Nobuo, Ito Hiroaki, Watanabe Toru, Development of municipal wastewater reuse system to cultivate rice for animal feeding toward sustainable water and nutrient circulation, 日本水環境学会第3回東北支部研究発表会, 平成28年1月9日, 仙台市
- (7) Pu Jian, Watanabe Toru, Fukushi Kensuke, Bacterial water quality and risk evaluation of bottled drinking water in China, 日本水環境学会第3回東北支部研究発表会, 平成28年1月9日, 仙台市
- (8) 伊藤絵里香, Nguyen Thanh Gia, 伊藤紘晃, 梶原晶彦, 渡部徹, 牡蠣からのノロウイルス, アイチウイルス, トウガラシ微斑ウイルスの検出, 第21回庄内・社会基盤技術フォーラム, 平成28年1月21日, 酒田市

- (9) 倉島須美子, Pham Duy Dong, 堀口健一, 梶原晶彦, 渡部徹, 下水処理水の掛け流し灌漑による飼料用米の栽培, 第21回庄内・社会基盤技術フォーラム, 平成28年1月21日, 酒田市
- (10) 三浦逸実, 伊藤紘晃, 風間しのぶ, 今田義光, 渡部徹, 抗生物質添加による活性汚泥細菌の種構成変化, 第21回庄内・社会基盤技術フォーラム, 平成28年1月21日, 酒田市
- (11) 釜屋隆一, 伊藤麻巳子, 佐藤菜々美, 本間梓, 金谷祐里, 渡部徹, 河川の生物膜から分離された大腸菌の薬剤耐性, 第21回庄内・社会基盤技術フォーラム, 平成28年1月21日, 酒田市
- (12) 渡部徹, Pham Duy Dong, 倉島須美子, 加来伸夫, 下水処理水の連続灌漑による飼料用米栽培, 平成27年度土木学会東北支部技術研究発表会, 平成28年3月5日, 盛岡市
- (13) 倉島須美子, Pham Duy Dong, 堀口健一, 梶原晶彦, 渡部徹, 下水処理水灌漑で栽培された飼料用米の栄養評価, 平成27年度土木学会東北支部技術研究発表会, 平成28年3月5日, 盛岡市
- (14) 三浦逸実, 伊藤紘晃, 風間しのぶ, 今田義光, 渡部徹, 抗生物質添加による活性汚泥細菌に対する影響, 平成27年度土木学会東北支部技術研究発表会, 平成28年3月5日, 盛岡市
- (15) 伊藤絵里香, 伊藤紘晃, Nguyen Thanh Gia, 浦剣, 渡部徹, トウガラシ微斑ウイルスの養殖牡蠣ノロウイルス汚染指標としての可能性, 平成27年度土木学会東北支部技術研究発表会, 平成28年3月5日, 盛岡市
- (16) 櫻庭敬之, 伊藤紘晃, 藤井学, 渡部徹, 森林及び農耕地から供給される有機鉄の季節別特性, 平成27年度土木学会東北支部技術研究発表会, 平成28年3月5日, 盛岡市
- (17) 金谷祐里, Nurmangirasari Yunita Ajeng, 渡部徹, 食品中のセレウス菌に関する用量反応解析, 平成27年度土木学会東北支部技術研究発表会, 平成28年3月5日, 盛岡市
- (18) Jian Pu, Toru Watanabe, Fuminari Miura, Kensuke Fukushi, Health risk of children caused by waterborne infectious disease in Baseco slums of Manila, Philippines, 平成27年度土木学会東北支部技術研究発表会, 平成28年3月5日, 盛岡市
- (19) Nguyen Thanh Gia, Kanaya Yuri, Toru Watanabe, Feeling to infectious diseases in flood-affected areas: A cross-sectional survey in central Vietnam, 平成27年度土木学会東北支部技術研究発表会, 平成28年3月5日, 盛岡市
- (20) 周藤真裕, 本多了, 野口愛, 池本良子, 渡部徹, 湖水の水温と滞留時間が抗生物質耐性誘導に与える影響, 第50回日本水環境学会年会, 平成28年3月16~18日, 徳島市

1-④ 学会発表(国際学会)

- (1) Toru Watanabe, Takuma Mashiko, Rizki Maftukhah, Nobuo Kaku, Kozo Watanabe, Hiroaki Ito. Rice cultivation with power generation by circulated irrigation of treated municipal wastewater. WEF-EESS Asia-Pacific Wastewater Treatment and Reuse Conference 2015, Singapore, June 28 - July 1, 2015
- (2) Toru Watanabe, Kyoko Ono. How much risk of gastroenteritis can be reduced by setting best-before date for eating raw eggs. SRA World Congress on Risk 2015, Singapore, July 19-23, 2015
- (3) Ito H., Arisaka T., Ueki Y., Watanabe T., Aichivirus A and pepper mild mottle virus as indicators of Norovirus in oysters. The 18th International Symposium on Health-Related Water Microbiology, Lisbon, Portugal, September 13-19, 2015
- (4) Lin Mengyu, Yang Sen, Mana Noguchi, Ryo Honda, Ryoko Ikemoto, Toru Watanabe. Induction of antibiotic resistance in Escherichia coli isolated from Kahokugata lake, Japan. The 18th International Symposium on Health-Related Water Microbiology, Lisbon, Portugal, September 13-19, 2015
- (5) Toru Watanabe, Shuang Yu, Hieu Duong, Lieu Pham, Atsushi Sasaki, Hiroaki Ito. Metal contamination of agricultural fields affected by seasonal flood around Hue city, Vietnam. The 6th IWA-ASPIRE Conference and Exhibition, Beijing, China, September 20-24, 2015
- (6) Takayuki Sakuraba, Hiroaki Ito, Tetsuro Kikuchi, Manabu Fujii, Chihiro Yoshimura, Toru Watanabe. Relation of land cover to elution characteristics of iron and organic matters from soil. The 6th IWA-ASPIRE Conference and Exhibition, Beijing, China, September 20-24, 2015
- (7) Fuminari Miura, Toru Watanabe, Kozo Watanabe, Kensuke Fukushi. Importance of secondary infection within households in epidemic of waterborne infectious diseases. The 6th IWA-ASPIRE Conference and Exhibition, Beijing, China, September 20-24, 2015
- (8) Susanti Withaningsih, Rina Febriani, M.I.L., Nguyen Thanh Gia, Toru Watanabe. Risk and feeling to infectious Diseases in Frequently-Flooded Area of Bandung. 3rd JSPS/GRENE-EcoHealth Joint International Symposium on Development of International Network on Health Risk Assessment in Urban Area, Bali, Indonesia, March 11-12, 2016

プロジェクト教員

浦 剣

1-① 学会発表(国内学会)

- (1) Pu Jian, Watanabe Toru, Fukushi Kensuke, 2016. Bacterial water quality and risk evaluation of bottled water in China. 日本水環境学会第3回東北支部研究発表会, 仙台市
- (2) Praise Susan, Ito Hiroaki, Pu Jian, Watanabe Toru, 2016. Change of metal concentrations in mountainous streams with Sabo Dam. 日本水環境学会第3回東北支部研究発表会, 仙台市
- (3) 伊藤絵里香, 伊藤紘晃, Nguyen Thanh Gia, 浦剣, 渡部徹, 2016. トウガラシ微斑ウイルスの養殖牡蠣ノロウイルス汚染指標としての可能性, 平成27年度土木学会東北支部技術研究発表会, 盛岡市
- (4) Jian Pu, Toru Watanabe, Fuminari Miura, Kensuke Fukushi, 2016. Health risk of children caused by waterborne infectious disease in Baseco slums of Manila, Philippines. 平成27年度土木学会東北支部技術研究発表会, 盛岡市
- (5) 三浦逸実, 浦剣, 風間しのぶ, 今田義光, 渡部徹, 2016. 抗生物質に耐性を示す活性汚泥細菌の検索, 土木学会第71回年次学術講演会, 仙台市
- (6) 伊藤絵里香, 伊藤紘晃, Pu Jian, Nguyen T. Gia, 渡部徹, 2016. 養殖牡蠣ノロウイルス汚染指標としてのPMMoVとアイチウイルスの利用可能性, 土木学会第71回年次学術講演会, 仙台市
- (7) 金谷祐里, 浦剣, 渡部徹, 3種類の皮膚感染症の用量反応モデルの構築, 土木学会第71回年次学術講演会, 仙台市
- (8) 渡部徹, Pham Duy Dong, 倉島須美子, 堀口健一, 加来伸夫, 佐々木貴史, 浦剣, 2016. 下水処理水の掛け流し灌漑による飼料用米栽培に関する研究, 土木学会第71回年次学術講演会, 仙台市
- (9) Ermaya Eka Cahyaningrum, Nabila Dhyana Azraini, Ito Hiroaki, Pu Jian, Watanabe Toru, 2016. Spatial and Seasonal Changes in Detection of Norovirus in Oysters. 第3回環境水質工学シンポジウム, 松山

②学会・社会活動

安全農産物生産学コース

夏賀 元康

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 近赤外研究会(理事, 2005年04月 ~)
- (2) 韓国農業機械学会(The Korean Society for Agricultural Machinery), (英文誌編集委員, 2011年04月 ~)
- (3) 農業食料工学会, 食料・食品工学部会運営委員, 2015年04月 ~ 2017年03月
- (4) 北海道家畜管理研究会
- (5) 農業機械学会
- (6) 日本食品科学工学会
- (7) 農業施設学会
- (8) 農業機械学会北海道支部会
- (9) アメリカ農業生物工学会(American Society of Agricultural and Biological Engineers)
- (10) 農業機械学会東北支部会
- (11) エダマメ研究会
- (12) 近赤外研究会
- (13) 農業食料工学会
- (14) 農業食料工学会東北支部

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 科学まつり in 鶴岡, 2015年11月

2-③ 学会賞受賞等

- (1) FOOMA AP(アカデミックプラザ)賞, 2015年06月11日, 日本国, 日本食品機械工業会, 佐藤慈仁, 高橋史夫, 片平光彦, 夏賀元康
- (2) 農業食料工学会東北支部功績賞, 2015年08月20日, 日本国, 農業食料工学会東北支部, 夏賀元康
- (3) 功績賞, 2015年09月15日, 日本国, 農業食料工学会, 夏賀元康

西澤 隆

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 園芸学会東北支部(支部長 2015~2016)
- (2) 日本生物環境工学会(評議員 2015)

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Food Hydrocolloids (英国) 1件
- (2) Crop Science & Technology (トルコ) 1件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 講演:最上夜学「植物工場」・レキシントン新庄(平成27年5月19日)
- (2) 講演:「植物工場」・新庄神室産業高校(平成27年5月19日)
- (3) スーパーサイエンスハイスクール事業・鶴岡南高等学校(平成27年4月～平成28年2月)
- (4) ひらめき☆ときめきサイエンス事業(平成27年9月5日)

2-③ 学会賞受賞等

- (1) Outstanding Research Leader and Scientist in Quality and Postharvest Horticulture・SEAsia2015 International Symposium(平成27年8月15日)

藤井弘志

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本土壌肥料学会、日本作物学会
- (2) 日本土壌肥料学会評議員、日本土壌肥料学会東北支部会評議員
- (3) 日本作物学会評議員、日本作物学会東北支部会評議員

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Soil Sci. Plant Nutri. 1件
- (2) 日本土壌肥料学雑誌:1件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県立農業大学校特別講義(土壌肥料)(植物生理)6回:6月2日、7月16日、10月8日
- (2) 山形県立農業大学校「働きながら学ぶ稲作講座」2回:7月10日、8月10日
- (3) 営農指導員技術研修会「藤井塾」4回:5月29日、6月19日、7月10日、8月7日
- (4) 土づくり研修会(6月27日)(新堀地区)(40人)
- (5) 酒田市農業委員会座談会(8月14日)(酒田市役所)
- (6) 講演会「寒河江市農業の方向」(8月24日)(寒河江市)(50人)
- (7) 土づくり講演会(9月1日)(JA鶴岡・西郷支所)(45人)
- (8) 講演会(山形ビジネススクール)(9月2日)(50人)
- (9) 講演会「水田地力の低下の実態」(10月9日)(肥料経済研究所)(東京)(20人)
- (10) 土づくり講演会(10月22日)(全農)(仙台市)(100人)
- (11) 土づくり講演会(12月4日)(新発田市)(100人)
- (12) 講演会「大石田農業の方向」(12月9日)(大石田町)(100人)
- (13) 有機農業認証委員会(12月24日)(山形県)(10人)
- (14) 講演会「気象変動に負けない作物生産」(1月20日)(JA鶴岡大泉支所)(100人)
- (15) 東北農業研究会(土壌肥料)(評価委員)(1月28日～29日)(盛岡市)(60人)
- (16) 新農法研究会(2月13日～14日)(仙台市)(50人)
- (17) 講演会「尾花沢農業の方向」(12月9日)(尾花沢市)(100人)
- (18) 土づくり講演会(3月27日)(鶴岡市)(15人)

平 智

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 園芸学会(代議員、2015～現在)
- (2) 日本食品保蔵科学会(理事、学会賞選考委員、2011～現在)
- (3) 人間・植物関係学会(理事、2005～現在)

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 鶴岡総合研究所所長(2012～現在)
- (2) 鶴岡致道大学学長(2012～現在)
- (3) 鶴岡市森林文化都市研究会会長(2011～現在)
- (4) 鶴岡市グリーンツーリズム推進協議会会長(2007～現在)
- (5) 鶴岡市総合懸隔審議会委員、同企画専門委員会委員長(2007～現在)
- (6) 山形在来作物研究会副会長(2009～現在)

浦川修司

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本草地学会(編集委員～現在)
- (2) 東北畜産学会(評議員2015～現在)

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) 日本草地学会1件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 「飼料用米専用品種の収穫作業の留意点と粳米サイレージの調製技術」について講演, 全国農業改良普及支援協会, 東京, 2015年11月12日
- (2) 「イネWCSの高品質調製技術」について講演, 全国農業改良普及支援協会, 東京, 2015年11月12日
- (3) 「飼料作物の収穫調製」について講演, 日本草地畜産種子協会, 福島県, 2015年12月14日
- (4) 「稲発酵粗飼料の収穫調製技術」について講演, 農林水産省, 福島県, 2015年12月1日
- (5) 「飼料用米の収穫と加工調製技術」について講演, 農林水産省, 福島県, 2015年12月1日
- (6) 「地域における耕畜連携の進め方」について講演, 農林水産省, 福島県, 2015年12月2日
- (7) 「飼料用米の生産・利用技術の動向」について講演, 農研機構近畿中国四国農業研究センター, 広島県, 2016年1月26日

堀口健一

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本畜産学会
- (2) 日本草地学会(国際情報担当委員2011年度～、和文誌編集委員2015年度～)
- (3) 東北畜産学会(評議員2010年度～)
- (4) 日本家畜管理学会

- (5) 肉用牛研究会
- (6) ルーメン研究会(評議員2013年度～)

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) 日本畜産学会報 2件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県試験研究機関アドバイザー・ボードメンバー 2014年4月1日～2016年3月31日
- (2) NHK「うまいっ！」米沢牛 NHK放送センター 2015年10月20日
- (3) 大学等進学説明会「これからの畜産物について一考してみよう」山形県長井市(長井高校) 2015年11月13日
- (4) 山形大学農学部・山形県農林水産部連携推進協議会 平成27年度スキルアップ研修会「飼料用米のウシとブタに関する研究」2015年12月8日

小笠原宣好

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 園芸学会

長谷 修

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本植物病理学会 (東北部会幹事2008～現在)
- (2) アメリカ植物病理学会 会員
- (3) 日本植物生理学会 会員
- (4) 北日本病害虫研究会 会員(評議員2013.4～現在)
- (5) 日本菌学会 会員

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Journal of General Plant Pathology (Japan) 1件
- (2) Microbes and Environments (Japan) 1件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 第72回最上夜学での講演「植物の抵抗性誘導と生物防除」について, 主催・山形県最上総合支庁(平成28年1月26日, 新庄市 新庄信用金庫文化ホール)

小林 隆

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本植物病理学会
- (2) The American Phytopathological Society
- (3) 北日本病害虫研究会(編集委員2009～)

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) 北日本病害虫研究会報 3件

片平光彦

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) JICAアフリカ地域 稲作収穫後処理研修, 2011年08月 ~ 継続中

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) JICAアフリカ地域 稲作収穫後処理研修, 2011年08月 ~ 継続中
- (2) 秋田県農業研修センター, 2010年07月 ~ 継続中
水田転換ほ場の営農排水対策

森 静香

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本土壤肥料学会
- (2) 日本作物学会

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県科学技術奨励賞審査委員会委員(2014年6月1日~2016年5月31日)
- (2) 山形県リサイクル製品認定・リサイクルシステム認証審査会審査員(2014年6月2日~2016年3月31日)

佐藤 智

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本応用動物昆虫学会
- (2) 日本昆虫学会
- (3) 日本生態学会

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) Applied zoology and entomology (英国)

松山裕城

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本畜産学会
- (2) 日本草地学会
- (3) 東北畜産学会

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) 日本畜産学会報 2報
- (2) Animal Science Journal 2報

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 「イネWCSの生産・給与のポイント」の講演、高畠町飼料用稲供給協議会主催、WCS給与技術及び栽培技術研修会、2015年4月6日、高畠町中央公民館
- (2) 「飼料設計の基本について」の講演、農林水産省主催、平成27年度中央畜産技術研修会(飼料A・B)、2015年8月26日、家畜改良センター
- (3) 「飼料用イネ(稲発酵粗飼料・飼料用米)の給与技術」の講演、農林水産省主催、平成27年度中央畜産技術研修会(自給飼料 飼料用米・WCS)、2015年12月2日、家畜改良センター
- (4) 「最近の飼料用米の生産、流通、利用に係る事例と課題」の講演、野上総合支庁産業経済部農業振興課主催、飼料用米の生産・利用拡大に向けた現地情報交換会、2016年1月28日、鮭川村農林交流センター

池田和生

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 園芸学会, 園芸学会東北支部会計幹事
- (2) 日本植物細胞分子生物学会
- (3) 山形在来作物研究会(幹事)
- (4) 日本食品保蔵科学会
- (5) 国際アウトウシンポジウム実行委員会

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) 園芸学研究1件
- (2) The horticultural journal 1件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県ナス研究会の開催:2015年11月30日, 場所:山形大学農学部
- (2) 園芸セミナーの開催:2015年8月22日, 場所:協同の杜JA 研修所

佐々木由佳

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本土壌肥料学会
- (2) 日本作物学会
- (3) 農業農村工学会
- (4) 日本熱帯農業学会
- (5) サゴヤシ学会
- (6) 山形在来作物研究会
- (7) 東北地区自然災害科学会

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

Soil Science and Plant Nutrition(日本) 1件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 附属農場開放事業「わんぱく農業クラブ」の運営(2005年～現在)
- (2) 庄内水田農業推進機構委員(2009年4月～現在)
- (3) 山形大学農学部鶴窓会代議員(2011年4月～現在)
- (4) 山形大学東北創生研究所 研究員(食糧生産研究部門) 兼任(2014年6月～2017年5月)
- (5) 山形県科学技術会議 委員(2015年6月1日～2017年5月31日)
- (6) JICA短期研修「アフリカ地域(英語圏)稲作収穫後処理」企画運営及び講師(2015年8月17日～9月25日)
- (7) 第6回農業・食料・環境を考える山形県民シンポジウム コーディネーター(2015年11月17日)
- (8) 山形県立楯岡高等学校農学部訪問での高坂農場案内(2015年11月12日)

松本大生

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 園芸学会

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Horticulture Journal(日本) 1件

食農環境マネジメント学コース

岩鼻 通明

2-① 学会活動

2-①-① (i) 所属学協会及びその役職

- (1) 人文地理学会(評議員2012～現在)
- (2) 歴史地理学会(評議員1990～現在)
- (3) 東北地理学会(評議員2013～現在)
- (4) 史学研究会(評議員2004～現在)
- (5) 日本山岳修験学会(理事1990～現在)

2-①-② (ii) 論文審査の依頼等

- (1) 歴史地理学(歴史地理学会) 1件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県景観審議会委員(2008～2015)、大江町文化的景観委員会委員(2008～現在)
- (2) 「出羽三山信仰と置賜」について講演:歴史地理学会・米沢史学会共催(米沢女子短大・2015年6月27日)
- (3) 「大江町における国重要文化的景観の意義」講演:山形県博物館連絡協議会研修会(大江町・2015年11月12日)
- (4) 「草木塔と出羽三山信仰」について講演:大学コンソーシアムやまがた主催・やまがた夜話(2015年7月8日)
- (5) 「出羽三山の歴史と三山信仰」について講演:月山ジオパークガイド養成講座(山大農学部・2016年2月7日)
- (6) 山形国際ドキュメンタリー映画祭・韓国語ボランティアスタッフ(2015年10月7～12日)

小沢 互

2-① 学会活動

2-①-① (i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本農業経済学会
- (2) 日本農業経営学会
- (3) 東北農業経済学会(副会長, 2008～現在)
- (4) 農村計画学会(評議員, 2013～現在)
- (5) 日本フードシステム学会
- (6) 地域活性学会

2-①-② (ii) 論文審査の依頼等

- (1) 農業経済研究 4件
- (2) 農村経済研究 5件
- (3) 農業経営研究 1件
- (4) フードシステム研究 1件
- (5) 農業経済研究報告 1件
- (6) ISFJ 3件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県農業・農村政策審議会委員(山形県. 会長代理. 2006年4月～)
- (2) やまがた6次産業ビジネス・スクール講師(山形県. 2009年8月～)
- (3) 鶴岡市総合計画審議会企画専門委員会委員(鶴岡市. 2009年11月～)
- (4) 専門家派遣事業にかかる専門家(山形県農業会議. 2008年5月～)
- (5) 山形県米政策推進会議委員(山形県. 会長. 2007年9月～)
- (6) 山形県農村環境保全推進委員会委員(山形県. 座長. 2012年2月～)
- (7) 公益財団法人やまがた農業支援センター評議員選定委員会委員(やまがた農業支援センター. 2011年2月～)
- (8) 豊かなむらづくり審査会委員(東北農政局. 2014年5月～)
- (9) 米政策等の見直しに係る検討会アドバイザー(川西町農業再生協議会. 2014年5月～)
- (10) 農地中間管理事業評価委員会委員(やまがた農業支援センター. 委員長. 2015年1月～)
- (11) 公設庄内青果物地方卸売市場取引委員会委員(庄内広域行政組合. 2015年3月～)
- (12) 東北農政局事前評価技術検討会委員(東北農政局. 2015年6月～)
- (13) 山形市農政審議会委員(山形市. 委員長. 2015年7月～)
- (14) 秋田県立大学外部評価委員(生物環境科学分野)(秋田県立大学. 2015年8月～2016年3月)
- (15) 特別研究員等審査会専門委員(日本学術振興会. 2013年8月～2015年7月)
- (16) 国際事業委員会書面審査員・書面評価員(日本学術振興会. 2013年8月～2015年7月)
- (17) 果樹王国ひがしね6次産業化推進協議会委員兼アドバイザー(東根市. 2015年9月～)
- (18) 山形県農業・農村政策審議会 中山間地域振興検討部会委員(山形県. 2015年9月～2016年3月)
- (19) 農林水産分野TPP対応検討チーム(山形県. チームリーダー. 2015年10月～)
- (20) 「第6次山形市農業振興基本計画」策定に係る監修(山形市. 2015年12月～)
- (21) 都市・農村共生社会創造全国リレーシンポジウムパネラー(全国町村会. 2015年7月18日. 180人)
- (22) JA庄内たがわ生産組合長会夏期全体研修会講師(JA庄内たがわ. 2015年8月29日. 140名)
- (23) 東北大学農学部非常勤講師(東北大学. 2015年9月14,15日)
- (24) 放送大学非常勤講師(放送大学. 2015年12月5,6日)
- (25) 果樹王国ひがしね6次産業化推進フォーラム講師(東根市. 2016年1月18日)
- (26) 山形県農業経営アドバイザーミーティング講師(日本政策金融公庫山形支店. 2016年1月25日)
- (27) 平成27年度新発田地域農業振興大会講師(新発田地域農業振興協議会. 2016年1月29日)
- (28) 6次産業化による創業支援特別研修会講師(朝日町産業創造推進機構. 2016年2月9日)

金 成学

2-① 学会活動

2-①-① (i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本農業市場学会
- (2) 東北農業経済学会

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 「国際時代における日本農業」について講演:鶴岡市農業委員会主催・グランドエル・サン(平成28年2月9日)

角田 毅

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本農業経営学会
- (2) 日本農業経済学会
- (3) 東北農業経済学会・理事
- (4) 地域農林経済学会
- (5) 日本農業普及学会

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) 農業経営研究(日本)2本

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 東北公益文科大学非常勤講師(2015.8)
- (2) やまがた6次産業ビジネススクール講師
- (3) 山形県創意工夫プロジェクト支援事業(最上総合支庁)計画審査委員(2015.4~2016.3)
- (4) 山形県ベストアグリ賞表彰事業審査委員(2015.4~2016.3)
- (5) 鶴岡市農業委員会農業振興担い手専門委員会・山形大学農学部交流事業(2015.10.22)
- (6) 東北農政局国営事業事後評価技術検討会委員(2015.4~2016.3)
- (7) 西村山地域営農フォーラム講演(2016.3.15)
- (8) 山形県立農業大学校「新規就農支援研修」開校式講演(2015.4.15)
- (9) 秋田県次世代農業経営者ビジネス塾講師(2015.11.18)

家串哲生

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 地域農林経済学会(編集委員会委員 現在~2016)

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) 日本農業経済学会、論文審査レフリー、1件
- (2) 地域農林経済学会、論文審査レフリー、3件
- (3) 山形大学紀要、論文審査レフリー、1件

藤科智海

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本農業経済学会
- (2) 日本農業経営学会
- (3) 東北農業経済学会
- (4) 日本フードシステム学会
- (5) 農村計画学会

- (6) 地域活性学会
- (7) システム農学会

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県研究評価委員会委員(2012年6月～継続中)
- (2) やまがた6次産業人材創生コンソーシアム全体会議委員(2011年08月～継続中)
- (3) やまがた6次産業ビジネススクール講師(2011年08月～継続中)
- (4) 山形県立農業大学校「農産加工マーケティング」講師(2015年10月～12月)
- (5) 庄内地域農林水産業若者賞審査委員(2015年12月2日)
- (6) 庄内町新産業創造協議会「平成27年度実践型地域雇用創造事業成果発表会」の講師(2016年3月16日)

渡辺理絵

2-① 学会活動

2-①-① (i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本地理学会
- (2) 人文地理学会
- (3) 歴史地理学会
- (4) 日本国際地図学会 評議員(2015～2016年)
- (5) 東北地理学会

2-①-② (ii) 学会の主催等

- (1) 第58回歴史地理学会大会実行委員 米沢女子短期大学(平成27年6月27-28日)

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 「地図の世界に誘う—古代から現代までの地理的知—」致道博物館主催土曜講座 致道博物館 平成27年9月5日
- (2) 「天然痘と闘う」米沢上杉博物館主催 ギャラリートーク 米沢上杉博物館 平成27年10月24日
- (3) 山形県庄内総合支庁山形海区漁業調整委員会委員(平成24年8月15日から28年8月14日)
- (4) 山形県環境審議会委員(平成25年5月1日～29年4月30日)
- (5) 山形県総合政策審議会特別委員(平成25年7月5日～平成29年4月29日)
- (6) 山形県立山形北高等学校学校評議員(平成27年5月11日～平成28年3月31日)
- (7) 山形県立山形北高等学校学校関係評価委員(平成27年5月11日～平成28年3月31日)
- (8) 鶴岡市都市再興基本都市計画市民懇話会委員(平成27年3月18日～平成28年3月31日)
- (9) 「未来に伝える山形の宝」登録審査委員(平成28年2月17日～平成30年2月16日)
- (10) 山形県都市計画審議会委員(平成27年10月6日～平成29年10月5日)

食品・応用生命科学コース

三橋 涉

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本生化学会(東北支部会連絡委員 1995～現在)
- (2) 日本農芸化学会(東北支部参与 2014～現在)
- (3) 日本植物生理学会
- (4) 日本植物学会
- (5) 日本分子生物学会

小関卓也

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本農芸化学会(代議員2014.5～2016、JABEE対応委員会委員2011～現在、東北支部山形県代表参与2013.7～)
- (2) 日本生物工学会(北日本支部代議員2011.5～)
- (3) 日本応用糖質科学会(東北支部理事2010.5～)
- (4) 日本醸造学会
- (5) 日本栄養・食糧学会(東北支部参与2014.2～)
- (6) 糸状菌分子生物学研究会

2-①-(ii) 学会の主催等

- (1) 日本マイコトキシン学会第77回学術記念講演会実行委員:鶴岡市(平成27年9月11日)

2-①-(iii) 論文審査の依頼等

- (1) Applied Microbiology and Biotechnology(ドイツ), 2件
- (2) FEMS Microbiology Letters(英国), 1件
- (3) Journal of Molecular Catalysis B: Enzymatic(英国), 1件
- (4) Acta Biochimica et Biophysica Sinica(中国), 1件
- (5) African Journal of Biotechnology(米国), 1件
- (6) Biologia section C(スロバキア), 1件
- (7) Biocatalysis and Agricultural Biotechnology(台湾), 1件
- (8) Journal of Bioscience and Bioengineering(日本), 2件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形セレクション加工食品分野(日本酒)専門委員会委員(2007.4～現在)
- (2) 山形県農林水産業創意工夫プロジェクト支援事業プロジェクト成果評価審査会委員(2014.4～現在)
- (3) 農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業研究課題評価分科会委員(2014.10～2017.3)
- (4) 鶴岡南高校スーパーサイエンスハイスクール「鶴南ゼミ」講師(2013.4～現在)
- (5) 2015年度山形大学農学部公開講座「食料、健康、環境問題を支える農学バイオサイエンスの世界」(2015.6.20)

豊増知伸

2-① 学会活動

2-①-① (i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本農芸化学会(和文誌編集委員2015～現在)
- (2) 植物化学調節学会(評議員2010～現在)
- (3) 日本植物生理学会

2-①-② (ii) 論文審査の依頼等

- (1) Scientific Reports (英国) 1件
- (2) Journal of Plant Research (日本) 1件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 「総合的な学習の時間」生物発展実験での大学訪問(鶴岡北高校)5月19日、5月26日
- (2) 山形大学農学部公開講座、7月4日
- (3) 出張講義(栃木翔南高校)9月29日

2-③ 学会賞受賞等

- (1) 植物化学調節学会学会賞(平成27年10月24日)

永井 毅

2-① 学会活動

2-①-① (i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本水産学会
- (2) 日本食品科学工学会
- (3) 日本食品化学学会
- (4) 日本農芸化学会

2-①-② (ii) 論文審査の依頼等

- (1) Fisheries Science(1件)
- (2) LWT-Food Science and Technology(9件)
- (3) Journal of Applied Life Sciences International他多数

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 全国水産加工業協同組合連合会水産加工食品製造業技能評価試験試験官(期限なし)
- (2) 遊佐町農林水産業活性化セミナー講師(2015年12月15日、22日、2016年1月20日)遊佐町創業支援センター
- (3) 戸沢村観光物産協会物産部会食品開発セミナー講師(2016年2月1日)戸沢村役場
- (4) 寒河江市技術振興協会研修講座講師(2015年10月14日)寒河江市技術交流プラザ
- (5) 村山総合支庁村山地域農の食材情報交流会セミナー講師(2015年11月5日)パレスグランデール山形
- (6) 山辺町産業化食品活用セミナー(2015年11月25日)農学部3号館1階102室
- (7) 加茂水産高等学校スーパープロフェッショナルハイスクール運営指導委員(2015年6月30日より3年間)
- (8) 気仙沼高等学校出前講義(2015年10月13日)気仙沼高等学校

木村直子

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本繁殖生物学会会員(2012年～理事、2010年～男女共同参画推進委員およびJRD編集委員)
- (2) 日本畜産学会会員(2015年～男女共同参画推進委員会委員長)
- (3) 日本卵子学会会員(2015年～常任理事、生殖補助医療胚培養士資格認定委員会副委員長、生命倫理委員会)
- (4) 日本受精着床学会会員(2012年～理事)
- (5) 東北畜産学会(2011年～評議員、編集委員)

2-①-(ii) 学会の主催等

- (1) 第108回日本繁殖生物学会大会男女共同参画推進委員会主催ランチョンセミナー企画・実施「私たちの研究スタイルとライフスタイル」～私たちはこんなふうに研究を続けてきました～(2015年9月18日12:00～13:00、宮崎大学(宮崎市)、約100名の参加者)
- (2) 日本卵子学会第7回生殖補助胚培養士セミナーの企画・実施「胚培養士の向上に資する基礎と臨床知見」(2015年10月11日 9:00～16:00、TFTビル(東京都)、約240名の参加者)
- (3) 日本畜産学会第121回大会若手奨励・男女共同参画推進委員会主催ランチョンセミナーの企画・実施「日本品質を海外へ～畜産物の輸出～」(2016年3月29日(火)12:00～13:00、日本獣医生命科学大学(東京都)、約120名の参加者)

2-①-(iii) 論文審査の依頼等

- (1) Journal of Reproduction and Development(日本):2件
- (2) Reproductive Medicine and biology(日本):4件
- (3) The Journal of Obstetric and Gynecology Research:3件
- (4) 東北畜産学会:2件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 第23期日本学術会議連携会員(兼業、食料科学委員会畜産学分会幹事、2014年～現在)
- (2) 山形県農林水産技術会議委員(兼業、2015年～現在)
- (3) 鶴南ゼミ(総合的な学習の時間での探究活動)の講師(兼業、2013年度～現在)
- (4) 山形大学ダイバーシティ環境実現イニシアティブ(連携型)「女性にとって快適で豊かな未来の生活」サービスデザインプロジェクトへの参加

2-③ 学会賞受賞等

- (1) 研究室配属の担当学生の表彰:山形大学農学部賞の受賞(2016年3月17日)農学部4年生 岡部友香(受賞理由:成績優秀かつ他の学生の模範となることが認められた。)
- (2) 研究室配属の担当学生の表彰:卒業論文優秀発表賞の受賞(2016年2月16日)農学部4年生 鈴木瑞穂, 卒業論文タイトル「SOD1遺伝子欠損マウスにおける異数性発生の原因解析～PP1及びAURKCの発現動態～」

加来伸夫

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本微生物生態学会(嫌気性界の微生物生態研究部会事務局担当)
- (2) 日本土壤微生物学会
- (3) 日本農芸化学会(東北支部参与)
- (4) 日本土壤肥料学会

- (5) 日本水環境学会

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Sensors and Materials (日本) 1件
- (2) Journal of Sustainable Bioenergy Systems (中国) 1件
- (3) Journal of Bioscience and Bioengineering (日本) 1件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県立鶴岡南高等学校科学部の研究活動への支援・協力・連携(平成20年9月～現在)
- (2) 山形県立鶴岡南高等学校SSH授業講師
- (3) 山形県立山形西高等学校出前講義
- (4) 山形県立鶴岡南高等学校出前講義
- (5) 福島県立橘高等学校出前講義
- (6) 山形県立山形中央高等学校出前講義
- (7) 平成27年度 山形大学農学部公開講座「食料、健康、環境問題を支える農学バイオサイエンスの世界」講師
- (8) 鶴岡市立荘内看護専門学校非常勤講師
- (9) 鶴岡工業高等専門学校非常勤講師

塩野義人

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本農芸化学会
- (2) 植物化学調節学会
- (3) 日本薬学会

2-①-(ii) 学会の主催等

- (1) 第77回日本マイコトキシン学会・大会委員長:山形県鶴岡市(平成27年9月11日)

2-①-(iii) 論文審査の依頼等

- (1) Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry, 1件
- (2) Natural Product Communications, 2件

渡辺昌規

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本生物工学会
- (2) 日本農芸化学会
- (3) 日本食品工学会
- (4) Journal of Bioscience and Bioengineering (Elsevier publisher) 英文誌編集委員2013～2017
- (5) 山形県サイエンスナビゲーター

2-①-(ii) 学会の主催等

- (1) The 3rd International Conference of Food and Applied Bioscience. Scientific Committee member: Chiang mai, Thailand (Feb. 4-5, 2016)

2-①-(iii) 論文審査の依頼等

- (1) Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry (Japan) 1件
- (2) Biochemical Engineering Journal (Netherland) 1件
- (3) Chiang Mai Journal of Science (Thailand) 2件
- (4) Environment, Development and Sustainability (Netherland) 1件
- (5) Food and Bioproducts Processing (United Kingdom) 1件
- (6) Innovative Food Science and Emerging Technologies (Netherland) 1件
- (7) International Journal of Food Properties (United Kingdom) 1件
- (8) Journal of Bioscience and Bioengineering (Netherland) 8件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 八戸東高等学校 出前講義:2015年10月6日
- (2) 山形県サイエンスナビゲーター事業「竹炭で作る、環境にやさしく高性能な電池でLEDを光らせよう!」講演:主催・山形県工業戦略技術振興課・鶴岡市黄金地区自治振興会(平成27年11月7日)
- (3) やまがた第6次産業ビジネススクール講師「物質・エネルギー利用型地域資源利用論」:主催・やまがた第6次産業人材創生コンソーシアム、(山形県産業創造支援センター、平成27年8月5日)
- (4) 平成27年度農学部公開講座 講師(本学農学部、平成27年5月23日)
- (5) 平成27年度教員免許状更新教習 講師(本学農学部、平成27年8月6日)
- (6) 山形大学農学部・山形県農林水産部連携推進協議会 平成27年度スキルアップ研究会・ポスタープレゼンテーション出展(米副産物からリン・タンパク質を同時に抽出するプロセス技術):2015年12月8日

植物機能開発学コース

村山哲也

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本農芸化学会(支部参与)
- (2) 日本薬学会
- (3) 有機合成化学協会

俵谷圭太郎

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本土壌肥料学会(東北支部評議員)
- (2) 日本土壌微生物学会

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Soil Science and Plant Nutrition
- (2) Biology and Fertilites of Soils
- (3) Plant and Soil

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 東北公益文科大学非常勤講師(持続的農林業概論)
- (2) 鶴岡市環境審議会委員

村山秀樹

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 園芸学会(代議員2015～現在)
- (2) 日本食品保蔵科学会(評議員2009～現在)
- (3) 国際園芸学会

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) The Horticulture Journal 1件
- (2) Horticulture, Environment, and Biotechnology 1件
- (3) Journal of Agricultural and Food Chemistry 1件
- (4) Food Science and Technology Research 1件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県「ラ・フランス」検討委員会委員(2015)
- (2) 山形県立鶴岡南高等学校「鶴南ゼミでの講師」(2015)
- (3) ひらめきときめきサイエンスプログラム「生物の多様性を考える」の開催、2015年9月、場所:農学部

- (4) やまがた農産物安全・安心取組認証審査委員(2015)
- (5) 6次産業ビジネススクールで「農産物の保存」について講義, 2015年12月22日

江頭宏昌

2-① 学会活動

2-①-① (i) 所属学協会及びその役職

- (1) エダマメ研究会(幹事2002~2014年、代表2014年~)
- (2) 山形在来作物研究会(幹事2003~2007、副会長2008、会長2009~現在)
- (3) 日本育種学会、園芸学会、人間・植物関係学会、KJ法学会、農耕文化研究振興会、雑穀研究会、民族自然史研究会、生き物文化誌学会、日本DNA多型学会

2-①-① (ii) 学会の主催等

- (1) 山形在来作物研究会公開フォーラムin全国ねぎサミット2015(酒田)「ユニークなねぎがいっぱい!!」の主催:2015年10月31日、場所:東北公益文科大学公益ホール

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 鶴岡総合研究所企画講師、鶴岡市食育・地産地消推進協議会委員(2008年~)、鶴岡まちづくり塾アドバイザー、鶴岡食文化創造都市推進協議会委員、焼畑かぶブランド力向上プロジェクト協議会アドバイザー
- (2) 山形県農林水産業活性化推進本部委員(2009~)、山形県農林水産技術会議委員(2010~)、山形県ミラノ国際博覧会出展等実行委員会委員(2014~)、山形おきたま伝統野菜振興協議会アドバイザー(2014~)、沖縄県「うちなー島野菜商品化支援技術開発事業」推進会議外部アドバイザー委員(2014~)、いわき市第四期新農業生産振興プラン策定検討委員会委員アドバイザー(2015)
- (3) NPO法人荘内松柏会畑作講師(2008~)
- (4) 山形県食品加工研究会の依頼で「山形県内の在来野菜の種類と特徴」と題して講演:2015年6月2日、場所:ホテルメトロポリタン山形
- (5) 山形県土地改良事業団体連合会庄内支部の依頼で「在来作物の魅力を地域に活かす」と題して講演:2015年6月3日、場所:いこいの村庄内
- (6) 奈良県の依頼でNAFIC開校PRシンポジウム(なら食と農の魅力創造シンポジウム)において「在来野菜で地域を元気に」と題して基調講演:2015年6月27日、場所:奈良春日野国際フォーラム 豊I・RA・KA能楽ホール
- (7) 酒田市東部中学校の依頼で「北庄内の在来作物」と題して講義:2015年7月3日、場所:山形大学農学部
- (8) おしゃべりな畑同窓会の依頼で「日本全国の在来作物に関するホットな話題」と題して講演:2015年7月31日、場所:マリカ市民ホール
- (9) 森のはこ舟アートプロジェクト実行委員会西会津WGの依頼で「よみがえりのレシピ」上映後のパネルディスカッションのパネルとして:2015年8月7日、西会津町立西会津中学校
- (10) 青森県有機農業研究会の依頼で「在来作物の魅力を地域に活かす」と題して講演:2015年8月23日、場所:旅館さくら屋
- (11) 新潟市教育委員会の依頼で新潟学コース講座「和食を知る」第7回「暮らしと食の大切さ~風土と食~」と題して講演:2015年8月28日、場所:新潟市生涯学習センター
- (12) 京都府農林水産技術センターの依頼で山形在来作物の保存と利用に関するヒアリングに対応:2015年8月31日、山形大学農学部
- (13) 山形県漬物協同組合の依頼で「山形県内の在来野菜の種類と特徴~漬物加工に向けて」と題して講演:2015年9月4日、場所:有限会社奥山経営センター
- (14) 沖縄県農業研究センターの依頼で平成27年度うちなー島ヤサイ商品化支援技術開発事業第1回推進会議にアドバイザーとして出席:2015年9月15日、沖縄県農業研究センター本館(糸満市)
- (15) 静岡在来作物研究会の依頼で「在来作物と私」作品展覧会に出席・コメント:2015年10月3日、静岡英和学院大学(静岡市駿河区)
- (16) 鶴岡市企画部地域振興課の依頼で梨木香歩氏による講演「渡りをする生きものたち~移動と変容~」の司会進行:2015年10月21日、東北公益文科大学大学院ホール

- (17) 鶴岡食文化創造都市推進協議会の依頼で「在来作物の魅力 No.1在来作物とは？今が旬の焼畑カブ」と題して講演:2015年10月27日、場所:出羽庄内国際村2階研修室
- (18) 公設庄内青果物地方卸売市場庄印株式会社庄果の依頼で「庄内における在来野菜の魅力」と題して講演:2015年11月10日、場所:いろり火の里「なの花ホール」(山形県東田川郡三川町)
- (19) 一般財団法人地域活性機構Cook Nippon! 実行委員会の依頼で第1回全国伝統野菜CloseUp! フォーラムにおいて「伝統野菜の魅力と継承する意義」と題して講演およびパネルディスカッションのコーディネーター:2015年11月14日、場所:機械振興会館B2大ホール(東京都港区)
- (20) 気仙沼大島協議会の依頼で第1回大島食の博物館において「日本のルタバガについて」と題して講演:2015年11月28日、場所:大島開発総合センター
- (21) 鶴岡食文化創造都市推進協議会の依頼で「在来作物の魅力 No.2カラトリイモと大根」と題して講演:2015年12月1日、場所:出羽庄内国際村2階研修室
- (22) いわきリエゾン・オフィスの依頼で第6回いわき昔野菜フェスティバルにおける事例発表に対するコメントレーターおよび総括:2015年12月12日、場所:いわき市立中央台公民館
- (23) 山形おきたま伝統野菜振興協議会の依頼で山形おきたま伝統野菜振興協議会の追加認定にかかわるアドバイザーおよび「近年の全国における伝統野菜の動向」と題して講演:2016年1月22日、場所:置賜総合支庁(米沢市)

程 為国

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本土壌肥料学会(英文誌SSPN編集委員2009~2015)
- (2) 日本土壌微生物学会
- (3) 日本作物学会
- (4) 日本気象学会
- (5) Soil Science Society of America

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Soil Science and Plant Nutrition 10件
- (2) Biology and Fertility of Soils 9件
- (3) Agriculture, Ecosystems & Environment 5件
- (4) Journal of Wetlands Environmental Management 4件
- (5) Organic Agriculture 1件
- (6) Greenhouse Gases: Science and Technology 1件
- (7) Environmental Reviews 1件
- (8) 日本熱帯農業学会 1件
- (9) The Journal of Animal and Plant Sciences 1件
- (10) Plant Production Science 1件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 日本科学者会議山形支部例会講演:地球温暖化と土壌 国際土壌年にあたって山形の研究事例の報告(2015.04.24)

2-③ 学会賞受賞等

- (1) 日本土壌肥料学会2015年大会ポスター賞(2015年9月10日)

笹沼恒男

2-① 学会活動

2-①-① (i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本育種学会(幹事2012年4月～2016年3月(2016年1月より代議員))
- (2) 日本遺伝学会
- (3) 日本作物学会
- (4) 文部科学省ナショナルバイオリソースプロジェクト(NBRP)コムギ小委員会委員(2003～現在)
- (5) 研究情報電子ジャーナル Wheat Information Service (eWIS) 編集委員(2005～現在)

2-①-② (ii) 論文審査の依頼等

- (1) Breeding Science (日本) 1件
- (2) Molecular Genetics and Genomics (ドイツ) 1件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県農業総合研究センター園芸試験場 遺伝子組換え実験安全委員会委員(2013～現在)
- (2) 庄内バイオ研修センター バイオテクノロジー学習会講師
- (3) ホームメイドクッキング機関誌キッチン倶楽部通信にて、コラム「ご存知ですか こんなこと」連載(年6回)(2006年11月～現在)

2-③ 学会賞受賞等

- (1) 第10回東北育種研究会優秀ポスター賞:「トウガラシ *chinense* 種の果実色関連遺伝子 *Ccs*、*Psy* の変異型アレル多様性について」(平成27年11月14日)(発表者:鶴巻啓一、稲葉有紀、松本幸也、笹沼恒男、受賞者は指導学生の鶴巻啓一)

星野友紀

2-① 学会活動

2-①-① (i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本育種学会
- (2) 東北植物学会
- (3) 日本植物生理学会

2-①-② (ii) 論文審査の依頼等

- (1) Molecular Breeding (スペイン) 1件
- (2) Acta Physiologiae Plantarum (ポーランド) 1件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 星野友紀:ゲノム情報を利用して新たな作物を創造する一逆遺伝的アプローチによる非遺伝子組換え作物の開発一、山大農学部・山大工学部・鶴岡高専三機関連携情報交換会、平成27年10月22日、山形大学工学部
- (2) 川上珠恵、吉田拓也、石川衿子、阿部勝磨、後藤元、中場勝、星野友紀:「つや姫」DEB突然変異集団からのデンプン代謝系突然変異体の単離、山形大学農学部・山形県農林水産部連携推進協議会平成27年度スキルアップ研修会、平成27年12月8日、山形大学農学部

2-③ 学会賞受賞等

- (1) 日本育種学会第128回講演会優秀発表賞:永田和史、野々上慈徳、溝淵律子、小野望、柴谷多恵子、江花薫子、松原一樹、小木曾映里、七夕高也、杉本和彦、田口文緒、米丸淳一、宇賀優作、福田篤徳、上田忠正、山本伸一、山内歌子、高井、俊之、一家崇志、近藤勝彦、星野友紀ら:栽培イネの有用変異発掘を促進する12種類の染色体断片置換系統群の作出、2015年9月12日

及川 彰

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本農芸化学会
- (2) 食品科学工学会
- (3) 日本農芸化学会東北部会

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Journal of Bioscience and Bioengineering(日本)2件
- (2) BMC Plant Biology(アメリカ)1件
- (3) Breeding Science(日本)1件
- (4) Frontiers in Plant Science(アメリカ)1件
- (5) Frontiers in Physiology(アメリカ)1件
- (6) 日本食品科学工学会誌(日本)1件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県フードセンシング活用アドバイザー(2014～)
- (2) 「CE-MS-based metabolomics」について講演:メタボロミクス公開セミナー・基礎生物学研究所(平成26年4月28日)
- (3) 「メタボローム解析の農業・食品産業における応用」について講演:化学生態学研究会・湯の川プリンスホテル渚亭(平成26年6月12日)
- (4) 「農産物のメタボローム解析」について講演:エコプロリサーチセミナー・東大弥生講堂(平成26年1月10日)
- (5) 「網羅的成分分析による 地域特産食品の機能解明と高付加価値化」について講演:機能性食品開発セミナー・石川県地場産業振興センター(平成27年3月4日)

服部 聡

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本微生物生態学会
- (2) 極限環境生物学会
- (3) 日本農芸化学会

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) The ISME Journal (英国, IF2014=9.302) 2件

2-② 学会賞受賞等

- (1) Most Cited Review 2007 to 2014 of the Microbes and Environments: Syntrophic acetate-oxidizing microbes in methanogenic environments. 英文誌、単著(平成27年10月19日)

網干貴子

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本農薬学会
- (2) 日本農芸化学会

森林科学コース

野堀嘉裕

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本森林学会(編集委員)
- (2) 森林計画学会
- (3) 東北森林学会(会長)
- (4) 比較文明学会

2-①-(ii) 学会の主催等

- (1) 東北森林科学会、宮城県、2015年8月27～28日

2-①-(iii) 論文審査の依頼等

- (1) 日本森林学会誌(2014)10件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県森林審議会会長(2014～)
- (2) 山形県環境影響評価審査会委員(2015～)
- (3) 山形県環境審議会環境保全部会長(2015～)
- (4) 山形県環境審議会自然保護部会委員(2015～)
- (5) 鶴岡市林業振興協議会副会長(2015～)
- (6) 鶴岡市景観審議会委員(2014～)
- (7) 鶴岡市公園整備計画懇談会座長(2014～)
- (8) 東北森林管理局計画策定委員会委員(2014～)
- (9) 東北森林管理局保護林設定検討委員会委員座長(2015～)

高橋孝悦

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本木材学会(幹事 現在)
- (2) 日本林学会
- (3) 日本醸造学会
- (4) 日本紙パルプ技術協会(木材科学委員会委員 現在)
- (5) 東北森林科学会
- (6) International Society of Chemical Ecology

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Holzforschung(独国) 1件

森 茂太

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) Ecological Processes (Springer), Editorial Board
- (2) Eurasian journal of forest reseach, Referee Board
- (3) 根研究学会評議員
- (4) 根研究学会「根の研究」編集委員
- (5) 日本森林学会 所属
- (6) 日本生態学会 所属
- (7) 東北植物学会 所属
- (8) 熱帯生態学会 所属
- (9) 東北森林学会 所属
- (10) 亜熱帯森林林業研究会 所属

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Science 1報
- (2) Scentific reports (Nature 姉妹紙) 1報
- (3) ほか 約10件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 青森県平内町林業研究グループ 平内ヒバ研究会顧問
- (2) 青森県平内町林業研究グループ 滝の沢林業研究グループ顧問
- (3) 山形市森林整備推進協議会委員
- (4) 東北森林管理局国有林野管理審議委員
- (5) 山形大学農学のゆうべ 2015 講演

林田光祐

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本森林学会
- (2) 日本生態学会
- (3) 日本海岸林学会(副会長 2008～現在)
- (4) 東北森林科学会
- (5) 植生学会
- (6) 日本鳥学会

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) 日本森林学会誌(2件)

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県環境審議会委員(2005～2016)
- (2) 交付金プロジェクト「東日本大震災で被災した海岸林の復興技術の高度化」外部評価委員、独立行政法人森林総合研究所(2012～2016)

- (3) 希少野生動植物種保存推進員、環境省自然環境局(2012～現在)
- (4) 名勝高田松原の再生に関する試験植栽技術検討委員会委員、日本緑化センター(2014～2016)
- (5) 福島県「防災林造成2604業務鹿島地区」検討委員会委員、国土防災技術株式会社(2015～2016)
- (6) 林野庁「海岸防災林グランドデザイン調査」検討委員会委員、国土防災技術株式会社(2015～2016)
- (7) 庄内自然博物館構想推進協議会運営委員会委員、鶴岡市(2012～2016)
- (8) 里地里山学講座第1回において「早春の赤い果実と緑の虫えい」について講演:鶴岡市自然学習交流館(平成27年5月8日)
- (9) 湿地保全サポーターの指導:鶴岡市大山都沢湿地(平成27年5月23日、6月6日、9月5日、9月12日の4回)
- (10) 里地里山学講座第4回において「山のさくらんぼはどこへ行く?」について講演:鶴岡市自然学習交流館(平成27年7月17日)
- (11) ラムサール登録湿地大山上池・下池に関する学習会での講演「水位変動が上池・下池の水辺植生に及ぼす影響および都沢湿地の植生保全における人為攪乱の重要性」:庄内自然博物館構想推進協議会、鶴岡市自然学習交流館(平成27年8月5日)
- (12) 平成27年度山形県森づくり支援人材育成研修の講師:山形県森林研究研修センター主催、山形県西川町(平成27年8月8～9日)
- (13) 平成27年度山形県学校林環境学習推進・森林整備研修会での講師:山形県森林研究研修センター主催、山形県金山町(平成27年9月8日)
- (14) 朝日新聞地方版で庄内海岸砂丘地における砂草地の重要性を解説(平成27年10月19日)
- (15) 「東北の野生動物管理を考える」東北野生動物管理研究交流会inふくしまの主催:山形大学YU-COE(C)人口減少社会適合型野生動物管理システム創成拠点研究交流会実行委員会、福島大学金谷川キャンパス(平成27年11月28日)
- (16) 平成27年度森づくりセミナー&活動報告会での「イヌワシの保全と林業の両立をめざした森づくり」の講演:やまがた公益の森づくり支援センター、鶴岡市西郷地区農林活性化センター(平成28年1月30日)

柳原 敦

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県最上小国川環境保全協議会委員(2015～2016)

菊池俊一

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本森林学会(日本森林学会誌編集委員会委員)
- (2) 日本生態学会
- (3) 日本地形学連合
- (4) 日本地すべり学会
- (5) 日本緑化工学会
- (6) 森林立地学会
- (7) 東北森林科学会(学会誌編集委員)
- (8) 日本海岸林学会

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) 日本森林学会誌 1件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 東北森林管理局朝日山地森林生態系保護地域管理委員会委員長(2013年5月～2018年3月)
- (2) 東北森林管理局事業評価技術検討会委員(2014年11月～2016年3月)
- (3) 国土交通省東北地方整備局月山ダム事務所月山ダム水源地域ビジョン推進会委員長(2014年12月～2017年11月)
- (4) 山形県公共事業評価監視委員会委員(2014年4月～2016年3月)
- (5) 山形県農林水産部ナラ枯れ被害拡大防止検討委員会座長(2015年4月～2016年3月)
- (6) 山形県環境エネルギー部やまがた緑環境税事業評価・検証プロジェクトチーム委員兼ワーキンググループ(森林整備部門)委員(2015年6月～2017年3月)
- (7) 山形県農林水産技術会議委員(2015年7月～2017年6月)
- (8) 鶴岡市森林公園「ケヤキの森」がっこう実施事業検討委員会アドバイザー(2014年7月～2017年3月)
- (9) 鶴岡市環境つるおか推進協議会監事(2015年5月～2017年3月)
- (10) 「庄内海岸林の今」について講演:鶴岡市・日本たばこ産業(株)東北支社主催「JTの森 鶴岡2015春森づくり活動」・鶴岡市湯野浜海岸林(2015年5月16日)
- (11) 「動如山?(動くこと山の如し)ー地表面の変化と植物動態の相互関連ー」について講演:秋田県立本荘高等学校主催「One day カレッジー大学の先生を囲む会ー」・秋田県立本荘高等学校(2015年7月9日)
- (12) 「クロマツ海岸林ってなんだろう?」について講演:酒田市立十坂小学校主催・十坂小学校(2015年9月1日)
- (13) 「壊れていく山は放っておいて良いか」について講演:飯豊連峰保全連絡会・朝日連峰保全協議会主催「基礎技術講習会」・小国町アスモ(2015年9月26日)
- (14) 「様々な主体の協働による地域環境の保全ー西別川のバイカモをまもるにはー」について講演:北海道立当別高等学校園芸デザイン科主催「特別講義」・北海道立当別高等学校(2016年2月16日)
- (15) 「冬芽観察ー早春の森を散策しようー」について講演:NPO法人公益のふるさと創り鶴岡主催・鶴岡市藤沢森林公園ケヤキの森(2016年3月13日)

芦谷竜矢

2-① 学会活動

2-①- (i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本木材学会
- (2) 日本化学会
- (3) 日本木材加工技術協会
- (4) 東北森林科学会
- (5) 国際化学生態学会

2-①- (ii) 論文審査の依頼等

- (1) Journal Wood Science (日本), 3件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 東北森林管理局・山形大学農学部連携シンポジウムでパネルディスカッションコーディネーター, 山形大学農学部(平成28年1月29日)
- (2) 環境・循環型産業交流プラザ(主催:山形県, 山形県産業廃棄物協会)で林産廃棄物の化学成分利用について講演, ヒルズサンピア山形(平成28年2月4日)

ロペス・ラリー

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本森林学会

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Ecological Engineering (米国) 1件
- (2) Water, Air and Soil Pollution 1件

林 雅秀

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本森林学会
- (2) 日本社会学会
- (3) 林業経済学会(2014～2015総務主事)
- (4) 東北森林科学会(2014編集主事)

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) 林業経済研究 2件

江成広斗

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 「野生生物と社会」学会 (野生生物と社会 編集委員2014～現在、ワイルドライフフォーラム 副編集長2015)
- (2) 日本生態学会(Ecological Research 編集委員 2014～現在)
- (3) 日本霊長類学会(保全福祉担当幹事 2015～現在)
- (4) 日本哺乳類学会(ニホンザル保護管理検討作業部会 副部会長 2009～現在)
- (5) The Wildlife Society

2-①-(ii) 学会の主催等

- (1) 東北の野生動物管理を考える(YU-COE主催) 福島県福島市2015年11月28日

2-①-(iii) 論文審査の依頼等

- (1) Restoration Ecology (北米) 1件
- (2) Mammal Study (日本) 2件
- (3) 日本森林学会誌 1件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 「山の動物たちとどう付き合うか？」について講演:ゆうキャンパス 大学コンソーシアムやまがた主催 山形大学サテライト(2015年6月10日)
- (2) 山形県農林水産部 鳥獣被害指導者養成研修会における講師(2014～現在)
- (3) 環境省 ニホンザル保護管理検討会 委員 (2012～現在)
- (4) 山形県環境科学研究センター アドバイザリー・ボード (2014～現在)

- (5) 山形県 特定鳥獣保護管理検討委員会委員(2013～現在)
- (6) 山形県教育委員会 特別天然記念物カモシカ指導委員(2015)

2-③ 学会賞受賞等

- (1) 日本哺乳類学会 奨励賞 多雪地に生息するニホンザルの社会生態、保全及び管理に関する研究(2015年7月)
- (2) 日本霊長類学会 高島賞(2015年7月)
- (3) 「野生生物と社会」学会 最優秀ポスター賞 土地利用の複雑さとニホンザルによる農作物被害の加害度との関連性
受賞者: 江成はるか, 江成広斗(2015年11月)

水土環境科学コース

藤井秀人

2-① 学会活動

2-①-① 所属学協会及びその役職

- (1) 日本雨水資源化システム学会 評議員(2007～現在)
- (2) 農業農村工学会(1983～現在)
- (3) 水文水資源学会(1994～現在)
- (4) 日本熱帯農業学会(1987～現在)
- (5) 日本雨水資源化システム学会(1988～現在)

2-①-② 論文審査の依頼等

- (1) 農業農村工学会誌(水土の知)(日本) 査読:1件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 西郷北部地区経営体育成基盤整備事業推進委員会環境情報部会座長:西郷土地改良区(2015年4月～2016年3月)
- (2) 平成27年度海外技術協力検討事業(ライフサイクルコスト低減型整備検討調査)委員:日本水土総合研究所(2015年9月～2016年3月)
- (3) 平成27年度海東北農政局管内国営事業総合技術支援業務に係る委員会委員:日本水土総合研究所(2015年11月～2016年4月)
- (4) 平成27年度「山形学」地域連携講座:「庄内文化の底流を探るⅡ～その実態と評価」の講演「庄内平野の農業用水と雪—地球温暖化の影響は?」及び現地研修(2015年10月31日)

2-③ 学会賞受賞等

- (1) 平成27年度農業農村工学会大会:優秀ポスター賞:藤原洋一・星川圭介・藤井秀人・横山繁樹(2015)メコンデルタにおける河川水位上昇の要因分析

奥山武彦

2-① 学会活動

2-①-① 所属学協会及びその役職

- (1) (公社)日本地すべり学会(理事H16～, 東北支部長H26～)
- (2) (公社)農業農村工学会
- (3) (公社)土木学会
- (4) (公社)地盤工学会(災害連絡会議地方連絡委員)

2-①-② 学会の主催等

日本地すべり学会第54回研究発表会及び現地見学会・副実行委員長:山形県山形市(平成27年8月25日～平成27年8月28日)

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 東日本高速道路株式会社東北支社山形地域技術懇談会委員(26.6.10～28.3.31)
- (2) 財団法人日本水土総合研究所客員研究員(27.4.27～28.3.31)
- (3) 農林水産省農村振興局 官民連携新技術研究開発事業審査委員会委員(26.8.30～29.8.29)
- (4) 平成27年度地すべり調査意見聴取会委員(27.8～28.3.31)
- (5) 平成27年度庄内あさひ地区地すべり対策技術検討委員会委員長(27.7～28.3.31)

- (6) 「農地地すべりへの応急対応」, 土地改良測量設計技術協会, 2015年7月1日
- (7) 「六十里越街道の過去と今、そして未来」, 鶴岡市致道大学, 2015年7月17日
- (8) 「山里の脅威 大規模地すべりと地下100mで闘う」, 山形大学農学部夏期セミナー, 2015年8月3日
- (9) 「暮らしを支える身近な社会基盤」, 放送大学山形学習センター, 2015年6月6日～7日

安中武幸

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 農業農村工学会 (代議員 2012～現在)
- (2) 土壌物理学会 (評議員 2015～現在)
- (3) 日本砂丘学会
- (4) アメリカ土壌科学会
- (5) 日本土壌肥料学会
- (6) 地盤工学会

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) 土壌の物理性(2件)
- (2) 農業農村工学会論文集(1件)
- (3) 日本砂丘学会誌(1件)

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 「第21回庄内・社会基盤技術フォーラム2016」の運営委員長:場所:東北公益文科大学、参加人数300人
- (2) 農業用水(畑)計画基準検討意見聴取会委員(2015. 6～2016. 3)
- (3) 総合評価落札方式による入札を行う場合に意見を聴取する学識経験者(山形県農林水産部:2015.6～2016.3)

石川 雅也

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) ICID(国際灌漑排水協会、国内推進委員会委員 2003年4月1日～現在)
- (2) 農業農村工学会(資源循環研究部会幹事 2003年4月1日～現在)
- (3) 農業農村工学会(水田農業地域の農業用水における有効利用に関する分析調査検討委員会委員 2005年07月01日～現在)
- (4) PAWEES(国際研究集会国内実行委員会委員 2005年2月1日～現在)
- (5) (財)日本水土総合研究所(客員研究員 2006年11月27日～現在)
- (6) 山形県土地改良事業団体連合会・舟形地区集排汚泥利活用検討委員会(委員長 2011年11月29日～現在)

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Paddy and Water Environment (ドイツ) 5件
- (2) 農業農村工学会資源循環研究部会研究発表会論文(日本)2件
- (3) 農業農村工学論文集(日本)1件
- (4) 農村計画論文集(日本)1件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県土地改良事業団体連合会主催・土地改良区役職員研修会コーディネータ(平成28年2月1日、2月2日)

花山 奨

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 農業農村工学会
- (2) 土壌物理学会
- (3) 日本土壌肥料科学会

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) 土壌の物理性 1件
- (2) 農業農村工学会論文集 1件

渡邊 一哉

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 農業農村工学会(正会員1995-現在)
- (2) 日本生態学会(正会員2005-現在)
- (3) 応用生態工学会(正会員2000-現在)
- (4) 環境情報科学センター(正会員2005-現在)
- (5) 自然環境復元学会(正会員2007~現在)

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) 環境情報科学センター(論文集投稿論文審査員 1件)

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 庄内社会基盤フォーラム 運営委員(2010~)
- (2) 国土交通省 東北整備局 リバーカウンセラー(最上川), 2014~
- (3) 平成27年度総合地球環境学研究所共同研究員
- (4) 山形ブロック総合評価委員会委員, H27.4.1~H28.3.31
- (5) 最上川水系流域委員会委員, H27.4.1~H28.6.30
- (6) 赤川水系河川整備学識者懇談会委員, H27.4.1~H28.3.31
- (7) 和光幼稚園 環境学習会 講師 H27.5.

渡部 徹

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 土木学会(1998~現在, 東北支部幹事2010~現在)
- (2) 日本水環境学会(1998~現在, 東北支部幹事2015~現在)
- (3) Society for Risk Analysis(2009~現在)

- (4) International Water Association(2000～現在)
- (5) 農業農村工学会(2011～現在)
- (6) 日本エコヘルズ研究会(2013～現在, 事務局担当2013～現在)

2-①-(ii) 学会の主催等

- (1) 平成27年度日本水環境学会東北支部セミナー・開催責任者:山形県鶴岡市(平成27年10月17～18日)
- (2) ビストロ下水道第8回会合・主催者:山形県鶴岡市(平成27年11月24日)

2-①-(iii) 論文審査の依頼等

- (1) Water Research(Elsevier, オランダ) 4件
- (2) Journal of Water and Health(IWA Publishing, 英国) 2件
- (3) Journal of Water, Sanitation and Hygiene for Development(IWA Publishing, 英国) 2件
- (4) BMC Pediatrics(BioMed Central, 英国) 1件
- (5) BMC Research Notes(BioMed Central, 英国) 1件
- (6) Journal of Water and Environment Technology(日本水環境学会, 日本) 2件
- (7) 土木学会論文集(土木学会, 日本) 3件
- (8) 環境技術(環境技術学会, 日本) 1件
- (9) African Journal of Biotechnology(Academic Journals, モーリシャス) 1件
- (10) African Journal of Microbiology Research(Academic Journals, モーリシャス) 1件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県立鶴岡南高等学校 スーパーサイエンスハイスクール事業への協力(平成25年4月～現在)
- (2) 若手研究者座談会「日本の水の未来像」:日本水道新聞(平成27年9月28日付)
- (3) 「下水処理水での飼料用米栽培」に関する紹介:日本農業新聞(平成28年1月5日付)
- (4) 「下水処理水での飼料用米栽培」に関する紹介:「農耕と園芸」誌(平成28年3月号)
- (5) 「ビストロ下水道第8回会合」の紹介:NHK総合・山形県内ニュース(平成27年11月24日)
- (6) 「ビストロ下水道第8回会合」の紹介:山形新聞(平成27年11月25日付)
- (7) 「ビストロ下水道第8回会合」の紹介:河北新報(平成27年11月26日付)
- (8) 「ビストロ下水道第8回会合」の紹介:荘内日報(平成27年11月26日付)

③産学官など国内他機関との連携研究実績

(研究費を受けていない場合も含む)

安全農産物生産学コース

西澤 隆

- (1) (受託研究)葉菜・果菜類の栽培における電解機能水の効果的な利用方法の探求, 及び青果物の貯蔵における光触媒による熟度制御に関する研究・株)東芝(平成27年4月～平成28年3月)
- (2) (連携ユニット)ミニトマト研究ユニット・庄内総合支庁農業技術普及課産地研究室(平成27年4月～平成28年3月)

藤井弘志

- (1) 先端実証事業(農林水産省)コニカミノルタ、ヤンマー、伊藤電子工業、山形大学農学部

堀口健一

- (1) 鶴岡市「竹の飼料特性と防臭効果の検証」2015年5月～
- (2) 株式会社大商金山牧場「玄米多給与の肥育豚における発育と肉質に関する研究」2015年7月～
- (3) 株式会社大商金山牧場「地域飼料資源の養豚飼料としての評価」2015年8月～
- (4) 清水港飼料株式会社「圧扁トウモロコシのルーメン内消失特性に関する研究」2015年10月～

小笠原宣好

- (1) 八幡平市:リンドウの生育特性に関する研究, 2015年4月～2018年3月

長谷 修

- (1) 山形大学農学部・山形県農林水産部連携推進協議会 野菜花き病害研究ユニット, 2012年4月～継続

小林 隆

- (1) 山形農総研、東北農研, 攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業, 2014年4月～2016年3月

森 静香

- (1) (独)理化学研究所(鶴岡):潮風害を受けた水稻のメタボローム解析に関する連携研究、2015年4月～2016年3月
- (2) (独)農業環境技術研究所:資材中のケイ酸形態に関する連携研究、2015年4月～2016年3月
- (3) 山形県、鶴岡市、香蘭産業(株):未利用資源の資材化に関する連携研究、2015年4月～2016年3月

- (4) (独)理化学研究所:水稲における塩耐性系統の塩分付着害に関する連携研究、2015年4月～2016年3月
- (5) サカタのタネ(株)、(株)サミュエルインターナショナル:「バリカタの施肥試験」に関する連携研究、2015年4月～2016年3月
- (6) 昭和化学工業(株):「珪藻土が水稲に及ぼす影響」に関する連携研究、2015年4月～2016年3月
- (7) 丸善薬品産業(株)、ミネヒロン(株):育苗および本田施肥に関する連携研究、2015年4月～2016年3月
- (8) 大塚アグリテクノ(株):「亜りん酸肥料の施用が水稲の生育、品質および収量に及ぼす影響」に関する連携研究、2014年4月～2015年6月

佐藤 智

- (1) 農林水産省:水田の生物多様性に関する研究、2014年4月～2019年3月

池田和生

- (1) 庄内総合支庁:日本なしの高品質安定生産
- (2) 鶴岡市:カキ大玉生産技術の開発

佐々木由佳

- (1) 名古屋大学大学院生命農学研究科:SATREPS(テーラーメイド育種と栽培技術開発のための稲作研究プロジェクト)
- (2) 珪酸石灰肥料協会:水稲のケイ酸吸収に対するケイカル施用効果試験
- (3) 鶴岡工業高等専門学校:画像解析による植物の生育状況の評価に関する研究
- (4) 真室川町、JA真室川:飼料と稲を用いた畜産を核とする農業生産サイクルの構築

松本大生

- (1) 山形県:サクラ属果樹の自家不和合性機構に関する連携研究、2015年4月～2016年3月

食農環境マネジメント学コース

小沢 亙

- (1) やまがた第6次産業(農商工連携)人材創生プロジェクト(山形県)におけるプログラム開発リーダー

角田 毅

- (1) 国際農林水産業研究センター:アフリカ低湿地における低投入稲作技術の開発
- (2) 秋田県立大学生物資源科学部:東北水田地帯における田畑輪換作の現局面と農法変革に向けた条件に関する研究

家串哲生

- (1) 尾崎亨・樋元淳一・家串哲生: 青果物の計量販売への転換による物流改革と効果に関する実証的研究、2015-2019年度

藤科智海

- (1) 農林水産省受託研究: 多雪平野景観北日本における代表種の選定と生息条件に及ぼす農法の影響解明, 2013年06月～継続中
- (2) 岩手大学大学院連合農学研究科研究科長裁量経費: 固定価格買取制度下におけるバイオマスエネルギー事業の特質と課題, 2015年6月～2016年3月
- (3) 平成27年度「地(知)の拠点整備事業」地域志向教育研究経費: 耕種農家と畜産農家の耕畜連携による農業生産サイクルの構築(真室川町との連携), 2015年7月～2016年3月

食品・応用生命科学コース

三橋 渉

- (1) 平成27年度鳥取大学乾燥地研究センター共同研究(一般研究)採択

永井 毅

- (1) 遊佐町: 商品開発のプロセス(継続)
- (2) 遊佐町の生産者および企業: 食品開発や表示など(継続)
- (3) 鶴岡市内企業: 新商品開発、既存商品ブラッシュアップおよび分析(継続)
- (4) 戸沢村: 新商品開発の仕方(平成27年度から)
- (5) 山辺町: 米の新たな活用法開発(平成27年度から)
- (6) 村山総合支庁: 地域食材の新たな活用(平成27年度から)

加来伸夫

- (1) 東京薬科大学: 微生物燃料電池に関する研究(2011年～現在)
- (2) 山形県自動車販売店リサイクルセンター: 資源リサイクルに関する研究(2010年～現在)
- (3) (株)森環境技術研究所: 各種条件下におけるセルロース分解に関する研究
- (4) (株)エコハイテックコーポレーションおよび(有)拓芯: 浄水発生土乾燥物の有効活用に関する研究(2013年～現在)

渡辺昌規

- (1) 平成26年度 JST研究成果展開事業A-STEP探索タイプ事業「米副産物からの機能性タンパク質・リン化合物同時回収プロセスの開発」(採択、研究開発費1,700千円)
- (2) 平成26年度 山形県3R研究開発事業費補助金(先導的研究開発事業・共同研究)「米副産物からのリン成分・高純度タンパク質の同時回収・精製プロセスの開発」(採択、配分額500千円、(株)三和油脂)
- (3) 広島県立総合技術研究所 西部工業技術センター「米表層タンパク質組成の任意制御による米の高品質化に関する研究」

- (4) 山形大学農学部・山形県農林水産部連携推進協議会 連携研究ユニット「米の食味・物性評価用マーカー開発研究ユニット」県農業総合研究センター水田農業試験場 水稲部長 中場勝
- (5) 大道山竹炭工房:「竹炭を用いた学習教材用空気電池の開発」

植物機能開発学コース

俵谷圭太郎

- (1) 農林水産省農林水産技術会議事務局:「イネの低コスト化・省力化・環境負荷低減に資する有用遺伝子の同定とDNAマーカーの開発」
- (2) 科学技術振興機構:「共生ネットワークの分子基盤とその応用展開」

村山秀樹

- (1) 山形県農林水産部と「りんご研究」連携ユニットならびに「西洋なし品種開発・生理研究ユニット」連携ユニットで研究活動

江頭宏昌

- (1) 農業生物資源研究所: 中課題「遺伝資源の効率的保存技術等の開発」における小課題「伝統野菜等の生息域内保存支援システムの開発」, 2013年6月～2016年3月

程 為国

- (1) 山形県農業総合研究センター: 農耕地からの温室効果ガス削減技術の研究、2015年4月～2016年3月
- (2) 農業環境技術研究所: 地球温暖化に関する研究、2015年4月～2016年3月

笹沼恒男

- (1) 京都大学農学研究科: コムギ・エギロプス属の系統進化、遺伝的多様性に関する研究, 2002年5月～2016年3月
- (2) 岡山大学資源植物科学研究所; ロシア・北コーカサスのムギ類遺伝資源の多様性解析と育種利用に関する共同研究, 2010年6月～現在
- (3) 岡山大学農学部: 東アジアのムギ類遺伝資源の調査研究: 2011年4月～現在
- (4) 三栄源エフ・エフ・アイ株式会社: ベニバナの品種内多様性に関する研究, 2013年10月～現在

星野友紀

- (1) 山形県: やまがた日本一えだまめ産地化を目指した新品種開発ユニット、研究代表、2015年5月～継続中
- (2) 山形県水田試験場: 「つや姫」突然変異集団の作出と利用、2013年4月～継続中
- (3) 公益財団法人不二たん白質研究振興財団: エダマメ品種ダダチャマメの良食味を司る遺伝子座の探索、研究代表、2015年4月～継続中
- (4) 農業生物資源研究所: イネ穂発芽耐性遺伝子の単離と機能解明、2015年10月～継続中
- (5) 農業生物資源研究所: 「つや姫」の出穂期改良に関する研究、2015年10月～継続中

及川 彰

- (1) 新学術領域「植物個体発生を支える代謝ネットワークの解明」(平成25～29年)
- (2) 基盤研究B「ナシ属の伝播にともなう果実形質および病原菌の共進化過程の解析」(平成25～27年)
- (3) 挑戦的萌芽研究「葉と果実のクロストーク: Tree Factorが支配する果実追熟性の機構解明」(平成26～27年)
- (4) 基盤研究B「イネにおけるセロトニン蓄積の抑制機構の解明: アブラムシによる抵抗性の抑制と利用」(平成27～30年)
- (5) 基盤研究S「摂食シグナル胆汁酸の分子栄養学的機能解析と食品成分による摂食応答制御」(平成27～31年)
- (6) 農林水産試験研究費補助金「食品のプロファイル解析プラットフォームの構築と実証研究」(平成27～28年)

森林科学コース

野堀嘉裕

- (1) 「森林整備によるクロマツ林内へのショウロの誘導と特産品化」、学校法人天真学園ボランティアサークルとの共同調査、平成27年度

高橋孝悦

- (1) 秋田県立大学木材高度加工研究所: 木質材料の化学加工についての研究, 継続中
- (2) 秋田県立大学木材高度加工研究所: 秋田杉の化学成分についての研究, 継続中
- (3) 岩手大学: 樹皮成分についての研究, 継続中

森 茂太

- (1) 青森県平内町林業研究グループ 平内ヒバ研究会、滝の沢林業研究グループとのヒバの持続的省力化施業に関する研究
- (2) 弘前大学遺伝子研究施設の赤田辰治氏とのブナ実生のストレス誘導遺伝子に関連した個体生理の共同研究
- (3) 山形大学農学部 星野准教授、及川准教授、村山秀樹教授との個体生理学に関する共同研究、果樹の研究で科学研究の分担を行う。
- (4) 豊橋技術科学大学足立忠晴教授との「呼吸速度と組織強度の関係解明」の共同研究
- (5) 京大大学生態学研究センター 石田厚教授との科研共同研究(分担1課題、連携1課題 合計2課題の科研)
- (6) 静岡大学 吉村仁教授、横沢正幸教授との生物多様性に関する理論の共同研究。共著論文が掲載された。
- (7) 筑波大学環境科学研究科 山路恵子准教授との共同研究でエンドファイト感染による個体呼吸シフトのメカニズム解明に関する研究。
- (8) 山形大学農学部 星野准教授との共同研究でイネ品種間の呼吸特性の比較研究。
- (9) 昭和電工植物工場の植物個体の呼吸評価研究

林田光祐

- (1) やまがた絆の森(楽天の森)協定書に基づき、楽天株式会社と山形県林業公社・山形県と連携して、烏海山麓のイヌワシ保全を目的とした森林整備を行い、その効果を検証する役割を担う研究責任者(2014.7~2019.3)
- (2) やまがた森林環境学習推進研究ユニット:山形県森林研究研修センターとの共同研究

菊池 俊一

- (1) 一般財団法人前田一步園財団:阿寒川水系の水と森林に関わる調査研究、2004年6月~2016年3月

芦谷竜矢

- (1) 九州大学:樹木成分化学についての研究, 継続中
- (2) 秋田県立大学木材高度加工研究所:木質材料の化学加工についての研究, 継続中
- (3) 岩手大学:樹皮成分についての研究, 継続中

水土環境科学コース

奥山武彦

- (1) 農林水産省:気候変動に対応した循環型食料生産等の確立のための技術開発, 2013~2017

石川雅也

- (1) 大規模灌漑事業の持続性および農村地域社会の開発効果に関する共同研究(海外科研B、東大・筑波大・北里大・弘前大・山形大・三重大)

渡邊一哉

- (1) 山形大学農学部・山形県農林水産部連携推進協議会 連携研究ユニット H27年度
- (2) 平成27年度総合地球環境学研究所共同研究員「東南アジア沿岸域におけるエアケイパビリティの向上」

渡部 徹

- (1) 東京大学, 愛媛大学, 総合地球環境研究所, 長崎大学:気候, 土地利用, 人口の変化が引き起こす新たな健康リスクの予測モデル構築とその検証に関する研究基盤形成, 2011年10月~2016年3月
- (2) 東北大学, 宮城県保健環境センター, 東京大学, 熊本大学:迅速・高精度・網羅的な病原微生物検出による水監視システムの開発, 2011年10月~現在
- (3) 東京工業大学, カセサート大学(タイ), カンボジア工科大学:都市の水資源管理に関するアジアの研究教育基盤モデルの構築, 2015年9月~現在
- (4) 愛媛大学:フィリピンにおけるデング熱媒介蚊の集団遺伝学的研究:飛翔パターンと感染経路, 2013年3月~2016年3月
- (5) 東京大学, 愛媛大学:気候・社会・生態系の変動に対応した感染症リスク評価モデルの構築, 2014年4月~現在
- (6) 金沢大学, 岩手大学:水中の薬剤耐性菌による健康影響評価手法の開発と水再利用へのその適用, 2014年4月~現在

- (7) 東京工業大学, 熊本大学: 持続可能な養殖漁業を支える森から海への有機物と微量必須金属の輸送メカニズム, 2014年4月～現在
- (8) 金沢大学: 遺伝子解析にもとづく熱帯アジアの下廃水処理施設における薬剤耐性菌の挙動解明, 2015年4月～現在
- (9) 東京工業大学, カンボジア工科大学: トンレサップ湖における環境保全基盤の構築, 2015年6月～現在

④海外研究者との研究活動

安全農産物生産学コース

西澤 隆

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2015年8月 カンボジア:3rd ISHS Southeast Asia Symposium on Quality Management in Postharvest Systems研究発表(口頭)発表
- (2) 2015年10月 モンゴル:モンゴル生命科学大学・研究交流
- (3) 2015年11月 チリ:世界展開力強化事業打合せ
- (4) 2015年12月 バングラデシュ:論文博士支援事業(日本学術振興会)
- (5) 2016年1月 タイ:平成27年度帰国外国人留学生研究指導事業(日本学生支援機構)

4-② 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) シエレバングラ農業大学(バングラデシュ) A.H.M. Solaiman:「選択的紫外線カットフィルムを用いた園芸作物の妨害防除及び色素形成に関する研究」
- (2) ラジャマンガラ工科大学タウンオク校(タイ) Thanidchaya Puthmee:「冷凍条件がライム果汁の抗酸化機能に及ぼす影響に関する研究」
- (3) チェンマイ大学科学技術研究所(タイ) Wilawan Kumpoun:「マンゴーの生理障害に関する研究」
- (4) ダッカ大学理学部(バングラデシュ) A. Karim:「河川に含まれる重金属の野菜への吸収に関する研究」

佐々木由佳

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2014年7月12日～7月22日、ケニア:SATREPS(テーラーメイド育種と栽培技術開発のための稲作研究プロジェクト)に関する研究の現地調査、研究打ち合わせ
- (2) 2014年8月20日～8月28日、ケニア:SATREPS(テーラーメイド育種と栽培技術開発のための稲作研究プロジェクト)に関する研究の現地調査、研究打ち合わせ
- (3) 2015年1月4日～1月14日、ケニア:SATREPS(テーラーメイド育種と栽培技術開発のための稲作研究プロジェクト)に関する研究の現地調査、研究打ち合わせ
- (4) 2015年3月4日～3月11日、ケニア:SATREPS(テーラーメイド育種と栽培技術開発のための稲作研究プロジェクト)に関する研究の現地調査、研究打ち合わせ

4-② 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) ケニア、SATREPS(テーラーメイド育種と栽培技術開発のための稲作研究プロジェクト)、共同研究者:Ministry of AgricultureのMr. Johnson Irungu Waithaka, Kenya Agricultural Research Institute (KARI), MweaのMr. John Kimani, Jomo Kenyatta University of Agriculture and Technology (JKUAT)のMr. Hunja Murage, Maseno UniversityのMr. John Collins Onyango, Natinal Irrigation Board (NIB), Mwea Irrigation Agriculture Development Centre (MIAD)のMr. Raphael Wanjogu、2012年～

食農環境マネジメント学コース

岩鼻通明

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2015年12月 韓国・ソウルにおいて伝統文化を通じた地域活性化に関する調査
- (2) 2016年3月 韓国・慶尚南道において伝統文化を通じた地域活性化に関する調査

金 成学

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2015年3月～9月 アメリカ農業政策に関する研究(長期研修)
- (2) 2015年11月 韓国:農産物流通に関する調査
- (3) 2016年2月 韓国:農産物流通に関する調査
- (4) 2016年3月 ベトナム:コメ生産流通に関する調査

角田 毅

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2015年7月 ガーナ:アフリカ低湿地プロにおける農家経済調査
- (2) 2015年10月 ガーナ:アフリカ低湿地プロ・ワークショップでの報告
- (3) 2016年3月 ベトナム:日本の農業法人の海外進出に関する調査

藤科智海

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2015年9月 中国:中国山東省のプロイラー合作社および養鶏農家調査

食品・応用生命科学コース

小関卓也

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) インドネシア ボゴール農科大学, ガジャマダ大学訪問(2015.8.29-9.4)

塩野義人

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2015年8月 インドネシア:熱帯植物から分離した菌類の生理活性物質の探索源の可能性について

渡辺昌規

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2015年7月 タイ・チェンマイ大学:農産廃棄物の再資源化に関する研究(日本学術振興会派遣研究員として)
- (2) 2016年2月 タイ・チェンマイ大学:JASSO海外留学支援制度(協定受入)事前打ち合わせ、学生面談の実施

4-② 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) 2016年3月 バイオマスエネルギー生産に関する共同研究(三菱ガス化学(株)北原義孝氏、チェンマイ大学学科長Noppol Leksawasdi氏との共同研究)

- (2) 亜熱帯性微生物を用いた新規発酵技術の開発とその事業化に関する共同研究(JSPS研究拠点形成事業Core to core (CCP) Program, チェンマイ大学農工学部長Charin Techapun氏、神戸大学農学部教授竹中慎治氏との共同研究)(2014~2018)(平成26年3月採択)

植物機能開発学コース

俵谷圭太郎

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2015年5月 インドネシア:日本学術振興会論文博士号取得希望者に対する支援事業による派遣
- (2) 2015年11月 インドネシア:東南アジア教育大臣機構専門家短期派遣(文部科学省)

4-② 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) 2015年12月 インドネシアの熱帯林の修復に関する共同研究(インドネシア環境林業省Turjaman博士との共同研究)

村山秀樹

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2015年5月 アメリカUSDAにおいてナシ属植物の遺伝資源調査
- (2) 2015年8月 中国安徽省においてナシ属植物の遺伝資源調査

程 為国

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 中国・安徽省農業科学院と上海同济大学・新農村発展研究院を訪問、2015年8月3日~7日
- (2) ハンガリー、University of Debrecenを訪問、2015年10月2日~5日
- (3) 中国・北京 中国科学院大気物理研究所を訪問、2016年1月20日~30日

4-② 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) 2013年01月から、中国科学院大気物理研究所XU Xingkai教授と一緒に「森林生態系における炭素・窒素の動態に及ぼす土壌凍結の影響」共同研究を行なっている

笹沼恒男

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2015年8月 中国青海省:ムギ類を中心とする植物遺伝資源調査

4-② 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) ロシア・旧ソ連圏のムギ類を中心とする植物遺伝資源の多様性解析と育種利用に関する共同研究(バビロフ研究所T.N.Smekalova博士、O.N. Kovaleva博士との共同研究):2010年6月~現在
- (2) 中国におけるムギ類を中心とする植物遺伝資源の多様性解析と育種利用に関する共同研究(中国科学院 龍春林博士との共同研究):2015年8月~現在
- (3) イネの健康成分の分析とその増加法に関する共同研究(シエラレオネNjala大学 J.S.Kamara博士との共同研究):2015年12月~現在

網干貴子

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2015年4月～9月 アメリカ:イネの代謝物に関する研究(YU海外研究グローイングアッププログラム)

森林科学コース

野堀嘉裕

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 国際交流協定に基づく海外サマースクールの実施、モンゴル生命科学大学、2015年8月8-23日

高橋孝悦

4-① 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) 植物成分の化学に関する共同研究(スウェーデン王立工科大学教授Anna-Karin Borg-Karlson氏との共同研究):継続中

森 茂太

4-① 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) 米ニューメキシコ大学のJH Brownよりデータ送付依頼をうけた。これは個体呼吸の系統間差を検討するUKのReading大学のプロジェクトの分析に利用するためである。
- (2) 米ミネソタ大 PB Reich(現 ウェスタンシドニー大学環境研究所長)教授へのスケーリングに関するデータ提供。
- (3) スペイン レリィダ大学との共同研究の継続をすすめている。

菊池 俊一

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2016年2月 インドネシア:火山噴火や泥炭火災が植生動態に与える影響に関する調査

芦谷竜矢

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2015年6月 スウェーデン:ISCE2015で研究発表および王立工科大学と研究交流
- (2) 2015年12月 米国ハワイ州:Pacifichem 2015で研究発表

4-② 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) 植物成分の化学に関する共同研究(スウェーデン王立工科大学教授Anna-Karin Borg-Karlson氏との共同研究):継続中

ロペス・ラリー

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2015年8月日本人学生と留学生(ドイツ・モンゴル・中国・スペイン)がモンゴルにおいてサマー・スクール(Understanding environmental and socio-economic changes in Mongolia in the last decades) 山形大学農学部教員2名、学生13名・他大学教員4名、学生25名。
- (2) 2015年11月さくらサイエンスプランに採択されたプログラムで、モンゴルのモンゴル生命科学大学の学生(10名)及び教員(1名)が演習林を訪問し、山形大学の日本人学生と共同ゼミを実施した。演習林の代表的なサイトを見学した他、山形大学教員の英語による講義を受講した。

4-② 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) 2015年6月 モンゴルの森林に気候変動の及ぼす影響に関する共同研究(モンゴル生命科学大学・植物防疫総長ビアンバスレン氏との共同研究)
- (2) 2015年7月 中国の東北地域における森林に気候変動の及ぼす影響に関する共同研究(中国東北林業大学教授氏との共同研究)
- (3) 2015年10月 庄内地方の焼畑後土壌の科学と物理的な変化に関する共同研究(ハノーバー大学教授グゲンバーガー氏との共同研究)

水土環境科学コース

藤井秀人

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2015年9月 ベトナム:環境低負荷型水管理技術の普及に関わる水文・水利・地形的条件の調査
- (2) 2015年10月 カンボジア:SATREPS「トンレサップ湖における環境保全基盤の構築」キックオフ会議
- (3) 2015年11月 マレーシア:気候変動に関する調査
- (4) 2015年12月 ベトナム:JIRCAS気候変動プロジェクトのワークショップ発表

石川雅也

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2015年10月 台湾大学・甘俊二名誉教授、醒吾技術学院(中華民国)・張煜權准教授との研究調査
- (2) 2016年1月 ブラビィジャヤ大学・Eri Suhartanto准教授との研究調査

4-② 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) 2015年4月 大規模灌漑事業の持続性および農村地域社会の開発効果に関する共同研究(台湾大学・甘俊二名誉教授、醒吾技術学院(中華民国)・張煜權准教授・ボゴール農科大学(インドネシア)・Budi 副学部長、ブラビィジャヤ大学・Eri Suhartanto准教授との共同研究)

渡邊一哉

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 8月 タイ バンドン湾における沿岸資源利用調査(文科省 科研費(C)) タイ タマサート大学TRFと協働
- (2) 12月 ベトナム フエ市における農作物流通調査および消費実態調査(文科省 GRENE)

4-② 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) 8月 タイ バンドン湾における沿岸資源利用調査(文科省 科研費(C)) タイ タマサート大学TRFと協働

渡部 徹

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2015年4月 ベトナム: 大学間交流協定の調印式
- (2) 2015年5月 タイ, カンボジア: 都市の水資源管理に関するアジアの研究教育基盤モデルの構築に関する打合せ
- (3) 2015年6月, 2016年1月, 3月 タイ: 遺伝子解析にもとづく熱帯アジアの下廃水処理施設における薬剤耐性菌の挙動解明に関する研究打合せ及び現地調査
- (4) 2015年6月 シンガポール: Asia-Pacific Wastewater Treatment and Reuse Conference 2015で研究発表(口頭)
- (5) 2015年7月 シンガポール: SRA World Congress on Risk 2015で研究発表(口頭)
- (6) 2015年8月 インドネシア: 気候, 土地利用, 人口の変化が引き起こす新たな健康リスクの予測モデル構築とその検証に関する研究基盤形成のための現地調査
- (7) 2015年8月 ベトナム: 気候, 土地利用, 人口の変化が引き起こす新たな健康リスクの予測モデル構築とその検証に関する研究基盤形成のための現地調査
- (8) 2015年9月 中国: The 6th IWA-ASPIRE Conference and Exhibitionで研究発表(口頭)
- (9) 2015年10月 カンボジア: トンレサップ湖における環境保全基盤の構築に関する研究打合せ
- (10) 2015年12月 シンガポール: シンガポール国立大学でCREST Workshopを開催, 研究発表(口頭)
- (11) 2016年3月 インドネシア: 3rd JSPS/GRENE-EcoHealth Joint International Symposium on Development of International Network on Health Risk Assessment in Urban Areaを開催, 座長と研究発表(口頭)

4-② 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) 2008年4月～現在 病原微生物による感染症リスクの定量評価に関する共同研究(米国ドレクセル大学Charles Haas教授との共同研究)
- (2) 2009年4月～現在 熱帯地域における水環境汚染に関する研究(タイ王国カセサート大学Wilai Chiemchaisri准教授, Chart Chiemchaisri准教授との共同研究)
- (3) 2011年4月～現在 途上国都市における洪水起因の健康リスクに関する研究(ベトナム・フエ大学Pham Khac Lieu講師, インドネシア・パジャジャラン大学との共同研究)

4-③ 国際研究集会の開催

- (1) 2016年3月 3rd JSPS/GRENE-EcoHealth joint International Symposium on Development of International Network on Health Risk Assessment in Urban Areaの開催(会場: Bali, Indonesia, 参加国数: 2, 参加人数: 約30)

⑤ 研究員等の受け入れ状況

安全農産物生産学コース

西澤 隆

- (1) シエレバングラ農業大学(バングラデシュ) A.H.M. Solaiman: 日本学術振興会論文博士支援事業「選択的紫外線カットフィルムを用いた園芸作物の妨害防除及び色素形成に関する研究」(平成27年9月7日～平成27年9月17日)
- (2) シエレバングラ農業大学(バングラデシュ) A.H.M. Solaiman: 日本学術振興会論文博士支援事業「選択的紫外線カットフィルムを用いた園芸作物の妨害防除及び色素形成に関する研究」(平成28年1月18日～平成28年1月27日)
- (3) ラジャマンガラ工科大学タウンオク校(タイ) Thanidchaya Puthmee: 日本学術振興会帰国外国人留学生短期研究制度「冷凍条件がライム果汁の抗酸化機能に及ぼす影響に関する研究」(平成27年7月1日～平成27年8月31日)
- (4) チェンマイ大学科学技術研究所(タイ) Wilawan Kumpoun: タイ政府「マンゴーの生理障害に関する研究」(平成28年3月1日～平成28年4月30日)

佐藤 智

- (1) Sriwijaya University, Dr. Yulia Pujiastuti(本人の自己資金による訪問), 捕食性テントウムシの生態に関する研究、2015年6月
- (2) Charles University in Prague, Dr. Pavel Kindlmann(本人の自己資金による訪問), 捕食性テントウムシの生態に関する研究、2015年9月

食農環境マネジメント学コース

岩鼻 通明

- (1) 関口健「宗教者の分布からみた山岳信仰の展開とその地域構造に関わる再検討—羽黒山秋峯床帳の分析を中心として—」岩手連大研究員、2015年10月～2016年9月

食品・応用生命科学コース

塩野義人

- (1) カメルーン・ヤウンデ第一大学理学部・助教 アブドウ チョウコウア: 日本学術振興会「論文博士号取得希望者に対する支援事業「カメルーン産薬用植物からの有用物質の探索」平成27年6月20日から9月15日
- (2) インドネシア共和国・インドネシア共和国・ムラワルマン大学・薬学部・講師、パジャジャラン大学・数学・自然科学部・大学院生、Mr Hadi Kuncoro (ハディ クンクロ): インドネシア政府の援助による支援事業、「インドネシアにおける薬用植物資源からの生理活性物質の探索研究」平成27年9月9日から平成27年11月30日
- (3) アルジェリア民主人民共和国・ベシヤール大学大学院生(博士課程) Mr. HABBAB Abdallah (ハツバブ アブダラー): アルジェリア政府の援助による事業、「サハラ砂漠の植物に含まれる生理活性物質の研究」平成27年9月1日から12月31日

渡辺昌規

- (1) タイ・チェンマイ大学 N. Puangkhankham, W. Srisuwan: JASSO海外留学支援制度(協定受入)による大学院生の受け入れ,「未利用バイオマス再資源化技術研究者育成支援プログラム」(平成27年9月4日～平成27年11月30日)

植物機能開発学コース

村山秀樹

- (1) Student Exchange Support Programでガジヤマダ大学より学生2名受け入れ

程 為国

- (1) フランスにUniversity of BurgundyからDr Julien GUIGUE をJSPS外国人特別研究者として受け入れ,「Response of soil organic matter to elevated CO₂ concentrations in rice paddy: verification of water-extractable organic matter dynamics by ¹³C」の共同研究を行なった(平成27年6月16日～平成28年5月31日)
- (2) Gadjahmada University, Indonesia 修士2年学生Patria Novita KusumawardanさんをJASSO(留学生交流支援制度(短期受入れ))の支援制度で受け入れ,「水田放棄後の土地利用変化に関する研究」を行なっている(平成27年9月1日～平成28年8月31日)
- (3) ケニヤからのSamuel Munyaka KIMANI君をABEイニシアティブ研修生として受け入れ,「節水農業と土壌について」を行なっている(平成27年10月1日～平成28年3月31日)、その後、大学院修士課程を進学する
- (4) 中国出身のShuirong Tang君を文部省国費外国人留学生として受け入れている。(平成25年10月1日～)
- (5) ベトナム出身のNguyen Sy Toan君を文部省国費外国人留学生として受け入れている。(平成26年10月1日～)

笹沼 恒男

- (1) Njala大学講師 J.S.Kamara: 日本学生支援機構(JASSO)帰国外国人留学生短期研究制度による研究員の受け入れ,「炊飯米のテクスチュアに影響するデンプン関連の熱安定性諸酵素に関する生態種間差異の研究」(平成27年12月2日～平成28年2月28日)

森林科学コース

森 茂太

- (1) インドネシアガジヤマダ大学からのJASSO短期留学生の受け入れ

水土環境科学コース

渡部 徹

- (1) ドイツ・ドゥイスブルグ・エッセン大学化学部学生 Martin Dilssner: インターンシップ学生の受け入れ,「バイオフィルム中の薬剤耐性菌に関する研究」(平成27年6月3日～10月8日)
- (2) インドネシア・ガジヤマダ大学農業工学部学生 Yunita Ajeng Nurmangirasari: JASSOによる短期留学生の受け入れ(平成26年9月～平成27年8月)
- (3) インドネシア・ガジヤマダ大学農業工学部学生 Ermaya Eka Cahyaningrum, Nabila Dhyhan Azraini: JASSOによる短期留学生の受け入れ(平成27年9月～現在)

⑥その他

安全農産物生産学コース

藤井弘志

- (1) 公務員ゼミ開催: 2回参加人数30人

食農環境マネジメント学コース

小沢 亙

- (1) 学科長(学務委員長兼任)(2013年4月～2016年3月)
- (2) 統括教育ディレクター(2013年4月～2016年3月)
- (3) 全学就職委員会委員(2012年4月～2016年3月)
- (4) 全学学生委員会委員(2015年4月～2016年3月)
- (5) 全学障害学生支援センター協力教員(2015年10月～2017年9月)
- (6) 主査として1名の論文博士を審査した。

渡辺理絵

- (1) 米沢女子短期大学日本史学科 非常勤講師 平成27年7月23日

食品・応用生命科学コース

木村直子

- (1) 研究費獲得状況: ①山形大学ダイバーシティ助成研究者支援200万円
- (2) 大学内委員関係: 食品・応用生命科学コース副主任、山形大学動物実験委員会委員(～平成27年9月)、入試作題委員
- (3) 兼業: 日本学術会議連携会員(2014年10月～現在)、山形県農林水産技術会議委員(2013年4月～現在)、鶴南ゼミ講師(2013年4月～現在)、(独)日本学術振興会特別研究員等審査会専門委員及び国際事業委員会書面審査・書面評価員(2015年8月～2016年7月)
- (4) 岩手連合大学院関連: ①教員資格審査委員会専門委員(ACOSTA AYALA Tomas Javier教員分)、学位審査委員会委員(小野寺望さん)

渡辺昌規

- (1) (全学委員)
入試問題作成委員(生物)
山形大学国際交流コーディネーター(タイ国担当)
- (2) (学部内委員)
予算委員(H27)、月山会役員(H26-27)
(オープンキャンパス)
模擬講義の実施(「東北における米副産物リサイクルの現状と最新技術の紹介」、平成27年8月2日)
- (3) (企業見学会)
(株)三和油脂(天童市)企業研修・見学会の実施(平成27年8月4日、食応コース3年8名)

- (4) (技術指導)
丸善食品(鶴岡市)、ミクロ(天童市)、果香(寒河江市)、三菱ガス化学(東京都)、ニチレイフーズ(山形市)、三和油脂(天童市)、ちとせ研究所(川崎市)、ソディック、サタケ(東広島市)、SANSTAR(大阪府)、佐藤製餡所(新庄市)、まるい食品(鶴岡市)、三和油脂(天童市)、ASK(山形市)
- (5) (JASSO関連)
平成27年度海外留学支援制度(協定派遣・受入)申請プログラム「未利用バイオマス再資源化技術・研究者育成プログラム」申請(採択、平成27年1月29日)の申請代表者、留学生受入(タイ・チャンマイ大学大学院修士学生2名、平成27年9月4日、3か月間)
- (6) (外部資金)
科研費:基盤(C)採択(H27-29)
JST A-STEP(フィジビリティースタディ【FS】ステージ):採択(H27)
山形県3R研究開発事業費補助金(先導的研究開発事業):採択(H25-27)

植物機能開発学コース

江頭 宏昌

- (1) 2015年10月1日、鶴岡市より山形在来作物研究会(代表:江頭宏昌)が教育・文化功労部門で特別表彰を受けた。

森林科学コース

森 茂太

- (1) 研究:国内、国外の大学研究機関と境界領域研究を進めた。科研への複数応募の結果、28年度から代表1件、分担1件、研究連携1件となった。本年度も科研に複数応募する予定である。
- (2) 筑波大学が代表になり産官学連携プロを準備、応募する。
- (3) サイエンス(本誌)やネイチャー誌(SR誌)からの査読依頼などもあり労力をかけた。
- (4) 欧米からの植物個体呼吸データに関する問い合わせが多く、対応に多くの時間と労力を要した。
- (5) 教育:大学院生の確保に努めた結果、28年度より3名が進学し院生が合計5名となった。また、学部4年生3名中1名が進学予定。さらに、他大学で博士を取得した研究者を特別研究員として呼び、共同研究/教育体制を充実させたい。

菊池 俊一

- (1) 庄内キャンドルナイトの会代表および5年目のCandle Night実行委員会委員長として、庄内キャンドルナイトの会学生部によるボランティア活動を教育指導し、市民有志を統率し、鶴岡市・鶴岡市社会福祉協議会・鶴岡市教育委員会等の関連機関・団体との交渉・調整等をしながら1年間をかけて準備をした上で、東日本大震災発生以降5回目となる市民参加の「5年目のCandle Night」を2016年3月11日に鶴岡アートフォーラムで開催した。

3. 国際交流状況について

(1) 学部間国際交流協定締結大学一覧

国名	機関名	締結年月日
インドネシア	ガジャマダ大学農学部	2002年 3月11日
インドネシア	ガジャマダ大学林学部	2002年12月19日
中華人民共和国	浙江省農業科学院	2003年 8月 1日
モンゴル	モンゴル生命科学大学	2004年 5月 5日
バングラデシュ	シエレ・バングラ農業大学	2005年 8月31日
ラオス	ラオス国立大学工学部	2006年 3月 9日
スリランカ	ペラデニア大学農学部	2006年 7月 5日
中華人民共和国	中国農業大学食品科学栄養工学部	2006年11月22日
中華人民共和国	瀋陽農業大学	2006年12月26日
中華人民共和国	延辺大学農学院	2006年12月27日
バングラデシュ	ハジエ・モハマト・ダグネ科学技術大学	2007年 3月 7日
タイ	キング・モンクット工科大学トブリ校	2008年 6月24日
フィリピン	ビサヤ大学	2008年 7月24日
インドネシア	インドネシア林業省森林研究開発庁森林自然保護研究開発センター	2008年 7月25日
インドネシア	ムラワルマン大学林学部	2008年11月25日
インドネシア	ガジャマダ大学農業工学部	2010年 7月 7日
インドネシア	ランブンマンクラート大学林学部	2010年 7月 7日
中華人民共和国	南京農業大学	2011年 3月24日
インドネシア	パジャジャラン大学	2011年 3月31日
中華人民共和国	華中農業大学	2011年 9月16日
ドイツ	ライプニッツ・ハノーヴァー大学	2012年 3月26日
中華人民共和国	東北林業大学	2012年 7月27日
インドネシア	ボルネオ大学	2012年10月12日
バングラデシュ	バングラデシュ農業大学	2013年 2月 4日
タイ	カセサート大学	2014年 4月 9日
インドネシア	ジェンデラルアチマドヤニ大学数学・自然科学部	2014年 9月 5日
インドネシア	ガジャマダ大学数学・自然科学部	2014年11月11日
インドネシア	東南アジア熱帯生物学センター	2015年 3月16日
インドネシア	ボゴール農科大学	2015年 5月20日

(2) 大学間国際交流協定締結大学一覧（農学部が提案したもの）

国名	機関名	締結年月日
チリ	タルカ大学	2005年 8月26日
ベトナム	ハノイ農業大学	2008年 4月21日
大韓民国	忠北大学校農業生命環境大学	2008年 6月 5日
中華人民共和国	北京林業大学	2009年 2月25日
モンゴル	モンゴル生命科学大学	2012年 3月26日
中華人民共和国	延辺大学	2012年 3月26日
ペルー	ラモリナ国立農業大学	2012年12月 3日
ペルー	カトリカ大学	2012年12月 4日
タイ	チェンマイ大学	2013年 1月30日
インドネシア	ガジャマダ大学	2013年 2月 6日
中華人民共和国	黒竜江八一農墾大学	2014年 3月12日
ドイツ連邦共和国	ライプニッツ・ハノーヴァー大学	2014年 5月 8日
スペイン	リエイダ大学	2015年11月 5日

(3) 外国出張一覧

氏 名	渡航国名	渡航期間	渡航目的
網干 貴子	アメリカ	H27. 4. 6～H27. 9. 25	研修
俵谷 圭太郎	インドネシア	H27. 5. 6～H27. 5. 18	支援事業
渡部 徹	タイ、カンボジア	H27. 5. 14～H27. 5. 19	研究打合せ
村山 秀樹	アメリカ	H27. 5. 17～H27. 5. 25	現地調査
渡部 徹	タイ	H27. 6. 18～H27. 6. 23	研究打合せ
俵谷 圭太郎	オランダ	H27. 6. 20～H27. 6. 25	学会出席・発表
ロペス・ラリー	ドイツ、スペイン	H27. 6. 23～H27. 7. 7	研究・交流打合せ
芦谷 竜矢	スウェーデン	H27. 6. 26～H27. 7. 7	学会出席・現地調査
渡部 徹	シンガポール	H27. 6. 28～H27. 7. 1	学会参加
佐々木 由佳	ケニア	H27. 7. 12～H27. 7. 22	研究指導・研究打合せ
渡部 徹	シンガポール	H27. 7. 18～H27. 7. 22	学会参加
片平 光彦	アメリカ	H27. 7. 23～H27. 7. 30	学会出席・発表
角田 毅	ガーナ	H27. 7. 24～H27. 8. 3	現地調査
渡辺 昌規	タイ	H27. 7. 26～H27. 7. 28	研究打合せ
俵谷 圭太郎	アメリカ	H27. 8. 1～H27. 8. 10	学会出席・発表
渡部 徹	インドネシア	H27. 8. 2～H27. 8. 8	研究打合せ・現地調査

夏賀 元康	中国	H27. 8. 3～H27. 8. 7	研究交流
程 為国	中国	H27. 8. 3～H27. 8. 7	研究交流
西澤 隆	中国	H27. 8. 3～H27. 8. 7	研究打合せ
村山 秀樹	中国	H27. 8. 3～H27. 8. 7	現地調査
笹沼 恒男	中国	H27. 8. 5～H27. 8. 18	現地調査
野堀 嘉裕	モンゴル	H27. 8. 8～H27. 8. 24	サマースクール
ロペス・ラリー	モンゴル	H27. 8. 8～H27. 8. 24	サマースクール
西澤 隆	カンボジア	H27. 8. 11～H27. 8. 18	学会出席・発表
佐々木 由佳	ケニア	H27. 8. 20～H27. 8. 28	研究指導・研究打合せ
渡部 徹	ベトナム	H27. 8. 22～H27. 8. 27	研究打合せ・現地調査
渡邊 一哉	タイ	H27. 8. 24～H27. 9. 3	現地調査
塩野 義人	インドネシア	H27. 8. 29～H27. 9. 6	研究打合せ
小関 卓也	インドネシア	H27. 8. 30～H27. 9. 4	研究打合せ
藤井 秀人	ベトナム	H27. 9. 1～H27. 9. 13	現地調査
藤科 智海	中国	H27. 9. 10～H27. 9. 18	現地調査
渡部 徹	中国	H27. 9. 21～H27. 9. 25	学会参加
程 為国	スロベニア、ハンガリー	H27. 9. 27～H27. 10. 6	シンポジウム出席・学術交流
角田 毅	ガーナ	H27. 10. 1～H27. 10. 11	講演・現地調査
俵谷 圭太郎	オーストラリア	H27. 10. 4～H27. 10. 11	学会出席・発表
西澤 隆	モンゴル	H27. 10. 9～H27. 10. 14	岩手連大研究紹介等
ロペス・ラリー	モンゴル	H27. 10. 9～H27. 10. 14	岩手連大研究紹介等
夏賀 元康	ブラジル	H27. 10. 16～H27. 10. 25	研究発表
片平 光彦	ブラジル	H27. 10. 16～H27. 10. 25	研究発表
俵谷 圭太郎	クロアチア	H27. 10. 18～H27. 10. 24	学会出席・発表
渡部 徹	タイ・カンボジア	H27. 10. 24～H27. 10. 29	研究資料収集・会議出席
藤井 秀人	カンボジア	H27. 10. 25～H27. 10. 29	会議出席
ロペス・ラリー	ペルー・ボリビア・チリ	H27. 10. 27～H27. 11. 13	協定機関との打合せ
塩野 義人	インドネシア	H27. 11. 1～H27. 11. 14	学会参加・研究打合せ
藤井 秀人	マレーシア	H27. 11. 19～H27. 11. 25	情報収集・現地調査
金 成学	韓国	H27. 11. 25～H27. 11. 30	現地調査
渡邊 一哉	ベトナム	H27. 12. 1～H27. 12. 9	現地調査
俵谷 圭太郎	インドネシア	H27. 12. 5～H27. 12. 15	技術開発
西澤 隆	バングラデシュ	H27. 12. 12～H27. 12. 23	論文博士支援事業
渡部 徹	シンガポール	H27. 12. 16～H27. 12. 19	研究成果発表
芦谷 竜矢	アメリカ	H27. 12. 17～H27. 12. 22	学会出席
平 智	中国	H27. 12. 20～H27. 12. 23	シンポジウム招待講演

藤井 秀人	ベトナム	H27. 12. 20～H27. 12. 24	ワークショップ出席
塩野 義人	カメルーン	H28. 1. 2～H28. 1. 12	博士論文指導
西澤 隆	タイ	H28. 1. 3～H28. 1. 14	研究指導
佐々木 由佳	ケニア	H28. 1. 4～H28. 1. 14	研究指導、研究打合せ
渡部 徹	タイ	H28. 1. 8～H28. 1. 11	研究打合せ
程 為国	中国	H28. 1. 20～H28. 1. 30	研究交流
菊池 俊一	インドネシア	H28. 2. 20～H28. 2. 28	現地調査
金 成学	韓国	H28. 2. 23～H28. 2. 27	現地調査
佐々木 由佳	ケニア	H28. 3. 4～H28. 3. 11	研究指導、研究打合せ
角田 毅	ベトナム	H28. 3. 6～H28. 3. 11	現地調査
渡部 徹	インドネシア	H28. 3. 10～H28. 3. 13	成果発表、研究打合せ
金 成学	ベトナム	H28. 3. 15～H28. 3. 20	現地調査
渡部 徹	タイ	H28. 3. 19～H28. 3. 24	研究打合せ、現地調査
岩鼻 通明	韓国	H28. 3. 30～H28. 4. 5	調査研究

(4) その他の国際交流の実施

○国際交流協定締結校との国際交流

○インドネシア ガジャマダ大学

- ・大学間交流協定に基づく学生の受入

芦谷竜矢教授、渡部徹教授、村山秀樹教授、西澤隆教授、俵谷圭太郎教授、森茂太教授、佐藤智准教授、塩野義人教授、程為国准教授、渡辺昌規准教授

○インドネシア パジャジャラン大学

- ・学部間交流協定に基づく学生の受入

塩野義人教授 (27. 9. 9～27. 11. 30)

○タイ チェンマイ大学

- ・大学間交流協定に基づく研究員の受入

西澤隆教授 (28. 3. 1～28. 4. 30)

渡辺昌規准教授 (27. 9. 4～27. 11. 30)

○タイ ラジャマンガラ工科大学

- ・大学間交流協定に基づく研究員の受入

西澤隆教授 (27. 7. 1～27. 8. 31)

○中国 黒竜江八一農墾大学

- ・大学間交流協定に基づく学生の受入 (27.4~28.7)
堀口健一教授、松山裕城准教授、片平光彦准教授

○バングラデシュ シエレ・バングラ農業大学

- ・学部間交流協定に基づく教員の受入
西澤隆教授 (27.9.7~27.9.17、28.1.18~28.1.27)

○モンゴル モンゴル生命科学大学

- ・サマースクールの実施 (27.8.8~27.8.23)

4. 社会活動・地域貢献

(1) 地域連携推進室に寄せられた事項一覧

番号	類別	件名	研究者
1	相談	生薬に関すること	小笠原宣好
2	相談	万願寺とうがらしについて	笹沼 恒男
3	相談	レトルト米飯の堆肥化ならびにその他有効利用方法について	渡辺 昌規
4	相談	特殊環境下における桜桃栽培・収穫への影響について	池田 和生
5	講演	微生物コントロールについて	渡部 徹
6	講演	酒田市立東部中学校第一学年 総合学習	江頭 宏昌
7	その他	寒河江高校大学訪問	学部長、小沢学科長 村山副学部長
8	その他	楯岡高校大学訪問	学部長、林田副学部長 佐々木由佳、藤井弘志
9	講演	寒河江市特別講座	平 智、村山哲也 保木本利行
10	その他	農業大学校研究室訪問	平 智、村山哲也 笹沼恒男、村山秀樹
11	その他	イタリア食科学大学食文化交流事業	学部長
12	その他	鶴岡北高校研究室訪問	豊増知伸
13	その他	豊浦中学校大学訪問	柳原敦、加来伸夫

(2) 平成27年度 社会・地域等の要請により派遣した職員一覧

氏名	職名	依頼元
夏賀 元康	学校評議員及び学校関係者評価委員	山形県立鶴岡南高等学校
	運営協議会委員	鶴岡工業高等専門学校
	理事	公益財団法人マエタテクノロジーリサーチファ ンド
	庄内水田農業推進機構会長	鶴岡市
	評議員	公益財団法人庄内地域産業振興センター
	山形県立鶴岡南高等学校スーパーサ イエンスハイスクール運営指導委員 会委員	山形県教育庁高校教育課
	顧問	公益財団法人山形大学産業研究所
	鶴岡市総合戦略策定推進会議委員	鶴岡市
	鶴岡市総合計画審議会委員	鶴岡市
	鶴岡市農業発展奨励賞表彰審査委員 会委員	鶴岡市
西澤 隆	鶴南ゼミ（総合的な学習の時間での 探求活動）講師	山形県立鶴岡南高等学校
藤井 弘志	庄内水田農業推進機構委員	鶴岡市
	やまがた6次産業ビジネス・スкуль 講師	山形県農林水産部
平 智	鶴岡総合研究所所長	鶴岡市
	庄内自然博物館構想推進協議会委員	鶴岡市
	庄内自然博物館構想推進協議会専門 委員及び運営委員	鶴岡市
	やまがた6次産業ビジネス・スкуль 講師	山形県農林水産部
	鶴岡市総合計画審議会委員	鶴岡市
浦川 修司	平成27年度強害雑草対策実証調査事 業における強害雑草対策実証調査推 進委員	一般社団法人日本草地畜産種子協会
	農林水産業・食品産業科学技術研究 推進事業(実用技術開発ステー ジ)25073C『画期的WC S用稲「た ちすずか」の特性を活かした微細断 収穫調製・給与体系の開発実証』に 係る外部アドバイザー	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究 機構近畿中国四国農業研究センター
	農業機械等緊急開発事業推進プロ ジェクトチーム（高速高精度汎用播 種機）委員	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究 機構生物系特定産業技術研究支援センター
	稲麦二毛作普及促進・農薬安全性調 査事業に係る推進委員	一般社団法人日本草地畜産種子協会
	農林水産業・食品産業科学技術研究 推進事業研究課題評価分科会委員	農林水産省農林水産技術会議事務局
角田 憲一	庄内水田農業推進機構委員	鶴岡市
佐々木 由佳	庄内水田農業推進機構委員	鶴岡市
	山形県科学技術会議委員	山形県
岩鼻 通明	大江町文化的景観保存整備検討委員 会委員	大江町教育委員会
	果樹王国ひがしね6次産業化推進協 議会委員兼アドバイザー	東根市
	秋田県立大学外部評価委員（生物環 境科学分野）	秋田県立大学

小沢 互	東北農政局事前評価技術検討会委員	東北農政局
	平成27年度専門家派遣事業に係る専門家	山形県農業会議
	庄内水田農業推進機構委員	鶴岡市
	山形市農政審議会委員	山形市
	やまがた6次産業ビジネス・スクール講師	山形県農林水産部
	山形県農業・農村政策審議会中山間地域振興検討部会委員	山形県農林水産部
	「第6次山形市農業振興基本計画」策定に係る監修	山形市
角田 毅	平成27年度専門家派遣事業に係る専門家	山形県農業会議
	やまがた6次産業ビジネス・スクール講師	山形県農林水産部
	農林水産業創意工夫プロジェクト支援事業に係るプロジェクト成果評価審査会審査委員	山形県最上総合支庁
	国営土地改良事業事後評価に係る技術検討会委員	農林水産省東北農政局
藤科 智海	やまがた6次産業ビジネス・スクール講師	山形県農林水産部
	講師	山形県立農業大学校
渡辺 理絵	鶴岡市都市再興基本計画策定市民懇話会委員	鶴岡市
	山形県環境審議会委員	山形県
	山形県総合政策審議会特別委員	山形県県土整備部
	松江市史専門部会専門委員	松江市歴史まちづくり部
	米沢市文化財保護審議会委員	米沢市教育委員会
	「未来に伝える山形の宝」登録審査委員会委員	山形県教育委員会
	山形県都市計画審議会委員	山形県
	山形県景観審議会委員	山形県
「未来に伝える山形の宝」登録審査委員会委員	山形県教育委員会	
小関 卓也	鶴南ゼミ（総合的な学習の時間での探求活動）講師	山形県立鶴岡南高等学校
	平成27年度農林水産業創意工夫プロジェクト支援事業プロジェクト成果評価審査会審査委員	山形県村山総合支庁
木村 直子	鶴南ゼミ（総合的な学習の時間での探求活動）講師	山形県立鶴岡南高等学校
	山形県農林水産技術会議委員	山形県
加来 伸夫	鶴南ゼミ（総合的な学習の時間での探求活動）講師	山形県立鶴岡南高等学校
渡辺 昌規	やまがた6次産業ビジネス・スクール講師	山形県農林水産部
俵谷 圭太郎	鶴岡市環境審議会委員	鶴岡市
	講師	文部科学省大臣官房国際課
村山 秀樹	鶴南ゼミ（総合的な学習の時間での探求活動）講師	山形県立鶴岡南高等学校
	山形県「ラ・フランス」振興協議会アドバイザー	山形県農林水産部
	「庄内さくらんぼ生産振興協議会」アドバイザー	山形県庄内総合支庁産業経済部農業技術普及課
	やまがた6次産業ビジネス・スクール講師	山形県農林水産部
江頭 宏昌	焼畑温海かぶブランド力向上対策協議会オブザーバー	鶴岡市
	「うちなー島ヤサイ商品化支援技術開発事業（沖縄振興特別推進交付金）」推進会議外部アドバイザー委員	沖縄県農業研究センター
	山形県農林水産技術会議委員	山形県

	山形おきたま伝統野菜振興協議会アドバイザー (仮称) 第四期新農業生産振興プラン策定検討委員会アドバイザー	山形おきたま伝統野菜振興協議会 いわき市
笹沼 恒男	遺伝子組換え実験安全委員会 庄内バイオ研修センター育種専門指導員	山形県農業総合研究センター園芸試験場 酒田市
及川 彰	高校生バイオサミットin鶴岡 表彰審査員 環境資源科学研究センター技術基盤部門質量分析・顕微鏡解析ユニット客員研究員 環境資源科学研究センター統合メタボロミクス研究グループ客員研究員 フードセンシング活用アドバイザー	高校生バイオサミット実行委員会(慶応義塾大学先端生命科学研究所) 国立研究開発法人理化学研究所 国立研究開発法人理化学研究所 山形県
野堀 嘉裕	山形県環境審議会委員 国指定史跡松ヶ岡開墾場保存・活用計画策定委員会委員 総合評価落札方式による入札を行う場合に意見を聴取する学識経験者 山形県立農業大学校林業関係学科設置に関する検討会委員 鶴岡市文化財保護審議会委員 森林計画の策定等に係る検討会委員 名勝金峰山保存活用計画策定委員 「里の名水・やまがた百選」選定委員会委員 東北森林管理局保護林等設定管理委員会委員	山形県 鶴岡市 山形県農林水産部 山形県農林水産部 鶴岡市教育委員会 東北森林管理局 鶴岡市教育委員会 山形県 農林水産省東北森林管理局
森 茂太	山形市森林整備推進協議会委員	山形市
林田 光祐	庄内自然博物館構想推進協議会委員 庄内自然博物館構想推進協議会専門委員及び運営委員 山形県環境審議会委員 山形県森づくり支援人材育成研修講師 「海岸防災林グランドデザイン調査」に関する検討委員会委員 実行委員	鶴岡市 鶴岡市 山形県 山形県森林研究研修センター 国土防災技術株式会社 出羽庄内地域文化遺産による地域活性化実行委員会
柳原 敦	最上小国川流域環境保全協議会委員 副理事長	山形県最上総合支庁 山形大学生協同組合
菊池 俊一	監事 やまがた緑環境税事業評価・検証プロジェクトチーム委員 やまがた緑環境税事業評価・検証ワーキンググループ(森林整備部門)委員 山形県農林水産技術会議委員 朝日山地森林生態系保護地域管理委員会委員長 事業評価技術検討会委員 月山ダム水源地域ビジョン推進会委員長 公共事業評価監視委員会委員 ナラ枯れ被害拡大防止検討委員会座長	環境つるおか推進協議会 山形県環境エネルギー部 山形県農林水産部林業振興課 山形県 東北森林管理局 東北森林管理局 国土交通省東北地域整備局月山ダム事務所 山形県 山形県農林水産部
林 雅秀	客員研究員 鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会委員	国立研究開発法人森林総合研究所 鶴岡市

早尻 正宏	「平成27年度『緑の雇用』現場技能者育成対策事業に係る調査事業」検討委員会委員	一般財団法人林業経済研究所
	平成27年度福島県の森林文化に係る調査検討委員会委員	特定非営利活動法人超学際的研究機構
江成 広斗	特別天然記念物カモシカ朝日・飯豊山系保護地域及び南奥羽山系保護地域通常調査指導委員	山形県教育委員会
	特定鳥獣に係る保護管理施策推進のための人材育成及び対応等調査・検討業務に関する検討会及びニホンザルの指定管理鳥獣指定検討委員及び集団ヒアリング委員	一般財団法人自然環境研究センター
	山形県特定鳥獣保護管理検討委員会委員	山形県環境エネルギー部
ロペス ラリー	共同利用協議会委員	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター
藤井 秀人	環境情報部会部会員（座長）	西郷北部地区経営体育成基盤整備事業推進委員会
	平成27年度海外技術協力促進検討事業（ライフサイクルコスト低減型整備検討調査（基礎調査））検討委員会委員	一般財団法人日本水土総合研究所
	平成27年度東北農政局管内国営事業総合技術支援合同委員会委員	一般財団法人日本水土総合研究所
奥山 武彦	客員研究員	一般財団法人日本水土総合研究所
	平成27年度庄内あさひ地区地すべり対策技術検討会委員長	一般財団法人日本水土総合研究所
	平成27年度地すべり調査意見聴取会委員	農林水産省農村振興局農村政策部農村環境課
安中 武幸	総合評価落札方式による入札を行う場合に意見を聴取する学識経験者農業用水(畑)計画基準検討意見聴取会委員	山形県農林水産部
		一般財団法人日本水土総合研究所
渡部 徹	鶴南ゼミ（総合的な学習の時間での探求活動）講師	山形県立鶴岡南高等学校
渡邊 一哉	第19期山形県内水面漁場管理委員会委員	山形県農林水産部
	総合地球環境学研究所共同研究員	大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所
	「山形ブロック総合評価委員会」委員	国土交通省東北地方整備局
片桐 茂則	理事	山形大学生生活協同組合

(3) 平成27年度 他大学等の非常勤講師として派遣した職員一覧

氏名	職名	依頼元
藤井 弘志	非常勤講師	新潟大学
岩鼻 通明	非常勤講師	山形県立米沢女子短期大学
小沢 互	非常勤講師	東北大学農学部
	非常勤講師（面接授業担当）	放送大学
角田 毅	非常勤講師	東北公益文科大学
加来 伸夫	非常勤講師	鶴岡市立荘内看護専門学校
俵谷 圭太郎	非常勤講師	東北公益文科大学
江頭 宏昌	非常勤講師	筑波大学
及川 彰	非常勤講師	慶應義塾大学
藤井 秀人	非常勤講師	京都大学
梶原 晶彦	非常勤講師	鶴岡市立荘内看護専門学校

(4) 外部資金等の受け入れ状況

平成27年度科学研究費補助金交付決定一覧

研究種目	氏名	直接経費	間接経費	合計額	課題名
基盤研究(B)海外	藤井 秀人	2,400,000	720,000	3,120,000	モデル川高洪水稲作地域における気候変動に向けたダイクシステムの再構築
基盤研究(B)海外	渡部 徹	5,400,000	1,620,000	7,020,000	遺伝子解析にもとづく熱帯アジアの下廃水処理施設における薬剤耐性菌の挙動解明
基盤研究(B)海外	俵谷 圭太郎	3,500,000	1,050,000	4,550,000	インドネシアの熱帯雨林からのエンドファイトの分離と鉱山跡地の修復への利用
基盤研究(B)一般	渡部 徹	3,800,000	1,140,000	4,940,000	水中の薬剤耐性菌による健康影響評価手法の開発と水再利用へのその適用
基盤研究(B)一般	我妻 忠雄	5,700,000	1,710,000	7,410,000	膜脂質層の分子的改変による、イオンストレスマルチ体制植物の創生
基盤研究(B)特設分野	渡部 徹	4,700,000	1,410,000	6,110,000	持続可能な養殖漁業を支える森から海への有機物と微量必須金額の輸送メカニズム
基盤研究(C)	渡邊 一哉	700,000	210,000	910,000	沿岸生態資源と人間の相互依存の動態解明
基盤研究(C)	林田 光祐	1,000,000	300,000	1,300,000	震災後に造成される海岸林の生物多様性を考慮した保育技術の開発
基盤研究(C)	加来 伸夫	1,200,000	360,000	1,560,000	水田微生物燃料電池の土壌生態系への影響解析と電極からの新規有用微生物の分離・利用
基盤研究(C)	安田 弘法	800,000	240,000	1,040,000	温暖化が自然共生型水田淡水生物の相互作用とその多様性及びイネの生育に及ぼす影響
基盤研究(C)	藤井 弘志	1,300,000	390,000	1,690,000	新規開発された高機能デジタルカメラによる作物診断システムの開発
基盤研究(C)	小関 卓也	1,300,000	390,000	1,690,000	ポリフェノールの高度利用のための酵素の機能解析と開発
基盤研究(C)	小沢 互	1,000,000	300,000	1,300,000	消費者の能動的行動が生産者に与える影響
基盤研究(C)	角田 毅	1,100,000	330,000	1,430,000	雇用型大規模法人経営における人材定着マネジメントに関する研究
基盤研究(C)	片平 光彦	1,500,000	450,000	1,950,000	施肥溝切り機を用いた新型作業技術が長ネギ栽培の作業性と生育に与える影響の解析
基盤研究(C)	服部 聡	700,000	210,000	910,000	庄内沿岸極浅海域に生息する嫌氣的メタン酸化古細菌の多様性・活性評価および培養化
基盤研究(C)	森 静香	800,000	240,000	1,040,000	環境保全・維持と調和したケイ酸資源「ヨシ」の水稲栽培への利用システムの確立
基盤研究(C)	西澤 隆	1,100,000	330,000	1,430,000	トマトの生理障害「つやなし果」の発生機構の解明と選果方法の開発に関する研究
基盤研究(C)	平 智	2,300,000	690,000	2,990,000	アケビの後発型自家不和合成機構の解明と果実生産に及ぼす影響
基盤研究(C)	俵谷 圭太郎	1,300,000	390,000	1,690,000	アーバスキュラー菌根菌による有機態リン酸の獲得機構の解明
基盤研究(C)	豊増 知伸	1,300,000	390,000	1,690,000	イネのモミラクトン排出輸送体の探索と排出活性調節機構に関する研究
基盤研究(C)	芦谷 竜矢	1,400,000	420,000	1,820,000	樹木成分の自動酸化を利用した生理活性物質の合成
基盤研究(C)	花山 奨	2,600,000	780,000	3,380,000	動物プランクトンおよび水生生物を利用した水田からのリン回収
基盤研究(C)	渡辺 昌規	2,200,000	660,000	2,860,000	非加熱・無殺菌米副産物を単一原料とした環境調和型光学活性乳酸生産法の開発
基盤研究(C)	長谷 修	2,300,000	690,000	2,990,000	病害誘導抵抗性を活性化する根圏生息性卵菌の評価と生物防除への応用
挑戦萌芽研究	永井 毅	723,900	0	723,900	高品質な米粉パン製造に最適な高ストレス耐性野生酵母の獲得と製パン技術開発
挑戦萌芽研究	松本 大生	2,600,000	780,000	3,380,000	自家不和合性を利用した、サクラ属果樹における花粉媒介形質転換技術の開発
挑戦萌芽研究	森 茂太	1,200,000	360,000	1,560,000	根を含む樹木の光合成・呼吸の正確な多個体実測によるシステム生理学分野の開拓
若手研究(A)	江成 広斗	5,200,000	1,560,000	6,760,000	多雪地における大型哺乳類の分布回復が生態系に及ぼす影響の評価とリスク低減策の提示
若手研究(B)	池田 和生	800,000	240,000	1,040,000	セイヨウナンジ枝変わり赤着色変異機構の解明と育種の利用
若手研究(B)	早尻 正宏	500,000	150,000	650,000	「森林管理の地方自治」の実現に向けた政府間関係の再構築に関する実証的研究
若手研究(B)	渡辺 理絵	1,800,000	540,000	2,340,000	近世日本の産物データを用いた動植物の分布域に関する地理情報の基礎的研究
合計		64,223,900	19,050,000	83,273,900	

分担金一覧(平成27年度)

研究種目	氏名	分担金の配分額	直接経費	間接経費	研究課題名
基盤研究(B)	渡部 徹	130,000	100,000	30,000	フィリピンにおけるデング熱媒介蚊の集団遺伝学的研究:飛翔パターンと感染経路
基盤研究(C)	渡辺 理絵	260,000	200,000	60,000	長久保赤水の地図製作プロセスに関する研究
基盤研究(A)	笹沼 恒男	195,000	150,000	45,000	東アジアに渡来・起源した作物資源の遺伝的評価と開発的研究(第2次)
基盤研究(B)	池田 和生	390,000	300,000	90,000	ゲノミクス・トランスクリプトミクスのアプローチによる異形花型不和合性の機構解明
基盤研究(C)	我妻 忠雄	65,000	50,000	15,000	中国東北部のソーダ質土壌の性質と植物の耐性
挑戦的萌芽研究	江成 広斗	299,000	230,000	69,000	農山村地域の空洞化回避を主目的に据えた鳥獣害の動向予測と実効的管理体制の提言
基盤研究(B)	村山 秀樹	520,000	400,000	120,000	大規模ゲノム情報と自殖F2集団を利用したナン育種の効率化と新規優良品種の育成
基盤研究(B)	村山 秀樹	520,000	400,000	120,000	ナン属植物の伝播にともなう果実形質および病原菌の共進化過程の解析
挑戦的萌芽研究	及川 彰	260,000	200,000	60,000	葉と果実のクロストーク: Tree Factorが支配する果実追熟性の機構解明
基盤研究(B)	及川 彰	520,000	400,000	120,000	ナン属植物の伝播にともなう果実形質および病原菌の共進化過程の解析
基盤研究(C)	野堀 嘉裕	195,000	150,000	45,000	気候温暖化が積雪減少を介してブナとミズナラの成長に及ぼす影響の解明
基盤研究(B)	及川 彰	260,000	200,000	60,000	イネにおけるセロトニン蓄積の制御機構の解明: アブラムシによる抵抗性の制御と利用
基盤研究(C)	林 雅秀	260,000	200,000	60,000	林業経営の信託化を実現させる諸条件の解明: 日本の特異性と一般性
基盤研究(S)	及川 彰	5,200,000	4,000,000	1,200,000	摂食シグナル胆汁酸の分子栄養学的機能解明と食品成分による接触応答制御
基盤研究(B)	程 為国	1,300,000	1,000,000	300,000	有機無農薬水稲栽培年数の経過に伴って土壌・水稲・雑草・動物はどう変化するか?
基盤研究(A)	渡部 徹	4,329,000	3,330,000	999,000	気候・社会・生態系の変動に対応した感染症リスク評価モデルの構築
基盤研究(A)	俵谷 圭太郎	585,000	450,000	135,000	土壌中の有機物に含まれる放射性セシウムの挙動に及ぼす生物的要因の解明
基盤研究(A)	渡辺 理絵	390,000	300,000	90,000	GISを用いた近世城下絵図の解析と時空間データベースの構築
基盤研究(B)	ロペス・ラリー	845,000	650,000	195,000	樹木年輪の幅・酸素・炭素および窒素安定同位体比を用いた生態系総合環境変動解析
基盤研究(C)	家串 哲生	260,000	200,000	60,000	青果物の計量販売への転換による物流改革と効果に関する実証的研究
新領域提案型	及川 彰	650,000	500,000	150,000	植物個体発生を支える代謝ネットワークの解明
合計		17,433,000	13,410,000	4,023,000	

平成27年度 奨学寄附金・受託研究・共同研究の受け入れ状況

	件 数	金 額
奨学寄附金	37	16,100,000 円
受託研究	21	61,205,701 円
共同研究	11	10,250,000 円

(5) 公開講座等大学開放実施状況

1 市民交流農園

- 4月10日(金) 開園式
- 7月30日(木) 夏のミーティング
- 10月28日(水) 秋のミーティング

2 公開講座

「食料、健康、環境問題を支える農学バイオサイエンスの世界」

第1回目

- 5月23日(土) 開講式(ガイダンス)
「微生物を使って発電?! ～微生物燃料電池の原理と応用～」
「洗米排水や米糠の再資源化利用と環境浄化」

第2回目

- 6月6日(土) 「「ものづくり」は「ひとづくり」」
「動物卵子の研究と私達の暮らし～えっ、どんな関係?!」

第3回目

- 6月20日(土) 「麹菌の新たな利用技術の開発」
「新規生理活性物質の探索－研究室での試み」

第4回目

- 7月4日(土) 「植物の成長・分化の解明とその利用に関する最近の話題」
「植物の有用二次代謝物質は植物体の中でどのようにして作られる？」
修了式(修了証書授与)

3 農学部オープンキャンパス

- 8月2日(日) 会場：山形大学農学部

4 女性研究者裾野拡大セミナー2015 in 農学部 会場：山形大学農学部

- 8月2日(日) 「農学部女子！研究者になる！！～それってどんな？何するの？～」

5 夏期セミナー

- 8月3日(月) 会場：山形大学農学部
 - 食料系コース
「鶴岡城下町探検」
 - 生命系コース
「香り」の正体-有機分子の構造を見てみよう-
 - 環境系コース
「山里の脅威 大規模地すべりと地下100メートルで戦う」

6 ひらめき☆ときめきサイエンス

「生物の多様性を考える」

- 9月5日(土) 会場：山形大学農学部
 - 生物の多様性を考える(講義)

- 土壌微生物を観察するー菌根菌の役割（実験）
- 植物を分析するーポリフェノールの役割（実験）
- 昆虫を観察するー植食者と捕食者との関係（実験）

- 7 山形大学農場フェスティバル
10月3日（土）
会場：山形大学農学部附属やまがたフィールド科学センター高坂農場

- 8 農学紹介講座「農学の夕べ」 会場：山形大学農学部
 - 第1回目
10月1日（木）
「稲（お米）と家畜の関わり」
 - 第2回目
10月15日（木）「化学の目で見る植物と昆虫の相互作用」
 - 第3回目
10月29日（木）「ついに来た！10年ぶりのブナ大豊作ーどう予測したのか、どのように楽しむのか、その時クマは？ー」
 - 第4回目
11月12日（木）「すべての陸上植物に共通の地上/根のエネルギーバランス」
 - 第5回目
11月26日（木）「どこで山菜取りをしますか？：山林の権利の歴史」

- 9 研究シーズ説明会・ビジネスマッチ
10月27日（火）会場：山形大学農学部

- 10 日本酒シンポジウム 「Oh!洒落に日本酒 de Night! 3時限目」
11月13日（金）会場：山形大学農学部

- 11 山形大学農学部・県立農業大学校・県内農業高校連携シンポジウム
第6回「農業・食料・環境を考える山形県民シンポジウム～私たちの挑戦～」
11月17日（火）会場：山形県高度技術研究開発センター

- 12 山形大学農学部・慶應義塾大学先端生命科学研究所・東北公益文科大学・鶴岡工業高等専門学校との連携事業
知の拠点庄内第5回シンポジウム 「庄内から未来を語るー若者からの提言ー」
12月13日（日）会場：鶴岡市先端研究産業支援センター・レクチャーホール
○「小さな島で見る大きな夢」

- 13 山形大学農学部・東北森林管理局連携シンポジウム
「Wood Job で Good Job!～これから森で働くみなさんへ～」
1月29日（金） 会場：山形大学農学部
○パネルディスカッション

- 14 山形大学農学部・鶴岡市連携事業「庄内水田フォーラム2016」
2月10日（水） 会場：グランド・エル・サン

- 卒業論文修士論文発表会
- 基調講演「農業の持続可能な発展を目指して：農政の新たな動きを念頭に」
- パネルディスカッション「庄内地域水田農業の持続的な発展を目指して」

15 5年目のキャンドルナイト

3月11日（金）会場：鶴岡アートフォーラム

16 附属やまがたフィールド科学センター実施

（1）鶴岡市との共催事業 農業体験「わんぱく農業クラブ」の実施

7月4日（土）～ 11月14日（土）

（2）演習林開放行事「森の学校」の実施

7月19日（土）、10月18日（土）、2月1日（土）

5. フィールド科学センターの概況等

エコ農業部門

平成27年度課題の総括

1. エコ農業部門の組織機構整備を行う。
 - ・教育研究，技術，業務の3部門体制による組織機構の整備を行うように努力した。
 - ・学生等外部委託における農場運営の整備強化を図った。
2. 生産現場における教育研究活動を強化する。
 - ・フィールドサイエンス実験実習Ⅰ，Ⅱ及び野外科学，安全農産物生産学実験を安全農産物生産学コース教員と共同で行った。
 - ・農場を利用した研究課題は26課題であり，利用教職員は延べ12名であった。
 - ・農場を利用した研究業績は，学会誌等は18編，口頭発表は16編であった。
 - ・技術検討会議，農場開放への取り組みについてはほぼ計画とおり実施した。
3. 山形在来作物系統保存センターを充実させる。
 - ・展示圃場及び展示室を充実させた。
4. 農場予算について
 - ・技術職員の研修費等について，必要な経費は支出するようにした。
法人化後の労基法に定める免許・資格及び作業従事に係る研修等が増加していることに鑑み，学部共通及び農場運営経費より支出し，技能・技術の充実を図った。また，各業務上有益と判断される研修等についても予算化し，同様の充実を図った。
他機関（大学他）に派遣し，情報や技術交換，施設・装置の共同利用による商品開発等は非常に有益であり，今後も継続して予算措置を図りたい。
5. 農場生産物販売のあり方を検討する。
 - ・各生産物の販売目標と課題については，概ね明確にして販売を行った。
配置人員や生産計画について大きな変更は不可能なため，前年の収穫量・販売額を目標値として設定していたが，前年度と比較し9.5%程の増収となった。農産物の収穫量が全般的に増加したこと，子牛の出生数が増加したことが主な要因である。
 - ・6月下旬～12月上旬の毎週木曜日に「農場市」を開場し，好評を得ることができた。
 - ・地域イベントに積極的に参加し，農産物の販売及びPRを行った。
6. 生産基盤の点検・強化
 - ・水田の基盤整備（田床改良）は，石川准教授の協力を得て，「環境保全型汎用水田」の施工を30aの水田2枚で完了し，新たな2枚で着工した。
 - ・黒毛和種の繁殖成績並びに繁殖技術の向上を目指した。
7. その他
 - ・朝陽第6小学校及び渡前小学校へヤギを貸し出し，飼育支援を行った。
 - ・国際協力機構（JICA）の短期研修（平成27年8月17日～9月25日）の研修プログラムの一部として研修生16名及び研修監理員2名が8月28日と9月16日に農場での研修を行った。

I. 教 育

1. 実習教育等

(1) カリキュラム

農場で担当した授業科目は、以下のとおりである。

表 1-1 農場関係授業カリキュラム

	授 業 科 目	必修・選択	単位数	開講学年・学期	
専門基礎科目	基礎農学セミナー	必修	2	1年・前期	
	安全農産物生産学概論	必修	2	1年・後期	
基盤教育科目	やまがたフィールド科学	選択	2	全学年・前期	
学科共通科目	食料生命環境学実験実習	必修	2	2年・前期	
	環境保全型エコ農業論	必修・選択	2	2年・後期	
コース必修科目	安全農畜産物生産論	必修・選択	2	2年(3年)・前期	
	畜産学	必修・選択	2	2年・前期	
	野外科学	必修	1	2年・前期	
	フィールドサイエンス実験実習Ⅰ-A	必修	2	2年・前期	
	フィールドサイエンス実験実習Ⅰ-B	必修	2	2年・前期	
	フィールドサイエンス実験実習Ⅱ	必修	2	3年・前期	
	安全農産物生産学研究調査演習	必修	2	3年・前期	
	安全農産物生産学研究準備演習	必修	2	3年・後期	
	安全農産物生産学コース実験実習	必修	2	3年・前期	
	コース選択科目	果樹園芸学	選択	2	3年・前期
		安全農産物生産学特講-I	選択	2	3年・後期

(2) 基礎農学セミナー

履修者: 155名

農学部1年次学生が鶴岡キャンパス、農場、演習林での体験を通して各コースの概要を理解すると共に鶴岡キャンパスでの生活をイメージできるようにすることを目的に2泊3日の日程で実施され、農場では9月29日に稲刈り体験を行った。

(3) 安全農産物生産学概論

履修者: 155名

食料生命環境学科・専門基礎科目として、安全・安心な農畜産物の生産について総合的な視点から考えさせることを目的に学部教員10名とともにいった。

(4) やまがたフィールド科学

履修者: 7名(農学部1名他学部6名)

全学部、全学年を対象にした基盤教育教養科目の講義として9月2日～4日までの2泊3日で実施した。山形県金峰少年自然の家に宿泊し、農場で水稻の生育過程の学習、

水稻収量調査，稲刈り体験，水田昆虫の観察，庄内柿の樹上脱渋，鶏の解体を行った。

(5) 食料生命環境学実験実習

履修者：157名

農学が対応しなければならない幅広い内容を総合的に理解する目的で，食料系・生命系・環境系に分かれて実施した。食料系は15回を教員16名で行った。農場では食料系の実習：田植え，リンゴ管理，牧草収穫，植物病害調査，鶏解体をそれぞれ2回ずつ実施した。

(6) 環境保全型エコ農業論

履修者：65名

循環型農業の1事例として堆肥の生産・利用技術を軸にして，飼料作物の栽培と給与，園芸作物への堆肥利用法，水稻への施用技術および食品残さの飼料化等について，学部内で後期15回の講義を農場所属教員3名で行った。

(7) 安全農畜産物生産論

履修者：68名

安全な農畜産物を生産する視点から，植物病理学，作物学，畜産学関連の知識習得を目指した安全な農畜産物を生産するのに必要な考え方と最新情報の理解を深める。学部教員2名と分担して行った。

(8) 畜産学

履修者：80名

家畜の生産から畜産物の利用までの基礎理論を習得することを目的として，畜産学の基礎知識，家畜家禽の定義，分類，起源，家畜の育種，繁殖，飼養管理，草地，衛生，利用等を総合的に学習し，今日の畜産業が直面する飼料問題，畜産物の安全性などの課題を理解させる。学部内で前期15回の講義を農場所属教員が行った。

(9) 野外科学

履修者：44名

安全農産物生産学コースのフィールドサイエンスⅠA，ⅠBと関連付けて，野外における調査及び農作業の基本的な知識を概説した。

(10) フィールドサイエンス実験実習ⅠA，ⅠB

履修者：44名

各農業分野のフィールドを通じた体験的な実験実習から，安全な農畜産物の安定生産に取り組んでいくための総合的，多面的な考え方や技術を習得することを目的とし，安全農産物生産学コース教員全員で行った。

(11) フィールドサイエンス実験実習Ⅱ

履修者：45名

各農業分野のフィールドを通じた体験的な実験実習から，安全な農畜産物の安定生産に取り組んでいくための総合的，多面的な考え方や技術を習得することを目的とし，安全農産物生産学コース教員全員で行った。

(12) 果樹園芸学

履修者：17名

旧生物生産学科開講科目として，良品実果の安定生産に必要な理論とそれを実践する技術を理解することを目的とし，学部教員と2名で行った。

2. 農場教員による学生指導

- (1) 卒業論文学生3年生4名、4年生3名を農場教員が指導を行った。
- (2) 博士コース院生0名、修士コース院生2名を協力・指導を行った。

3. 山形在来作物系統保存センターの充実

キュウリ7系統、カボチャ1系統、マクワウリ1系統、ナス1系統、エダマメ40系統、サトイモ10系統、アズキ1系統、ベニバナ1系統を展示栽培した。
また、農場教員が指導する学生の修士論文のテーマとしてヤマブドウ在来系統83樹を実験材料として提供した。

4. 農場開放

(1) 収穫体験「大学農場に行こう」

鶴岡市およびその近郊の保育園、幼稚園を対象に春のお花見から、リンゴ、クリの収穫体験、動物見学、農場内の散策・昆虫採集などに農場施設を開放した。案内・説明等は学生アルバイトを併用して行った。

実施時期：平成27年9月7日～10月27日

参加人員：34団体 1,545名

(2) 農業体験「わんぱく農業クラブ」

庄内農業水田推進機構の事業の一つとして、学部教員、農場教職員、鶴岡市の三者共催で平成11年度から実施してきたものである。農場の水田を利用して田植えから稲刈り、わら細工の加工まで総合的な学習を行った。

実施時期：平成27年5月16日～11月14日

参加人員：小学3～6年生親子25組

実施内容： 5月 田植え、枝豆定植

6月 農業用水の学習、牛舎見学、ヤギの乳搾り、昆虫採集

7月 稲・枝豆の生育調査、田んぼの生きもの探し、野菜の学習

8月 稲の開花観察、枝豆収穫

9月 稲刈り・杭がけ体験、バケツ稲コンクール

10月 脱穀から精米までの過程、食育学習、果樹の学習

11月 わら細工体験、もちつき体験、収穫感謝祭

(3) 「山形大学農場フェスティバル」

昨年度に引き続き、農場産米のPRを目的として、新米を食しながら若手音楽グループの野外演奏や各種催しを楽しむイベントを開催した。開催にあたり庄内2市3町からも米の提供や出店があり、地域との連携も深めることができた。当日の天候不順にもかかわらず、750名程の来場者があった。

実施日：平成27年10月3日（土）

集客人数：約750名

(4) 小・中学校の総合学習、高校のインターンシップ等に対応する。

産業現場等における実習

山形県立鶴岡高等養護学校

実施日時：平成27年6月5日（金）

参加者：2年生14名、教職員7名

概要：同校が体験学習の一環として毎年企画しているものであり、高坂農場には初めての来訪となった。

農場技術職員から、農場の概要について説明を受けた後、同校出身の職員との座談会を行った。

II. 研究

1. 研究課題

農場及び学部教職員の農場を利用した研究課題は、表Ⅱ－1のとおりである。

農場教職員が科学研究費等を申請した課題は、表Ⅱ－2のとおりである。

表Ⅱ－1. 農場および学部教職員の研究課題

No.	担当者	研究課題	利用施設等	利用期間
(水田関係)				
1	藤井 弘志 森 静香	「水稲」育苗試験, ケイ酸資材試験, デジタルカメラ用	水田 30a 2枚	27.4 ~ 27.10
2	加来 伸夫	水田微生物燃料電池の特性の解析	水田 20m ²	27.4 ~ 28.3
3	星野 友紀	つや姫の環境適応カスタマイズ改良 による生産力強化のための実験系統 群の作出 世界のイネコアコレクションを用いた 根の呼吸能力の測定 イネ出穂期関連遺伝子の発現ネット ワーク制御の解明	水田 8a	27.5 ~ 27.10
4	角田 憲一	水田における化学肥料由来窒素の動態	水田 30a	27.4 ~ 27.9
5	角田 憲一	水田の稲わら管理に関する研究	水田 30a	27.4 ~ 27.9
6	佐々木由佳	側条施肥移植機導入による施肥効率 と作業性の評価	水田 30a	27.4 ~ 27.9
7	佐々木由佳	S S N Mによる水稲の窒素施肥管理 の有効性	水田 30a	27.4 ~ 27.9
8	佐々木由佳	ケイ酸質資材の長期運用が水稲およ び土壌のケイ酸含有量に与える影響	水田 30a	27.4 ~ 27.9
9	佐々木由佳	画像解析による植物の生育状況の評 価に関する研究	水田 30a	27.4 ~ 28.3
10	小林 隆	イネ紋枯病の被害が収量および品質 に及ぼす影響	水田 10a	27.5 ~ 27.9
11	佐藤 智	マルタニシの生態と水稲栽培におよ ぼす影響	水田 8a	27.4 ~ 28.3
12	佐藤 智	持続的新水田農法の開発	水田 30a	27.4 ~ 28.3
13	片平 光彦	水稲直播栽培に関する研究	水田 30a	27.4 ~ 27.11

14	片平 光彦	水田転換ほ場での野菜・畑作の栽培作業技術に関する研究	水田 4a	27.4	～	28.3
(畜産関係)						
15	堀口 健一 松山 裕城	各種飼料の第一胃内消化性の検討	畜舎 放牧場	27.4	～	28.3
16	堀口 健一 松山 裕城	反芻家畜における地域未利用資源の飼料化とその利用に関する研究	畜舎 放牧場	27.4	～	28.3
17	堀口 健一 松山 裕城	堆きゅう肥を施用した飼料作物の栽培およびサイレージ品質に関する研究	ほ場	27.4	～	27.10
18	松山 裕城	飼料価値を評価するために用いるルーメンフィステル装着牛の更新	畜舎	27.4	～	27.10
19	松山 裕城	飼料用米（ソフトグレインサイレージ）の栄養価の測定	畜舎	27.6	～	27.11
20	松山 裕城	飼料の利用効率を高める資材の探索・評価	畜舎	27.6	～	27.11
(蔬菜関係)						
21	江頭 宏昌	日本在来カブの類縁関係に関する研究	ほ場 1a	27.4	～	27.6
22	江頭 宏昌	ダダチャ豆系統の食味成分分析と近赤外分光法による食味成分の非破壊分析法の開発	畑 5a	27.6	～	27.10
23	笹沼 恒男	ムギ類, ベニバナ, トウガラシの多様性解析及びその育種学的応用研究	畑 3a	27.4	～	28.3
24	池田 和生	ベニバナアマにおける異型花型自家不和合性に関する研究	畑 10a	27.4	～	28.3
25	池田 和生	山形在来なすの果実特性に関する研究	畑 10a	27.4	～	27.11
26	及川 彰	ダダチャマメ香気成分の生合成経路の解明	ガラス室 1 0m ²	27.4	～	27.10
27	星野 友紀	ダダチャマメの遺伝学的解析に必要な実験材料の作出 新規なエダマメ品種の開発 ダダチャマメとダイズを識別可能なDNAマーカーの開発 ダイズ脂肪酸突然変異体のDNA変異様式の解明	畑 5a	27.5	～	27.11
(果樹関係)						
28	池田 和生	ヤマブドウ在来系統群の特性解明	果樹園 10a	27.4	～	28.3

農場教職員科学研究費等申請課題

表Ⅱ-2 科学研究費

No.	区分	担当者	研究課題
1	若手 (B)	池田 和生	セイヨウナシ枝変わりの赤着色変異機構の解明と育種的利用
2	基盤 (B)	池田 和生	ゲノミクス・トランスクリプトミクスのアプローチによる異形花型不和合性の機構解明
3	基盤 (C)	池田 和生	アケビの後発型自家不和合性機構の解明と果実生産に及ぼす影響

表Ⅱ-3 その他経費

地 (知) の拠点整備事業地域志向教育研究経費

No.	担当者	研究課題
1	佐々木由佳	良質な飼料用米・稲わら生産に基づく農業生産サイクルの構築

共同研究

No.	担当者	研究課題
1	池田 和生	鶴岡市農業振興協議会 「庄内柿への石灰肥料効果に関する研究」

JST-JICA 地球規模課題対応国際科学協力プログラム (分担)

No.	担当者	研究課題
1	佐々木 由佳	テーラーメイド育種と栽培技術開発のための稲作研究プロジェクト

2. 研究業績 (2015年4月~2016年3月)

学報等

1. 笹沼恒男 (2015) 「ベニバナの食品単価色素収量の増加及び安定化に向けた遺伝育種学的研究」日本食品化学研究振興財団第 21 回研究成果報告書, 74-80.

学会誌

1. OTAKE, T., SHINDO, H., HONJO, M., SAITO, M., KATAHIRA, M., NATSUGA, M. 2015: Studies of Power Farming Systems of Welsh Onion Cultivation (Part 1) —Optimization of chain pot connection—.ASABE, Paper Number: 152180882, 2015
2. 大竹智美・進藤勇人・齋藤雅憲・片平光彦・夏賀元康 2015: 施肥同時溝切り機を用いた長ネギの省力栽培技術に関する研究 (第3報), 農業食料工学会東北支部報, 62巻, 25-28.
3. 大竹智美・本多祐介・荒木宝・白土宏之・菅原金一・片平光彦・夏賀元康

- 2015：水稻の代かき同時散播機の作業特性，農業食料工学会東北支部報，62巻，9-12.
4. 今野真輔・片平光彦・夏賀元康 2015：水田農業機械の作業時における燃料消費量に関する研究（第1報），農業食料工学会東北支部報，62巻，5-8.
 5. 佐藤麻衣・田邊大・片平光彦・夏賀元康 2015：水田転換ほ場での機械化作業体系の確立(第1報)，農業食料工学会東北支部報，62巻，1-4.
 6. Weiguo Cheng, Miwa Takei, Chizuru Sato, Valensi Kautsar, Yuka Sasaki, Satoru Sato, Keitaro Tawaraya, Hironori Yasuda (2015) Combined use of Azolla and loach suppressed paddy weeds and increased organic rice yield: second season results. *Journal of Wetlands Environmental Management* 3, 1-13

口頭発表

1. 佐藤麻衣・片平光彦・夏賀元康 2016：水田転換圃場での機械化作業体系の確立（第2報），日本農作業学会春期大会，2016/3/23～3/24，宮城大学
2. 今野真輔・小野瑞季・片平光彦・夏賀元康 2016：農業機械の作業時における燃料消費量に関する研究（第1報），日本農作業学会春期大会，2016/3/23～3/24，宮城大学
3. 大竹智美・進藤勇人・齋藤雅憲・片平光彦・夏賀元康 2015：施肥同時溝切り機を用いた長ネギの省力栽培技術に関する研究（第2報），農業環境工学関連5学会2015合同大会，2015/9/14～9/18，岩手大学
4. 大竹智美・片平光彦・増山知也・進藤勇人・齋藤雅憲・夏賀元康 2015：施肥同時溝切り機を用いた長ネギの省力栽培技術に関する研究（第3報），農業環境工学関連5学会2015合同大会，2015/9/14～9/18，岩手大学
5. 今野真輔・小野瑞季・片平光彦・夏賀元康 2015：農業機械の作業時における燃料消費量に関する研究（第1報），農業環境工学関連5学会2015合同大会，2015/9/14～9/18，岩手大学
6. 佐藤麻衣・田邊大・片平光彦・夏賀元康 2015：水田転換圃場での機械化作業体系の確立(第1報)，農業環境工学関連5学会2015合同大会，2015/9/14～9/18，岩手大学
7. 大竹智美・片平光彦・夏賀元康・進藤勇人・齋藤雅憲 2015：施肥同時溝切り機を用いた長ネギの省力栽培技術に関する研究（第3報），農業食料工学会東北支部会，2015/8/20～8/21，秋田県立大学
8. 片平光彦・白土宏之・菅原金一・荒木宝・大竹智美・夏賀元康 2015：水稻の代かき同時散播機の作業特性，農業食料工学会東北支部会，2015/8/20～8/21，秋田県立大学
9. 今野真輔・片平光彦・夏賀元康 2015：水田農業機械の作業時における燃料消費量に関する研究（第1報），農業食料工学会東北支部会，2015/8/20～8/21，秋田県立大学
10. 角田憲一・土田健太・佐々木由佳 (2015.9) 地力窒素を活用した施肥法による施肥窒素の削減. *日本土壤肥料学会講演要旨集*61, 101
11. Minc Aime Mutabazi, Ken-ichi Kakuda, Yuka Sasaki (2015.9) Development of site-specific nutrient management combined with side dressing method for efficient use of nitrogen fertilizer. *日本土壤肥料学会講演要旨集* 61, 104
12. Dewi ViraKusuma・Hironori Yasuda 2015：水田においてイネの生育と水生生物の群集構造にタニシが及ぼす影響は陸生節足動物群集構造も変化させる第59回日本応用動物昆虫学会大会平成27年度日本農学会大会分科会，第59回日本応用動物昆虫大会公演要旨集，p37
13. 岩澤 薫・佐藤 智 2015：2種の機械除草法が節足動物の発生に与える影響，第59回日本応用動物昆虫学会大会平成27年度日本農学会大会分科会，第59回日本応用動物昆虫大会公演要旨集，p55
14. 鈴木 理・佐藤 智 2015：農法が畦畔と水田地表性クモ類の発生量に及ぼす影響，第59回日本応用動物昆虫学会大会平成27年度日本農学会大会分科会，第59回日本応用動物昆虫大会公演要旨集 p62
15. 2015年9月11日 日本育種学会第128回講演会（新潟大学）
笹沼恒男，高橋優利佳，相澤由佳里，青柳沙緒莉，阿部利徳「2012-2014年の主要形態形質調査に基づくベニバナ遺伝資源の評価」
16. 2015年9月12日 日本育種学会第128回講演会（新潟大学）

赤池隆亮, 柿崎彩佳, 笹沼恒男「北コーカサスで採集されたタルホコムギ遺伝資源の穂の形態及び製パン性の評価」

17. 2015年11月6日 第36回種子生理生化学研究会年会(松本市)

赤池隆亮, 柿崎彩佳, 笹沼恒男「北コーカサスで採集されたタルホコムギの種子形態及び製パン性に関する遺伝育種学的評価」

ポスター発表

1. 川上珠恵・吉田拓也・石川衿子・阿部勝磨・後藤元・中場勝・星野友紀 2015: 逆遺伝学的解析に適応した水稻品種「つや姫」DEB 突然変異集団の作出と評価, 日本育種学会第128会講演会要旨集, 17-2, 169.
2. 上村千穂・川上珠恵・相澤拓・橋本阿佐美・吉田拓也・芳士戸啓・王莫非・飯島信繁・畑昌和・森茂太・星野友紀 2015: 収量性の向上を目指した水稻品種群における器官別呼吸速度の比較, 東北植物学会第5会大会研究発表記録, 36.
3. 川上珠恵・吉田拓也・石川衿子・阿部勝磨・後藤元・中場勝・星野友紀 (2015): 「つや姫」DEB 突然変異集団からのデンプン代謝系突然変異体の単離, 東北植物学会第5会大会研究発表記録, 37.
4. 吉田拓也・川上珠恵・石川衿子・阿部勝磨・阿部洋平・後藤元・中場勝・星野友紀 2015: 「つや姫」DEB 突然変異集団の作出と出穂期突然変異体の単離, 東北植物学会第5会大会研究発表記録, 38.
5. 森茂太・王莫非・芳士戸啓・相澤拓・星野友紀・上村千穂・川上珠恵・橋本阿佐美・吉田拓也・山路恵子 2015: 網羅的な陸上植物個体の地上部と根系の呼吸分配バランスの法則性, 東北植物学会第5会大会研究発表記録, 74.

流域保全部門

流域保全部門は、「森林計画」を基本に、教育研究、社会連携、森林管理等を実施している。

平成27年度の報告は、第8次森林計画（平成26年～35年）に基づき立案された「平成26年度森林計画」の実行に関する概況である。

I. 教育・研究林としての利活用

1. 教育

演習林に関連する授業科目を表-1に示す。

表-1 演習林に関連する授業科目

科目名	学年	開講期	単位数	実施方法
学士課程				
フィールド科学のテクニク	全学年	前期	1	夏期集中
やまがたフィールド科学Ⅱ	全学年	後期	2	冬期集中
1年生夏期セミナー	1	前期	1	夏期集中
生物環境学へのアプローチ	1	後期	2	週1回
流域保全論	2	前期	1	週1回
生物環境学実験実習	2	前期	1	週1回
フィールドサイエンス実習Ⅲ	2	前期	1	夏期集中
流域保全実習	2	前期	1	夏期集中
雪山実習	2	後期	1	春期集中
森林雪氷学	3	前期	2	週1回
森林生態学実験実習Ⅰ	3	前期	1	前期集中
自然環境調査実験実習	3	前期	1	夏期集中
森林測量学実習	3	前期	1	夏期集中
河川環境調査実験実習	3	前期	1	夏期集中
森林資源利用学実験実習	3	後期	1	後期集中
森林生態学実験実習Ⅱ	3	後期	1	後期集中
卒業論文（研究指導）	3・4	前後	10	
大学院修士課程				
森林雪氷学特論	1	後期	2	集中
森林雪氷学特別演習	2	前後	4	集中
生物環境学特別研究	1・2	前後	8	集中

このうち、流域保全部門が主体となって実施した学部科目の授業概要を以下に記す。

(1) やまがたフィールド科学Ⅱ（雪との共生－雪国の自然と生活－）

一般教育科目「生命・環境」領域の教養セミナーとして全学部の学生を対象に平成13年度より開講しており、演習林における教科の全学開放の一つとしても位置づけられている科目である。今年度は、平成28年1月5日～8日の冬季休業期間に上名川演習林の宿泊施設を利用し、TAの協力を得ながら集中合宿・自炊方式で実施した。

(2) 流域保全論

学部共通2年次前期の選択科目として平成11年度より開講している。授業のねらいは、私たちの暮らしを守り、快適に、豊かにしてくれる森林について広い視点からとらえ、森林の恵みを将来にわたって上手に利用していくためには何が必要かを論議し、森林とのつきあい方のあるべき姿について学ぶことである。授業は講義と上名川演習林におけるエクスカージョンとにより、グローバルな環境問題と深い関わりをもっている森林資源の実状について、わが国内外の様子を紹介したあと、森林の環境形成作用、森林と環境との相互作用、森林の有する多岐にわたる公益的機能のしくみ等について明らかにし、環境保全的な森林の取り扱い方に関する理論と実践について学習した。

(3) 流域保全実習

食料生命環境学科の2年次前期の選択科目として平成14年度より開講している。今年度は9月25日～27日の夏季休業期間に上名川演習林の宿泊施設を利用し、集中合宿・自炊方式で実施した。授業のねらいは、グローバルな環境問題と深い関わりを持っている森林の多面的な働きについて、森林体験を通じて理解を深め、森林を健全な状態で持続的に維持していくための具体的な方法を修得することである。

(4) 雪山実習

2年前期の「森林雪氷学」に対応する実習として位置づけており、学部共通2年次後期の選択科目として平成11年度より開講している。授業のねらいは、雪国の森林や人々の生活に多大な影響を与える積雪環境について理解を深め、克雪から利雪、親雪へ向けての展望に関心を持ってもらうことである。

2. 卒業論文・修士論文・博士論文の指導

流域保全部門の研究室に学部学生（4年生2名）、修士課程（1年生1名）の学生を受け入れ、エコ農業部門および学部の教職員と共同で論文指導を行った。

3. 研究

上名川演習林および生物多様性保全研究園を利用して実施された研究テーマを表-2に示す。

表-2 上名川演習林および生物多様性保全研究園を利用して実施された研究テーマ

No.	研究代表者	共同研究者	研究テーマ	場所
1	野堀 嘉裕	遠藤 麻央	東北日本海側ブナ二次林の収量-密度図の構築	上名川演習林
2	野堀 嘉裕	岡野 達也	ブナ豊作年における年輪幅の減少	上名川演習林
3	野堀 嘉裕	沼澤 葉月	スギ人工林における未利用バイオマスの推定	上名川演習林
4	野堀 嘉裕	石井 達也	東北地方の天然性針広混交林の動態解析	上名川演習林
5	森 茂太	石田 厚 ほか	高齢スギ林の個体呼吸に関する研究	上名川演習林
6	森 茂太	山路 恵子	植物個体呼吸スケーリングのシフトに関する研究	生物多様性保全研究園
7	森 茂太		モウソウチク林の呼吸研究	生物多様性保全研究園
8	森 茂太	石田 厚 ほか	根を含む樹木の光合成・呼吸の正確な多個体実測によるシステミック生理学研究	生物多様性保全研究園
9	渡邊 一哉	山形県内水面水産試験場	サクラマス・イワナを対象としたストリームセラピー技術の確立に向けた一連研究	上名川演習林
10	藤井 秀人		豪雪地域の積雪・融雪・河川流出の変化が農業水利に与える影響	上名川演習林
11	菅野 真美		スギ心材抽出物による染色について	上名川演習林

12	赤澤 崇晃	庄内柿伐倒木をもちいたエノキダケ栽培	上名川演習林
13	松本 亮太	スギこぶ病罹病部の成分分析 2	上名川演習林
14	横須賀 龍彦	針葉樹逐次抽出物のセイタカアワダチソウ種子に対する発芽生長阻害活性	生物多様性保全研究園, 上名川演習林
15	本間 祐	鶴岡市内のミズバショウ生育地の探索と群落種組成成分分析による生育地保全手法の検討	上名川演習林
16	齋藤 伸明	山形大学上名川演習林における窒素の動態とスギの苗の生育への影響	上名川演習林
17	笹原 進太郎	山形大学上名川演習林における焼畑と斜面による土壌成分流出への影響	上名川演習林
18	杉本 大	山形大学上名川演習林における 2014~2015 年の積雪層ごとの成分について	上名川演習林
19	濱田 開示	山形大学上名川演習林における樹種ごとの土壌中炭素蓄積の違い	上名川演習林
20	伊藤 翼	砂浜と溪畔に適応するオニグルミー個体呼吸の地上部/地下部分配の可塑性ー	上名川演習林
21	野尻 優奈	温海カブにおける地上。地下部の呼吸分配ー日向・日陰での適応ー	上名川演習林

II. 生涯学習林としての利活用および地域との連携

1. 演習林施設開放事業

上名川演習林の施設開放事業の一環として、鶴岡市内の小学生を対象に、「森の学校」を7月19日(土)、10月18日(土)、2月1日(土)の3回実施し、植樹、炭焼き、バウムクーヘン作り、木の実・きのこ採取、落ち葉や草花のしおり作り、雪の特徴と雪で遊び等を行った。

2. 地域との交流 (国内と国際)

(1) 地元の名川森林保護組合が主催して毎年5月6日に定期的に行われる入山式に参加するとともに、同日に入山式懇談会を主催し、学長をはじめ多数の関係者が参集し、地元と大学関係者との交流を深めた。

(2) 中国の東北林業大学の教員(5名)が演習林の研究サイトを見学し、日本・中国で共同研究の相談も行いました。

(3) 今年度ドイツ・ハノーバー大学から受け入れた留学生4名が、演習林での地域交流事業である森の学校に積極的に参加するほか、研究も実施した。

(4) さくらサイエンスプランに採択されたプログラムで、10月に中国の東北林業大学の学生(10名)及び教員(1名)が演習林を訪問し、山形大学の日本人学生と共同ゼミを実施した。演習林の代表的なサイトを見学した他、山形大学教員の英語による講義を受講した。

(5) 1月に山形大学の日本人学生と留学生(ドイツ・中国・ボリビア・インドネシア)が演習林においてゼミ(森林・雪の共生)を実施した。

III. 教育研究支援および森林管理

1. 実習支援

演習林で実施される実習計画に基づき、事前に実習用具の準備・点検整備、刈払い、および試料提供等を行った。実習時には指導教員の指示に従い実習指導支援を行った。

2. 研究支援

学生・教員からの研究支援の要請に応えるよう、森林管理作業と調整を図りながら研究支援を行った。高所作業車での試料採取、大気成分調査への協力（山形県環境科学センター）、卒論・修論研究に関する調査の支援を行った。

3. 調査

本年度伐採地である5林班ニ施業班枝番5の立木調査、測量を行った。

4. 収穫事業

1) スギ直営生産

スギ素材生産を5林班ニ施業班枝番5にて実施し、販売した。計画量110 m³に対し、104 m³の生産、販売実績であった。採材に当たっては販売委託先である木材流通センターと連絡を取り、需要の多い寸法となるよう努めた。

2) キノコ生産

シイタケ・ナメコ・ヒラタケの生産を行った。販売実績はそれぞれ3.4kg、5.5kg、35.4kgであった。昨今の虫害発生状況より伏せ込地の変更を行っているが虫害は収まらず、来年度以降も変更を検討していく。

3) カブ生産

5林班ニ施業班枝番5において焼払い地拵えを行い、その後赤カブを栽培した。販売実績は563kgであった。

4) 製炭

ブナ材を用い、製炭作業を行った。販売実績は220kgであった。

5. 育林作業

1) 地拵え

5林班ニ施業班枝番5（0.20ha）に対し焼払い地ごしらえを行った。

2) 新植・補植

本年度実施せず。

3) 下刈り

新植～3年目の植栽地に対し2回/年、4～6年目の植栽地に対して1回/年行った。

樹種	林班	面積 (ha)	植栽年
スギ	5林班ニ施業班 (枝3)	0.23	2010
スギ	12林班ニ施業班 (枝2)	0.32×2	2011
スギ	4林班ソ小班 (枝3)	0.2	2014

4) 防火帯

早田川右岸南側3.6kmを計画したが林道の復旧がすすんでおらず、また通行が危険な状況だったため、実施を見合わせた。

6. 土木作業

1) 林道

早田線沿いの沢について、降雨後土砂の流下が発生したため、土砂の撤去・排水の確保を行った。芦沢・大徳沢林道に関しては、重機の進入可能な範囲において土砂撤去、排水路の確保を行い、被害の拡

大、新たな災害の発生抑止に努めた。

2) 歩道

要請がなかったため実施しなかった。

3) その他

降雨後の林道の巡視、積雪時の橋幅員の確認用支柱の設置、橋の雪下ろし、冬期通勤路における補修、雪崩の復旧作業等を行った。

7. 管理作業

1) 車両

車両の点検・整備は事故防止につながることから、使用前に点検・整備を行った。

2) 建物

管理棟・格納庫・仮設物および分室等の維持管理のための雪下ろしおよび補強、雪下ろし後の除雪および除雪機具の手入れ等を行った。

3) 整理

実習前・後に特に管理棟内外の整理・清掃を行った。

4) その他

入山式関連の諸準備、案内板・表示板を設置および撤去、入林者の送迎を行った。
また、高所作業車による送電線への支障木の撤去を行い、断線・漏電防止に努めた。

8. 製炭作業

材料のブナの伐採、運搬、調整を行い、220kg を販売した。

9. 苗畑作業

1) 樹木管理

見本林、樹木園の草刈り、道路・隣地との境界の支障木除去・枝払いを行った。

2) その他

学生や教員の要請に応じて耕耘、畝の作成等を行った。

10. 会議等

実習打合せ、健康診断、各種行事・委員会、センター試験補助、業務説明会等への出校。

11. 演習林開放事業

演習林施設開放事業として、鶴岡市内の小学3・4年生を対象とした『森の学校』を夏季(7月)、秋季(10月)、冬季(1月)に開催した。

12. 調書作成等

作業計画・実績、作業・運転日誌等の整理、報告等を行った。

【 本年度特徴 】

- ・公開森林実習として、雪山実習への受け入れを行った。
- ・ArcGIS、GPSを用いた林班図および森林管理の更新を行った。
- ・伐採跡地に火入れを行い、赤カブの栽培を行った。
- ・2013年7月の集中豪雨により被害を受けた小荒沢、芦沢・大徳沢林道の災害復旧工事が完了した。

社会教育部門

1. H27 年度の総括

【国際貢献部門】

○JICA 短期研修生の受け入れについて（7年目の受入れ）

- ・ アフリカ稲作収穫後処理コース（英語圏）
- ・ 平成27年8月17日～9月25日
- ・ アフリカ12カ国16名の研修生
- ・ 受け入れのコーディネーター：夏賀元康教授

○教育強化

- ・ 関連授業の実施（国際フィールド協力論、国際理解）
- ・ 国際農業経済論（2011年度後期～）

6. 農学部図書館の概要等

昭和24年 5月	山形大学附属図書館農学部分館	発足
昭和47年12月	〃	竣工
平成3年 4月	受入業務を最後に全面的に電算化へ移行	
平成8年 4月	平日の時間外開館20時までとなる	
平成10年10月	土・日の時間外開館開始（13時～17時）	
平成15年 3月	山形大学附属図書館農学部分館	改修・増築
	面積 969㎡	収容可能冊数 58,000冊 座席数 120席
平成17年11月	土・日の時間外開館拡大（10時～17時）及び祝・休日の開館開始（10時～17時）	
平成20年 1月	平日の開館時間延長（8時45分～21時15分）	
平成21年 4月	平日の開館時間短縮（8時45分～21時）	
平成21年10月	「山形大学農学部図書館」に名称を変更	

開館時間

曜日	通常期	休業期(※)	※夏季休業	8.2～9.30
月～金	8時45分～21時	8時45分～17時	冬季休業	12.25～1.10
土・日・祝・休日	10時～17時	閉館	春季休業	2.20～

蔵書数 (28.3.31 現在)

和書	82,416	洋書	17,179	計	99,595
----	--------	----	--------	---	--------

入館者数 (カッコ内は1日平均)

年度	平日	土・日・祝・休日	計
25	44,488 (186)	4,770 (63)	49,258 (156)
26	42,656 (178)	4,641 (59)	47,297 (149)
27	42,762 (179)	5,546 (69)	48,308 (151)

文献複写件数

年度	学内からの受付	学外からの受付	学外へ依頼
25	21	151	297
26	42	123	263
27	27	109	151

7. 大型設備の設置状況

	一般設備費	特別設備費	特別教育研究経費	施設整備補助金	設備整備補助金	備考
昭和62年度		作物群落生理測定装置				
平成2年度	エネルギー分散形X線分析装置					電子顕微鏡
3年度	物性精密計測試験装置					人工気象装置
6年度	ガスクロマトグラフ質量装置					
7年度		高性能質量分析装置				
		栽培環境条件設定装置				ファイトトロン
8年度	フリーラジカルモニタ					
9年度	3次元データビジュアル化解析システム	遺伝情報解析装置				
10年度		スペースコロボレーションシステム				
11年度		農業用ロボット実験システム				
15年度		環境負荷軽減物質成分分析システム				
21年度			地域在来作物の高度化利用研究 (質量分析装置)	微量成分解析装置	N・C安定同位体比測定用質量 分析システム	
22年度			地域在来作物の高度化利用研究 (共焦点レーザー顕微鏡)			
23年度					積雪寒冷地農林業気象観測システム 植物・土壌成分分析システム	
24年度			新・里山生態系管理システムの構築 (ガスクロマトグラフ質量分析装置) (高所作業台車)		卓上走査型電子顕微鏡 開放型光合成蒸散測定システム	
26年度				高分解能核磁気共鳴装置		NMR

8. 鶴岡キャンパスの名称・所在地，土地・建物の概要

山形大学農学部

〒997-8555 鶴岡市若葉町1-23
 TEL 0235-28-2805
 FAX 0235-28-2812
 ホームページアドレス <http://tdsl.tr.yamagata-u.ac.jp/>

山形大学農学部附属やまがたフィールド科学センター高坂農場

〒997-0369 鶴岡市高坂字古町5-3
 TEL 0235-24-2278
 FAX 0235-24-2270

山形大学農学部附属やまがたフィールド科学センター上名川演習林

〒997-0405 鶴岡市上名川字早田川10
 TEL 0235-53-2755
 FAX 0235-53-2755

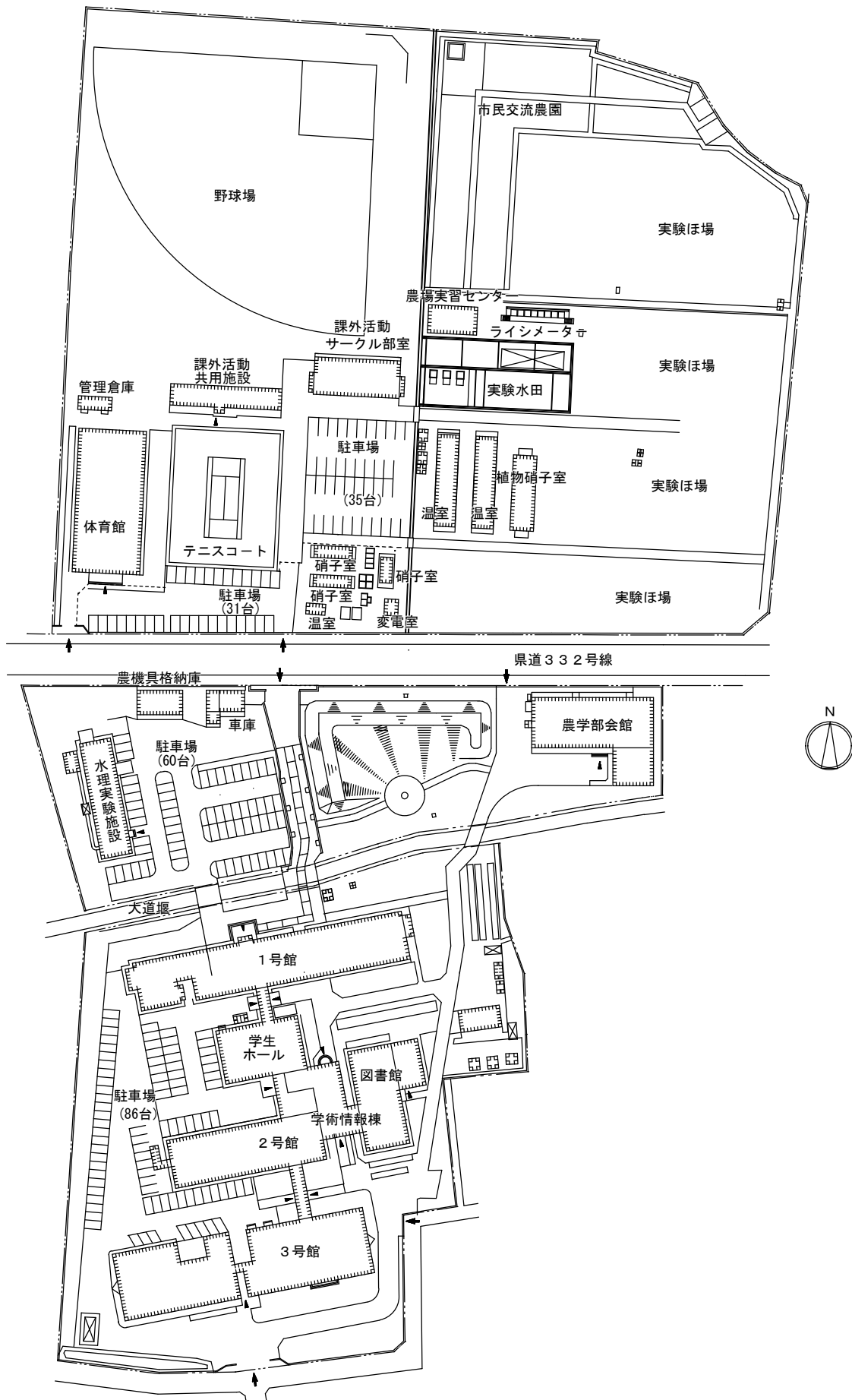
土地

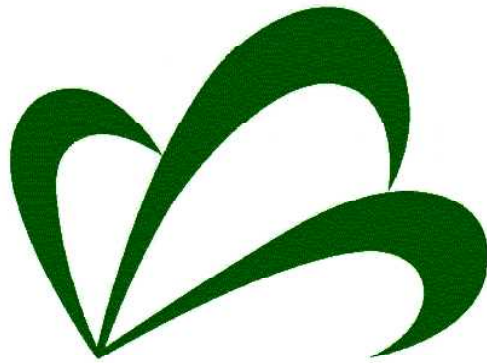
区分	面積 (㎡)
農学部	62,506
農学部附属やまがたフィールド科学センター高坂農場	240,655
農学部附属やまがたフィールド科学センター上名川演習林	7,530,908
農学部附属やまがたフィールド科学センター生物多様性保全研究園	7,871
学生寮 (啓明寮)	6,756
職員宿舍	4,318
計	7,853,014

建物

区分	構造	築年度	面積 (㎡)
水理実験施設	S1	平成17	321
3号館	SR6	平成15	3,266
3号館	SR6	平成12	3,103
2号館	R5	昭和47	3,431
学生ホール棟	R1	昭和46	427
1号館	R5	昭和44	5,795
図書館	R2	昭和47	820
学術情報棟	S2	平成14	384
学術情報基盤センター	R1	昭和61	112
農学部会館	R2	昭和51	1,090
体育館	S2	昭和45	1,083
課外活動施設棟	R2	昭和57	406
	S2	平成20	572
その他			1,041
計			21,851

配置図





Yamagata University
Faculty of Agriculture